浜松市　子どもの生活実態調査

調査報告書

令和６年３月

浜 松 市

目　次

Ⅰ　子ども･保護者調査･･ 1

１．調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（１）子どもの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

①学習・教育

②健康・生活習慣

③社会性・将来の自立

（２）保護者の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

①家庭の経済的困窮の状況

②就労と子育ての両立

③保護者の孤立・悩み

（３）各種支援・サービスの活用・認知状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

①保護者の事業利用状況

②情報収集の現状と今後のニーズ

（４）貧困対策事業の利用ニーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

①子どものニーズ

②保護者のニーズ

（５）16～17 歳の勤労状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

①勤労状況

②稼いだお金の用途

（６）自由意見まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

Ⅱ　支援者アンケート･･･77

１．調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

２．調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

（１）アンケート調査まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

（２）記述意見まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88

Ⅲ　付録･･･91

１．アンケート調査票

２．集計結果

Ⅰ　子ども・保護者調査

１．調査概要

（１）調査目的

本調査は、浜松市が子ども支援の充実を図るにあたり、子育てや子どもの生活実態を把握し、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的に実施した。

（２）調査事項

保護者調査	子ども調査
・あなたと世帯のことについて	・あなたのことについて
・お子さんの両親について	・健康や食事のことについて
・家計状況について	・ふだんの生活のことについて
・お子さんとの関わりやお子さんの将来について	・学校生活や勉強のことについて
・子育ての悩みや子育て支援の制度について	・ふだん感じていることについて

（３）調査実施概要

①調査地域　浜松市全域

②調査対象　市内の小学 5 年生 2,500 人、中学 2 年生 2,500 人、その保護者 5,000 人（5,000 世帯）
市内の 16～17 歳 2,500 人、その保護者 2,500 人（2,500 世帯）

③抽出方法　住民基本台帳から無作為抽出

④調査方法　質問紙郵送法

⑤調査期間　令和 6 年 1 月 1 日～令和 6 年 1 月 25 日

（４）回収状況（世帯ベース）

	発送数	有効回収数	有効回収率
小５・中２	5,000 世帯	2,292 件	45.8%
16～17 歳	2,500 世帯	853 件	34.1%

（５）回答者の属性

①子ども調査

学年等

小学 5 年生	中学 2 年生	16～17 歳	無回答
1,206 人	1,058 人	853 人	28 人
38.3%	33.6%	27.1%	0.9%

②保護者調査

子から見た関係（小 5・中 2）

父親	母親	その他	無回答
384 人	1,885 人	13 人	10 人
16.8%	82.2%	0.6%	0.4%

子から見た関係（16～17 歳）

父親	母親	その他	無回答
164 人 19.2%	683 人 80.1%	4 人 0.5%	2 人 0.2%

現在の婚姻状況（小 5・中 2 ）

結婚している （再婚、事実婚を含む）	離婚 （別居中を含む）	死別	未婚	無回答
2,069 人 90.3%	180 人 7.9%	24 人 1.0%	12 人 0.5%	7 人 0.3%

現在の婚姻状況（16～17 歳）

結婚している （再婚、事実婚を含む）	離婚 （別居中を含む）	死別	未婚	無回答
720 人 84.4%	111 人 13.0%	17 人 2.0%	3 人 0.4%	2 人 0.2%

（６）本調査における困窮状況の区分の定義

厚生労働省が公表している算出方法では、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯を「相対的貧困層」としている。

本調査においては、保護者用調査「問４」で世帯人数を、保護者用調査「問 14」で可処分所得（50 万円幅の区分による選択方式）についての回答を得ており、下図のとおり「困窮群」「困窮予備群」「一般群」に区分した。

なお、本区分は目安であり、困窮群等に区分されたすべての世帯が、実際に困窮しているということではない。

＜世帯人数ごとの困窮群・予備群とみなす区分＞

（保護者用問4）世帯員数	国調査における貧困線	困窮群とみなす回答区分	困窮予備群（中央値の3/4）	予備群とみなす回答区分	（保護者用　問14）1～3 150万円未満	4 150万円～200万円未満	5 200万円～250万円未満	6 250万円～300万円未満	7 300万円～350万円未満	8 350万円～400万円未満	9 400万円～450万円未満	10 450万円～500万円未満	11 500万円～550万円未満	12～20 550万円～1000万円未満	21 1000万円以上	22 わからない	無回答
２人世帯	179万円	200万円未満	268万円	300万円未満		★		☆									
３人世帯	219万円	250万円未満	329万円	350万円未満			★		☆								
４人世帯	253万円	300万円未満	380万円	400万円未満				★		☆							
５人世帯	283万円	300万円未満	424万円	450万円未満				★			☆						
６人世帯	310万円	350万円未満	465万円	500万円未満					★			☆					
７人世帯	335万円	350万円未満	502万円	550万円未満					★				☆				
８人以上世帯	358万円	400万円未満	537万円	550万円未満						★			☆				
無回答																	

R3 国調査の中央値　254 万円

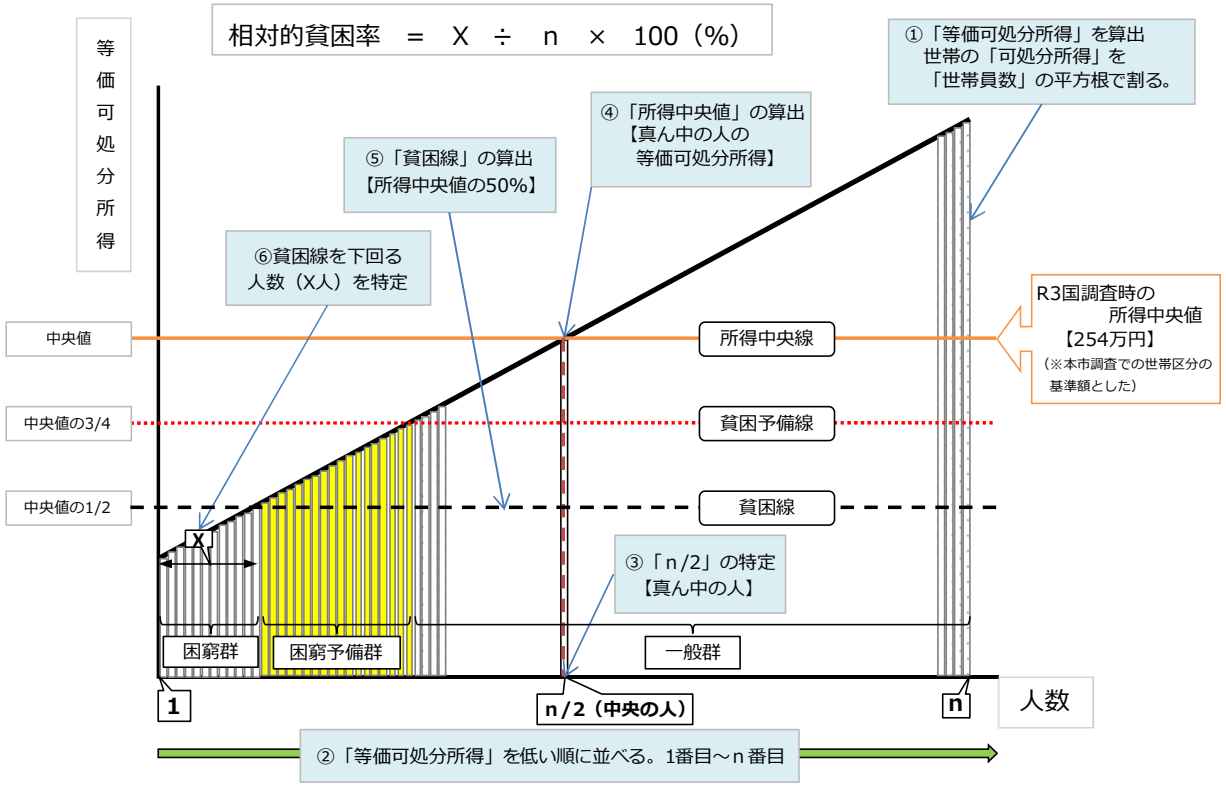
◆困窮群（中央値の1/2以下）

◆困窮予備群（中央値の1/2～3/4）

◆一般群（中央値の3/4以上）

	小 5・中 2	16～17 歳	合計
▸生活困窮群　：等価可処分所得が中央値の 1/2 以下相当	131 人	66 人	197 人
▸困窮予備群　：等価可処分所得が中央値の 1/2 超 3/4 以下相当	208 人	78 人	286 人
▸一般群　：等価可処分所得が中央値の 3/4 超相当	1, 720 人	638 人	2, 358 人
▸判定不能　：世帯人数・可処分所得が不明・無回答	233 人	71 人	304 人

【参考】等価可処分所得から困窮群等を設定する方法（貧困線等の設定の考え方）



（7）報告書内のデータ記述について

①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。

②質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。

③図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。

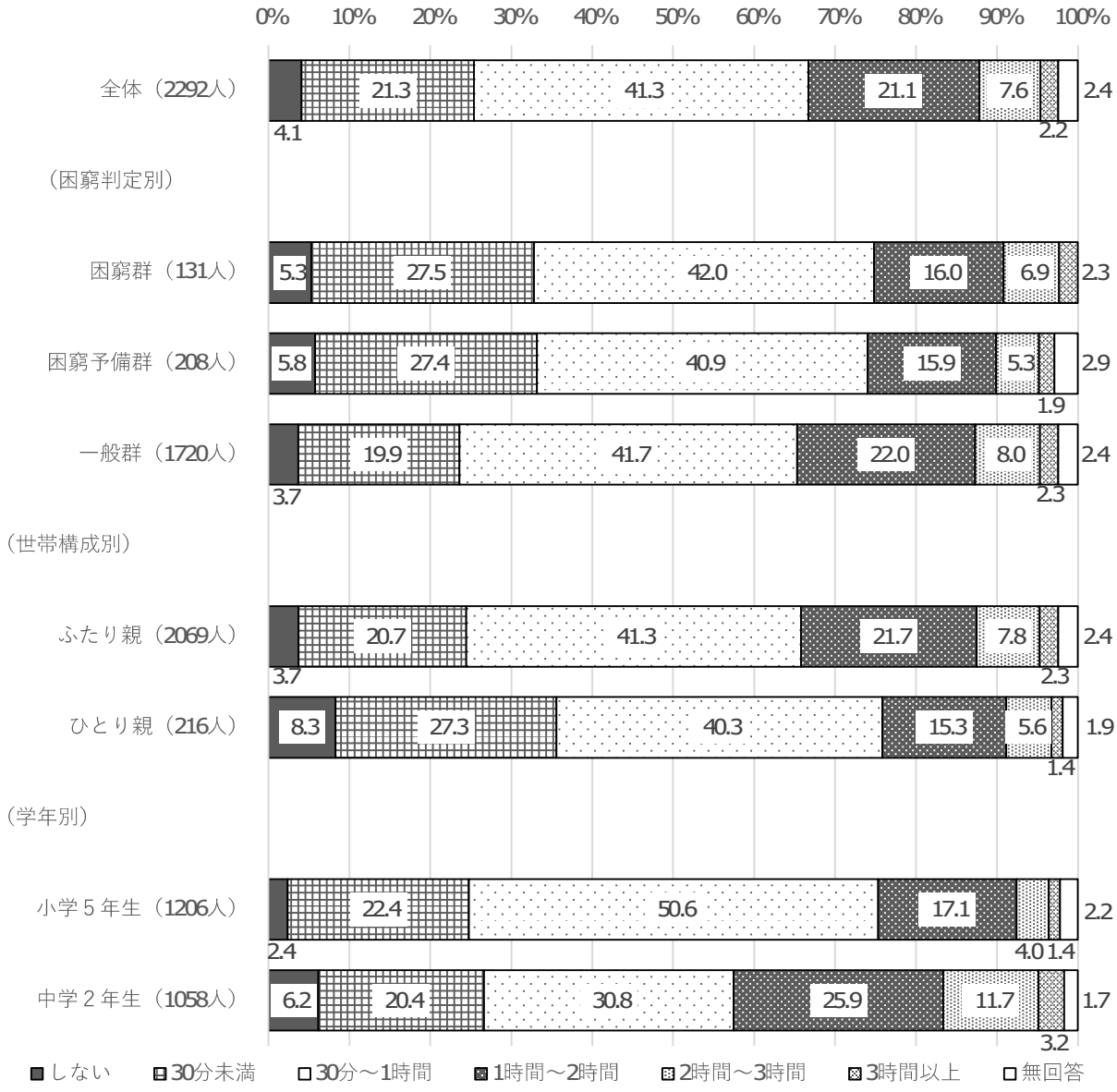
④クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

２．調査結果

（１） 子どもの状況

①学習・教育

【小５・中２】学校のある日の放課後の勉強時間（塾等含む） 「問 12－a」

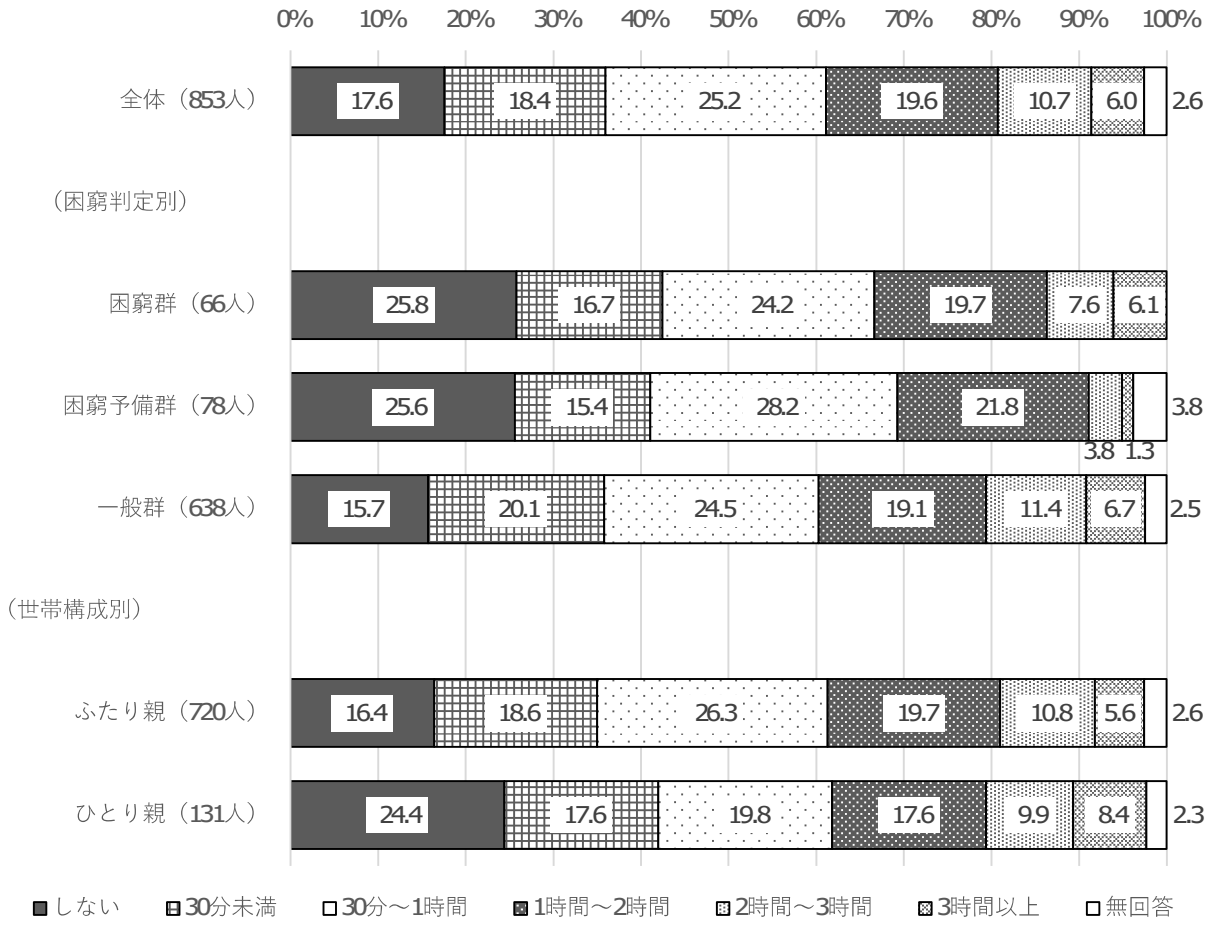


学校のある日の放課後の勉強時間（塾等含む）について、全体では「30 分～1 時間」が 41.3%で最も高かった。「しない」は 4.1%。「しない」と「30 分未満」（21.3%）を合わせた『30 分未満』は 25.4%となった。

困窮判定別に『30 分未満』の割合をみると、困窮群 32.8%、困窮予備群 33.2%、一般群 23.6%と困窮群、困窮予備群が一般群より約 10 ポイント高かった。

世帯構成別に『30 分未満』の割合をみると、ふたり親 24.4%、ひとり親 35.6%となった。

【16～17 歳】学校の放課後や仕事がない時・寝るまでの勉強時間（塾等含む）　「問 14－a」

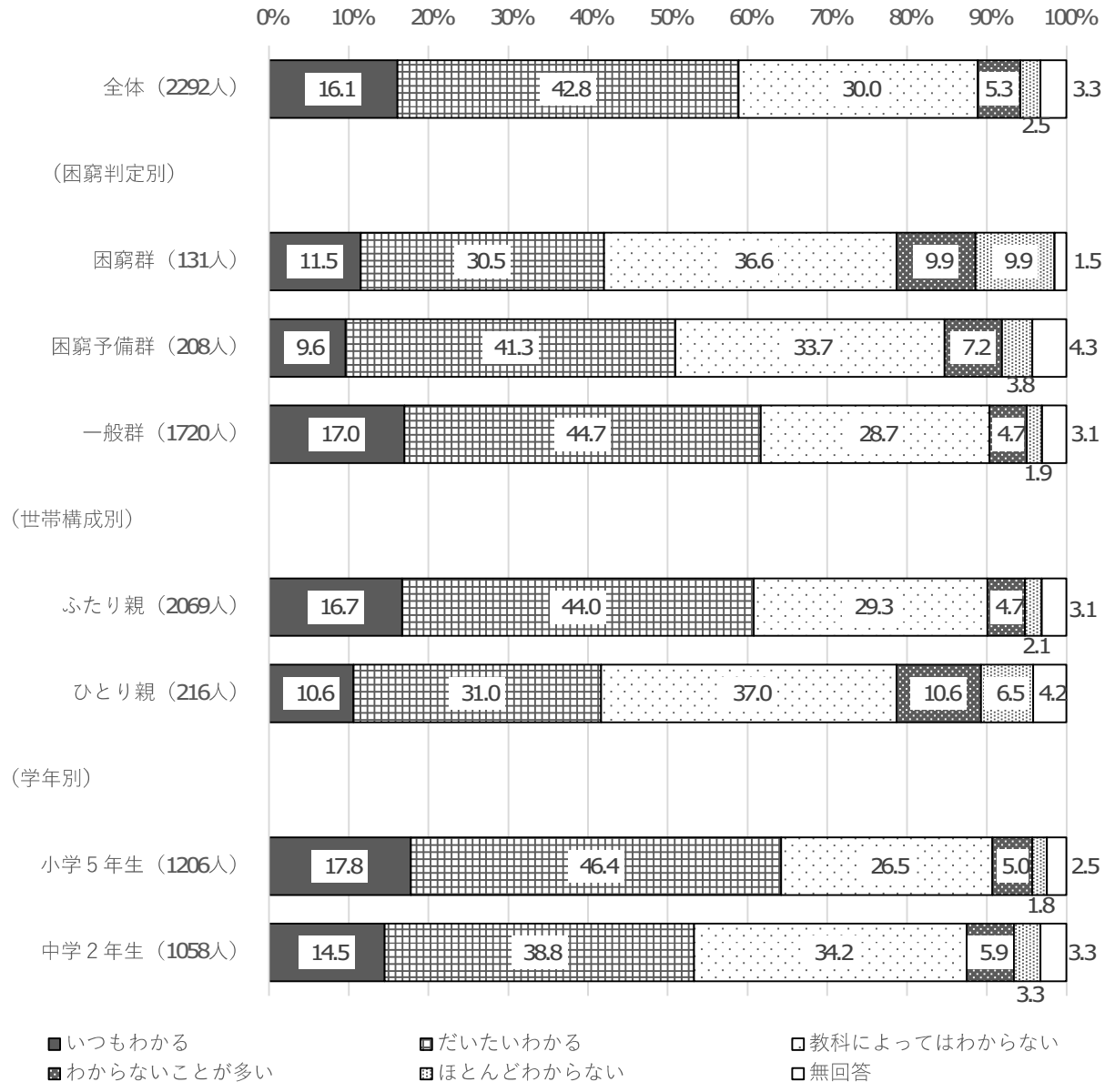


学校の放課後や仕事がない時・寝るまでの勉強時間（塾等含む）について、全体では「30 分～1 時間」が 25.2%で最も高かった。「しない」は 17.6%。「しない」と「30 分未満」（18.4%）を合わせた『30 分未満』は 36.0%となった。

困窮判定別に『30 分未満』の割合をみると、困窮群 42.5%、困窮予備群 41.0%、一般群 35.8%と困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

世帯構成別に『30 分未満』の割合をみると、ふたり親 35.0%、ひとり親 42.0%となった。

【小５・中２】学校の授業がわからないことがあるか　「問 18」



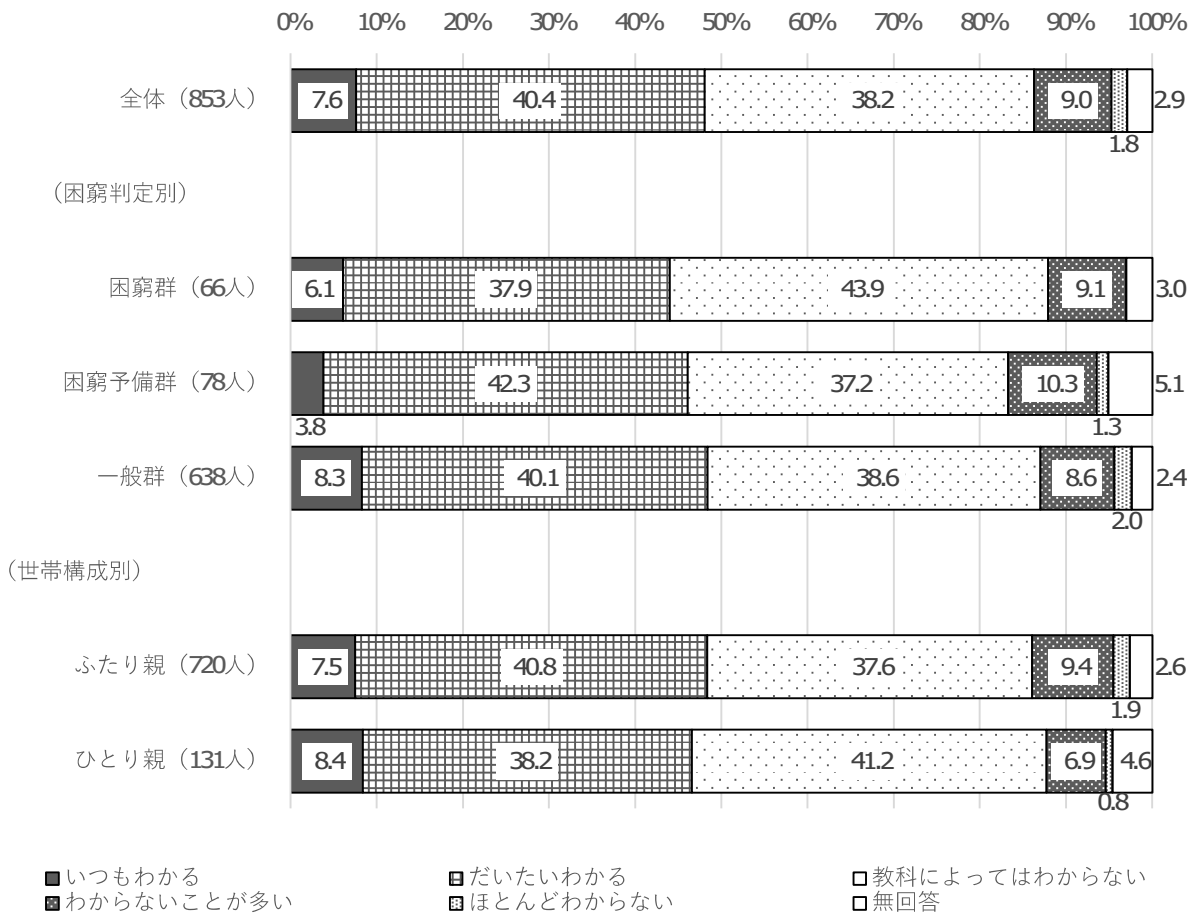
学校の授業の理解度について、全体では「いつもわかる」（16.1%）と「だいたいわかる」（42.8%）を合わせた『わかる』は 58.9%となった。「教科によってはわからない」（30.0%）、「わからないことが多い」（5.3%）、「ほとんどわからない」（2.5%）をあわせた『わからない』は 37.8%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『わかる』が低く、『わからない』が高くなっており、困窮群は『わかる』42.0%、『わからない』56.4%となった。

世帯構成別にみると、『わかる』はふたり親が 60.7%、ひとり親が 41.6%と 19.1 ポイントの差がみられた。

学年別にみると、『わかる』は小学 5 年生が 64.2%、中学 2 年生が 53.3%と 10.9 ポイントの差がみられた。

【16～17 歳】学校の授業がわからないことがあるか　「問 20」

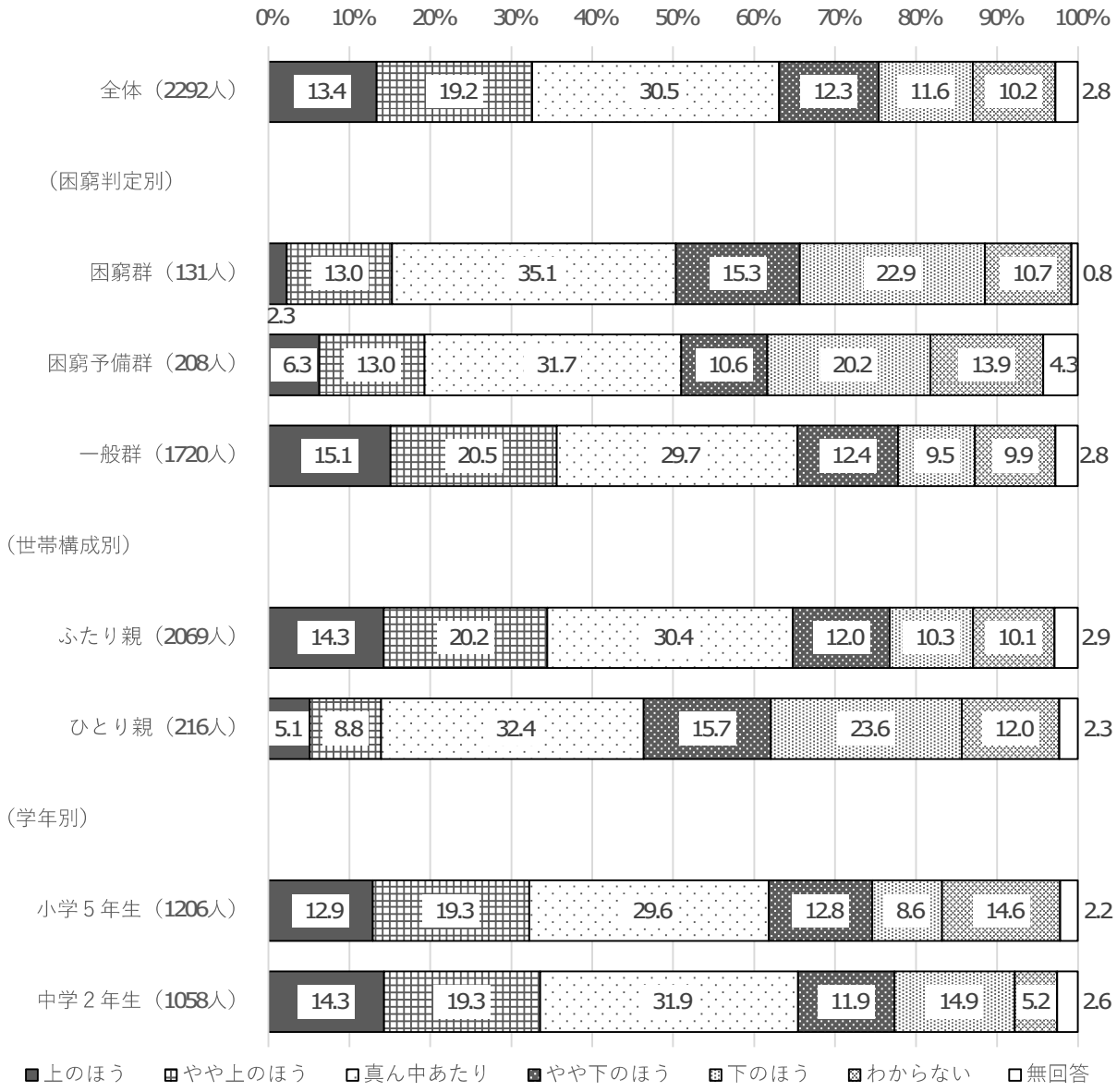


学校の授業の理解度について、全体では「いつもわかる」（7.6%）と「だいたいわかる」（40.4%）を合わせた『わかる』は 48.0%となった。「教科によってはわからない」（38.2%）、「わからないことが多い」（9.0%）、「ほとんどわからない」（1.8%）をあわせた『わからない』は 49.0%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『わかる』が低く、『わからない』が高くなっており、困窮群は『わかる』44.0%、『わからない』53.0%となった。

世帯構成別にみると、『わかる』はふたり親が 48.3%、ひとり親が 46.6%と 1.7 ポイントの差がみられた。

【小５・中２】自分の成績はクラスの中でどれくらいと思うか　「問 20」

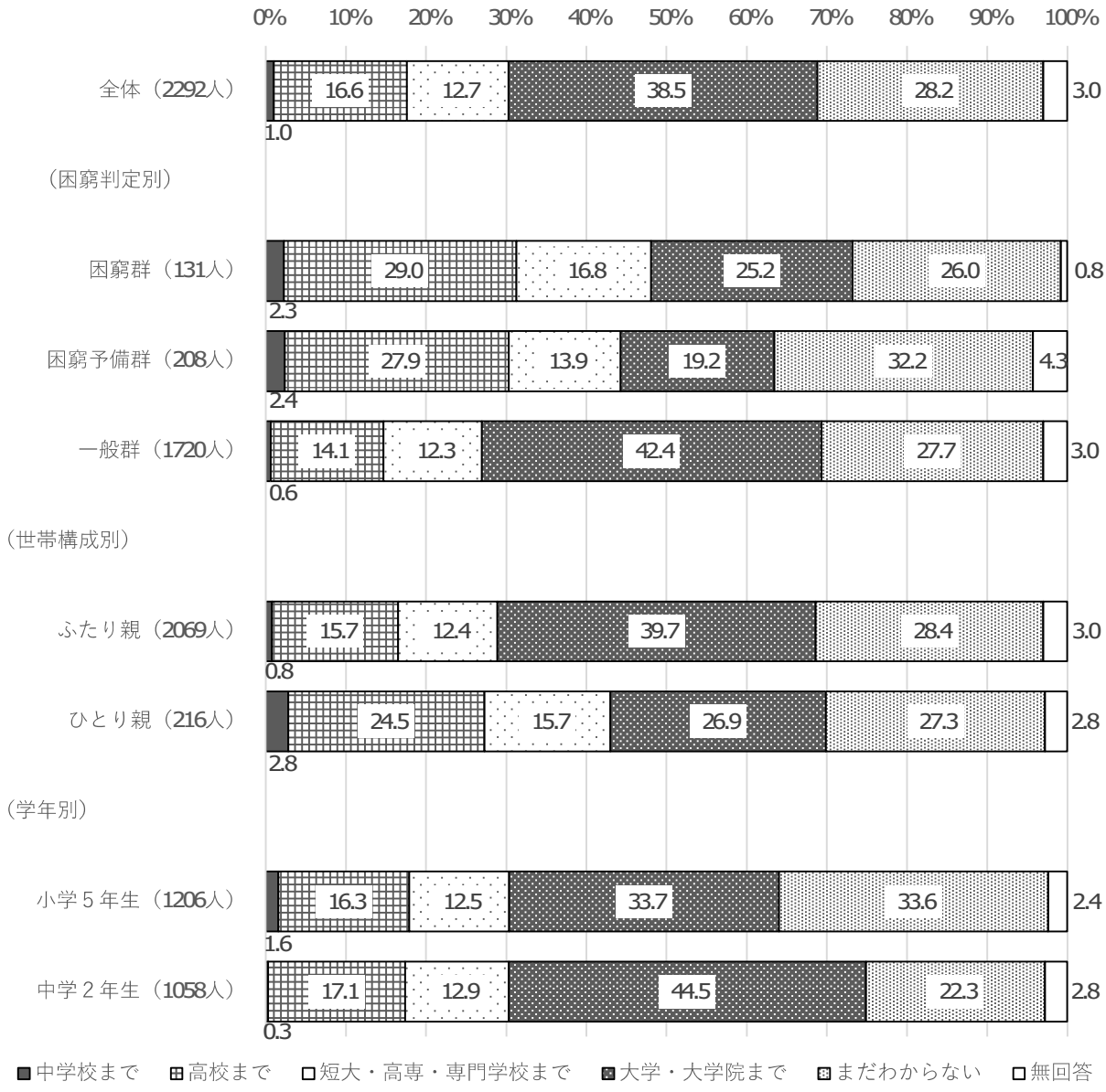


自分の成績はクラスの中でどれくらいと思うかについて、全体では「真ん中あたり」が 30.5%で最も高かった。「上のほう」（13.4%）と「やや上のほう」（19.2%）を合わせた『上のほう』は 32.6%、「やや下のほう」（12.3%）と「下のほう」（11.6%）を合わせた『下のほう』は 23.9%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『上のほう』が低く、『下のほう』が高くなっており、困窮群は『上のほう』（15.3%）が『下のほう』（38.2%）を 22.9 ポイント下回った。

世帯構成別にみると、ふたり親は『上の方』が『下の方』を上回っているが、ひとり親は『下の方』が『上の方』を上回っている。

【小５・中２】将来どの学校まで進みたいか　「問 21」

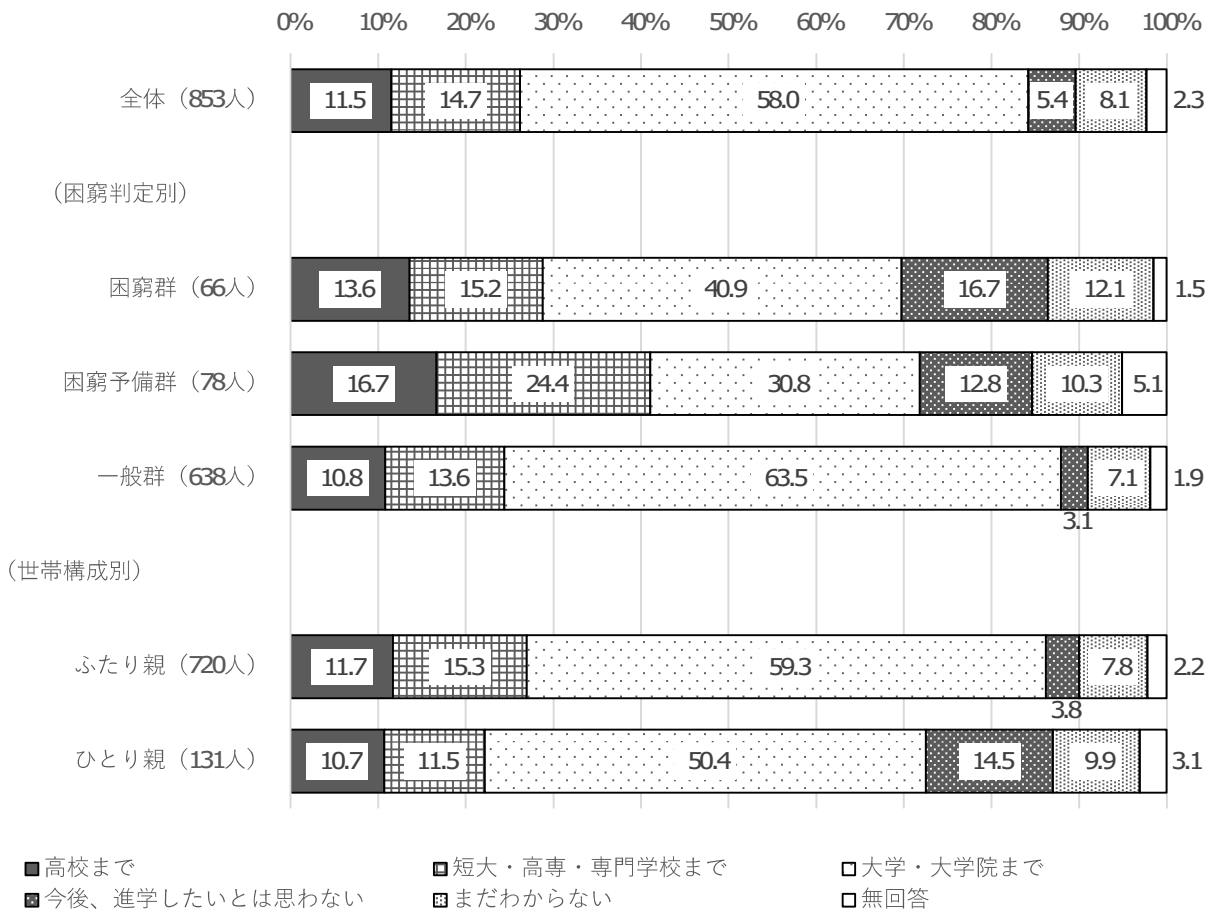


将来どの学校まで進みたいかについて、全体では「大学・大学院まで」が 38.5％で最も高かった。「中学校まで」（1.0％）と「高校まで」（16.6％）を合わせた『高校まで』は 17.6％だった。

困窮判定別にみると、困窮群と困窮予備群は一般群と比較して、『高校まで』が 15 ポイント程度高く、「大学・大学院まで」が 20 ポイント程度低かった。

世帯構成別にみると、『高校まで』はひとり親の方が 10.8 ポイント高かった。

【16～17 歳】将来どの学校まで進みたいか　「問 22」

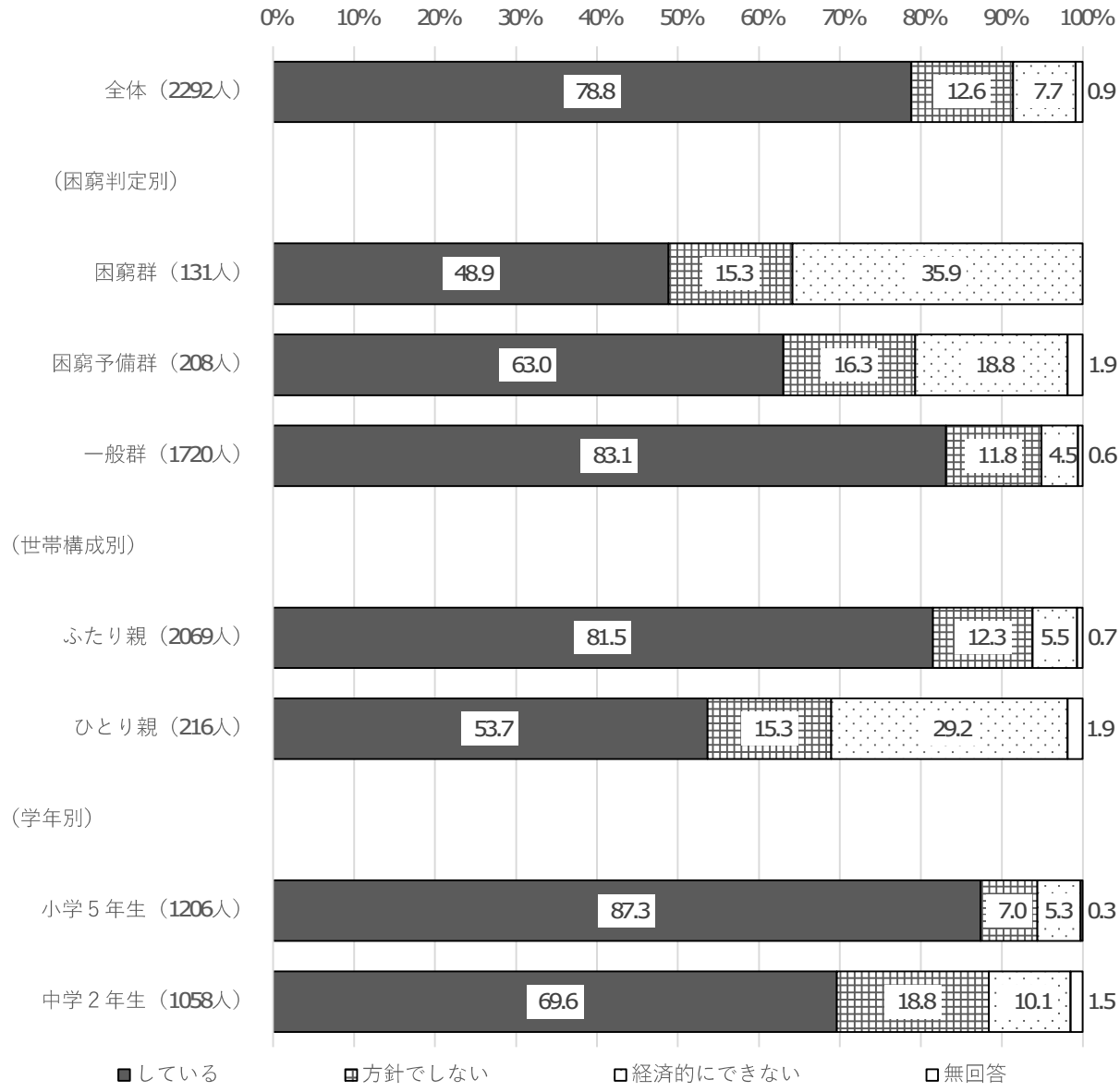


将来どの学校まで進みたいかについて、全体では「大学・大学院まで」が 58.0％で最も高かった。「高校まで」（11.5％）と「今後進学したいと思わない」（5.4％）を合わせた『高校まで』は 16.9％だった。

困窮判定別にみると、困窮群と困窮予備群は一般群と比較して、『高校まで』は 15 ポイント程度高く、「大学・大学院まで」は困窮群が 22.6 ポイント、困窮予備群が 32.7 ポイント低かった。

世帯構成別にみると、『高校まで』はひとり親の方が 9.7 ポイント高かった。

【小５・中２保護者】親が習い事に通わせているか　「問 16-c」

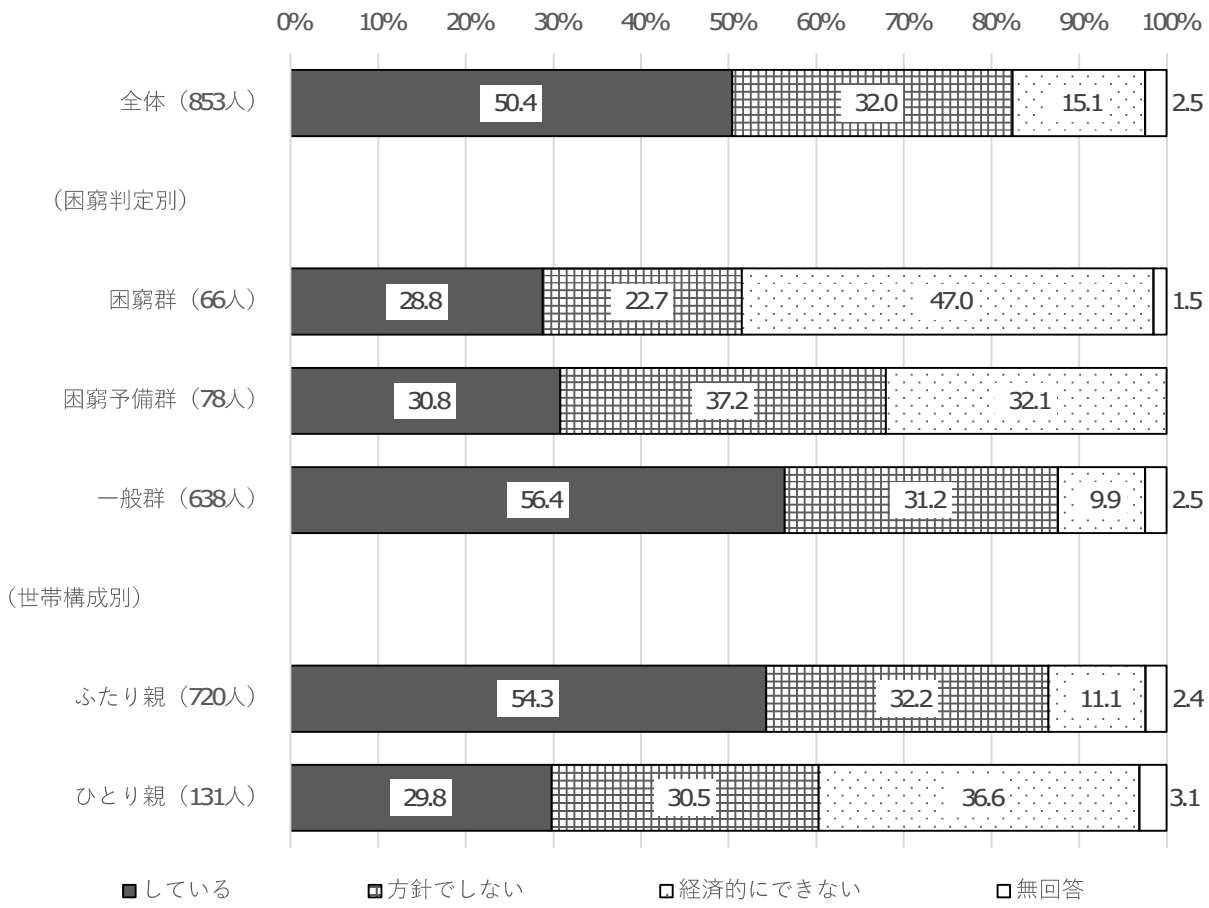


親が習い事に通わせているかについて、全体では「している」が 78.8%となった。通わせていない理由については、「方針でしない」が 12.3%、「経済的にできない」が 7.7%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「している」が低くなり、一般群（83.1%）と困窮群（48.9%）は 34.2 ポイントの差があった。また、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」が高くなり、一般群が 4.5%にとどまるのに対し、困窮群は 35.9%と高かった。

世帯構成別に「経済的にできない」をみると、ふたり親が 5.5%、ひとり親が 29.2%となり、ひとり親の方が 23.7 ポイント高かった。

【16～17 歳 保護者】親が習い事に通わせているか　「問 16-c」

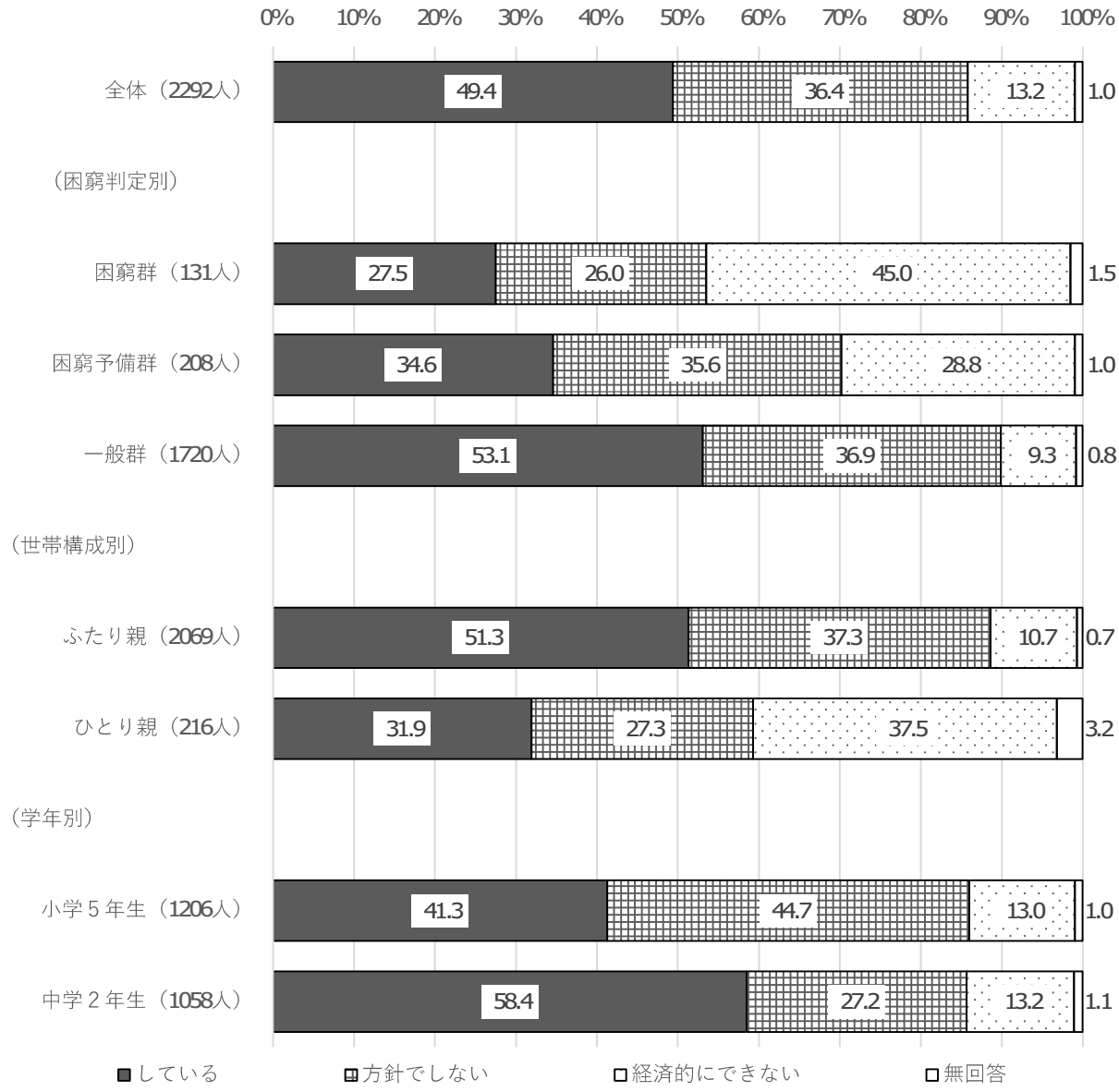


親が習い事に通わせているかについて、全体では「している」が 50.4％と半分を占めた。通わせていない理由については、「方針でしない」が 32.0％、「経済的にできない」が 15.1％となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「している」が低くなり、一般群（56.4％）と困窮群（28.8％）は 27.6 ポイントの差があった。また、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」が高くなり、一般群が 9.9％にとどまるのに対し、困窮群は 47.0％と高かった。

世帯構成別に「経済的にできない」をみると、ふたり親が 11.1％、ひとり親が 36.6％となり、ひとり親の方が 25.5 ポイント高かった。

【小５・中２保護者】親が学習塾に通わせているか　「問 16-d」

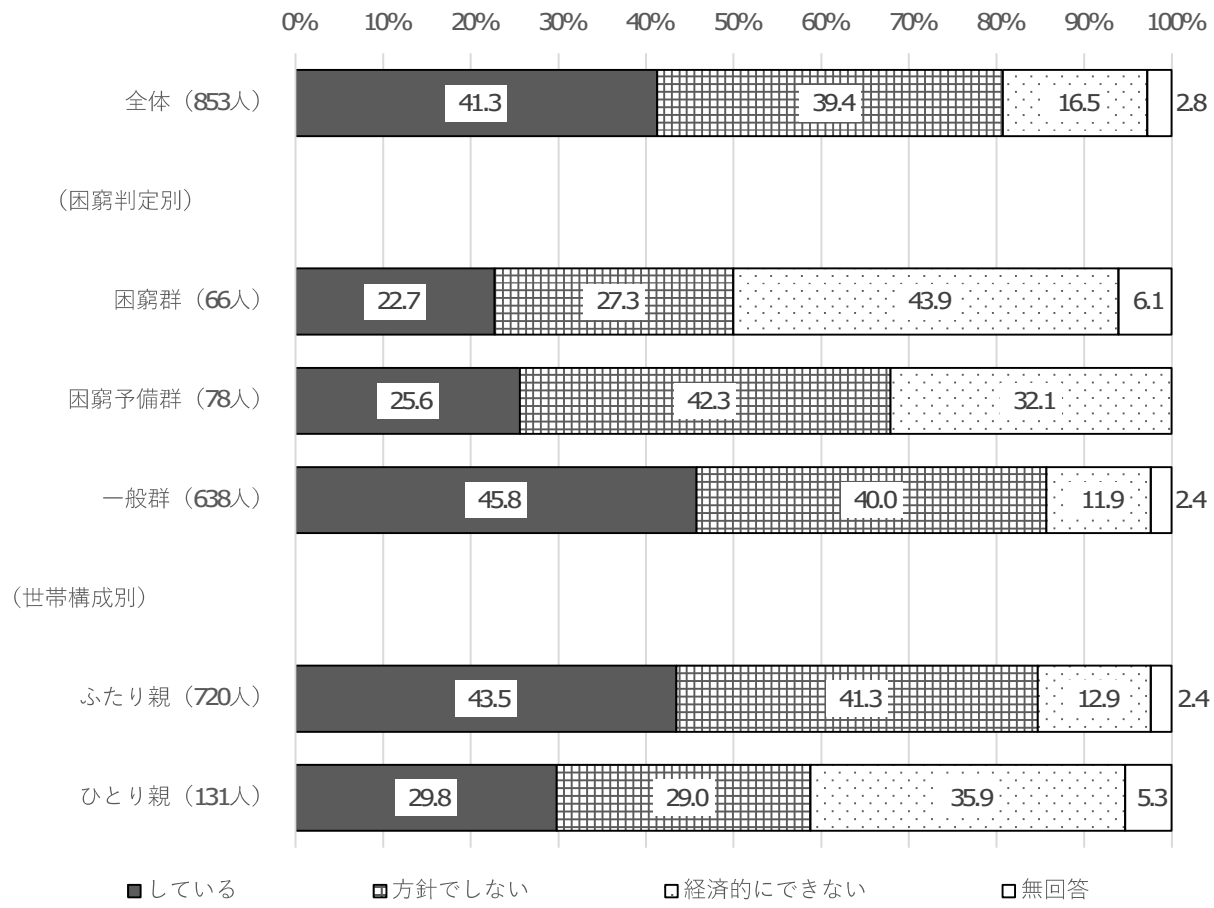


親が学習塾に通わせているかについて、全体では「している」が 49.4%と半分を占めた。通わせていない理由については、「方針でしない」が 36.4%、「経済的にできない」が 13.2%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「している」が低くなり、一般群（53.1%）と困窮群（27.5%）は 25.6 ポイントの差があった。また、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」が高くなり、一般群が 9.3%にとどまるのに対し、困窮群は 45.0%と高かった。

世帯構成別に「経済的にできない」をみると、ふたり親が 10.7%、ひとり親が 37.5%となり、ひとり親の方が 26.8 ポイント高かった。

【16～17 歳　保護者】親が学習塾に通わせているか　「問 16-d」



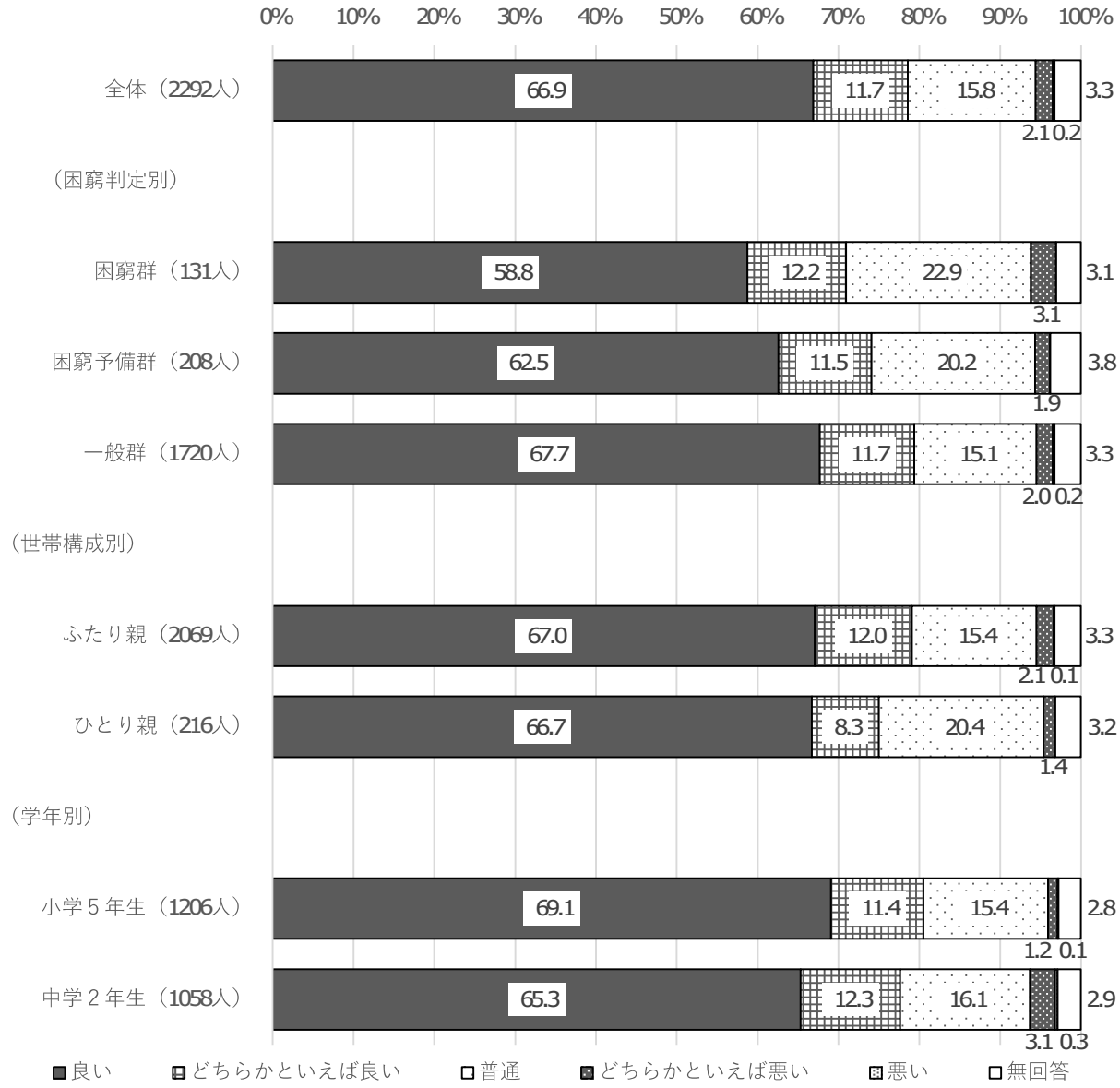
親が学習塾に通わせているかについて、全体では「している」が 41.3％となった。通わせていない理由については、「方針でしない」が 39.4％、「経済的にできない」が 16.5％となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「している」が低くなり、一般群（45.8％）と困窮群（22.7％）は 23.1 ポイントの差があった。また、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」が高くなり、一般群が 11.9％にとどまるのに対し、困窮群は 43.9％と高かった。

世帯構成別に「経済的にできない」をみると、ふたり親が 12.9％、ひとり親が 35.9％となり、ひとり親の方が 23.0 ポイント高かった。

②健康・生活習慣

【小５・中２】今の健康状態　「問３」

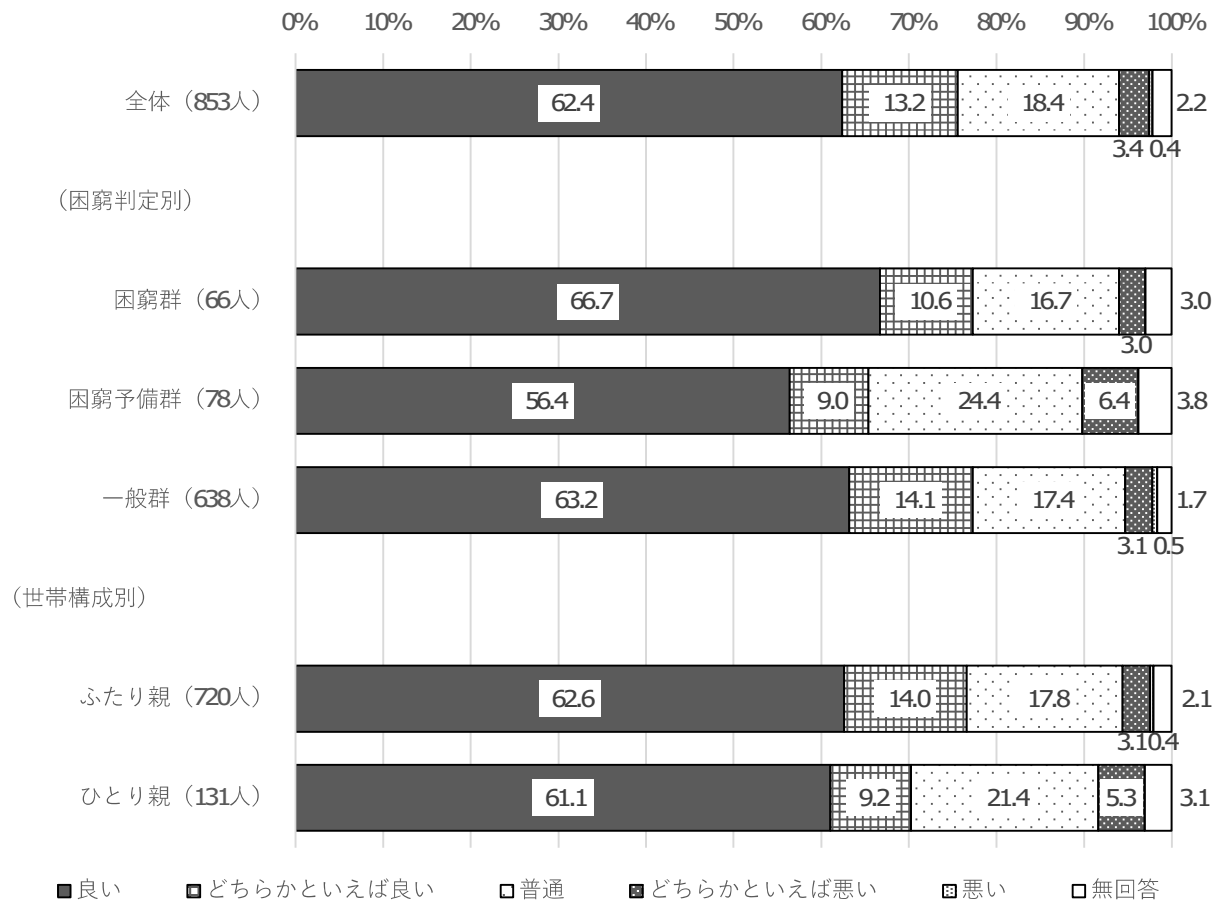


今の健康状態ついて、全体では「良い」が 66.9%で最も高かった。「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は 78.6%で、「どちらかといえば悪い」（2.1%）と「悪い」（0.2%）を合わせた『悪い』は 2.3%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『良い』が低くなり、『悪い』が高くなっている。ただし、困窮群でも『良い』（71.0%）が『悪い』（3.1%）を大幅に上回っている。

世帯構成別にみると、『良い』はふたり親が 79.0%、ひとり親が 75.0%となった。

【16～17 歳】今の健康状態　「問５」

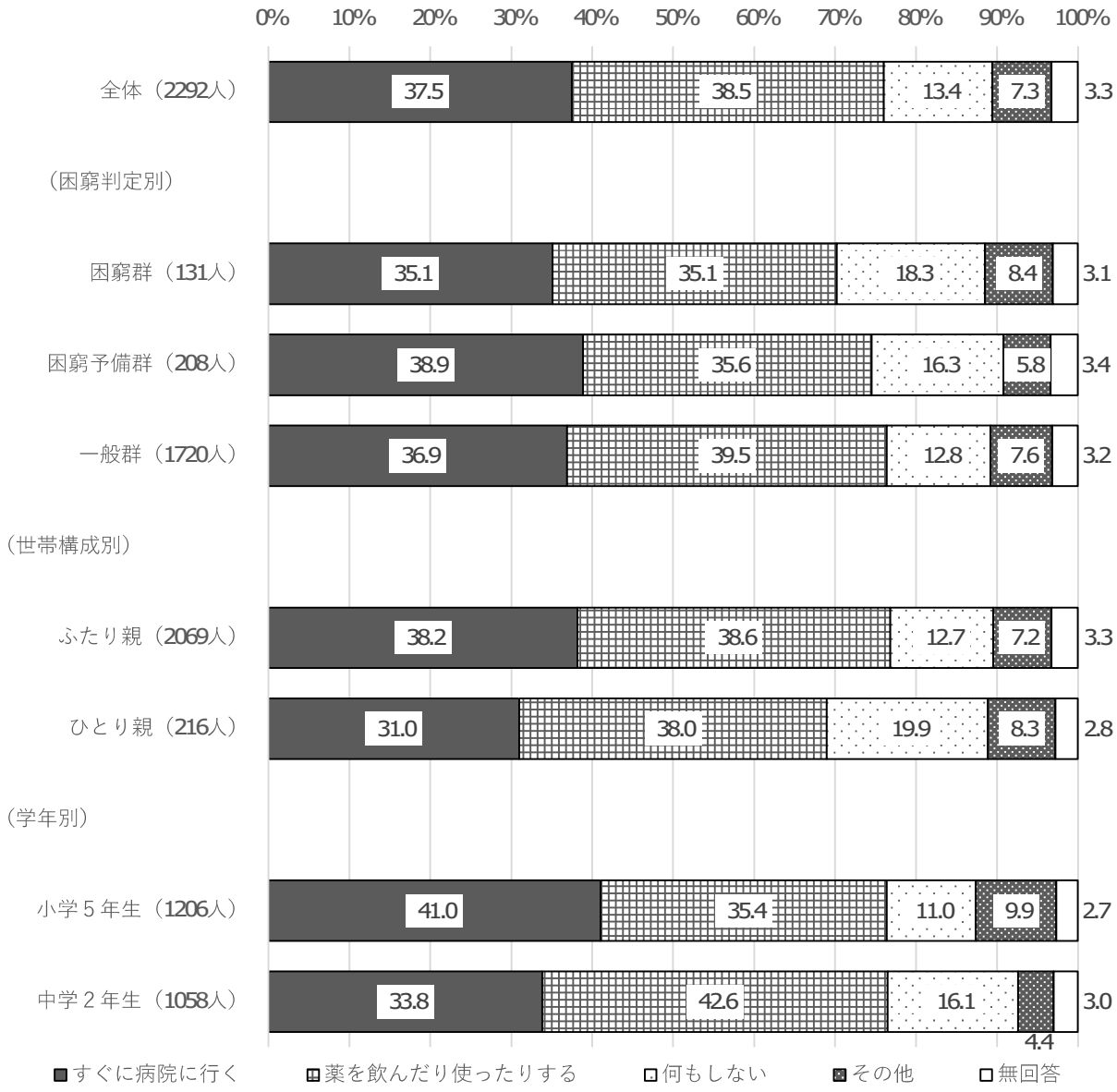


今の健康状態ついて、全体では「良い」が 62.4％で最も高かった。「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は 75.6％で、「どちらかといえば悪い」（3.4％）と「悪い」（0.4％）を合わせた『悪い』は 3.8％にとどまった。

困窮判定別にみると、特に困窮予備群で『良い』が低くなり、『悪い』が高くなっている。困窮群でも『良い』（77.3％）が『悪い』（3.0％）を大幅に上回っている。

世帯構成別にみると、『良い』はふたり親が 76.6％、ひとり親が 70.3％となった。

【小５・中２】体調が悪い時やけが、歯痛の時にどうするか　「問４」

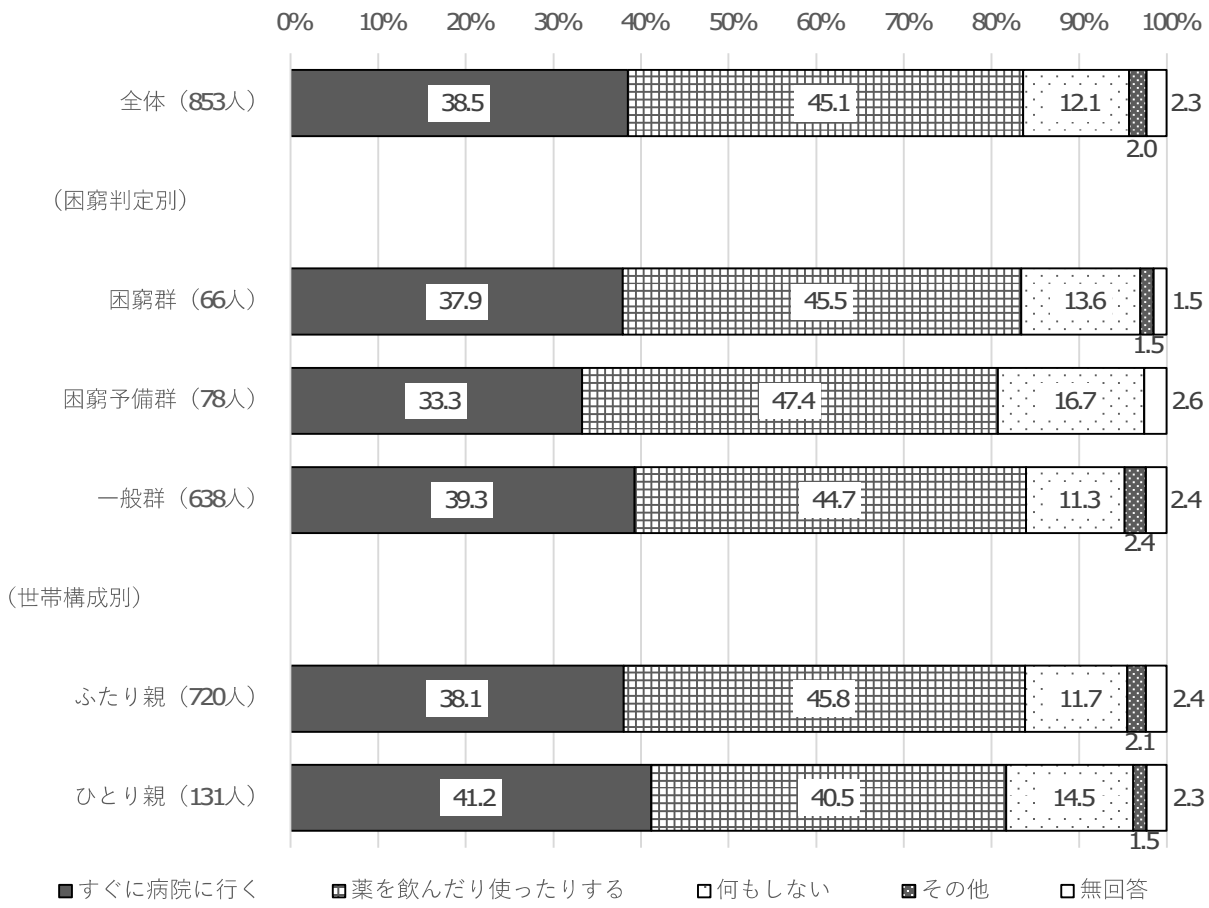


体調が悪い時やけが・歯痛の時どうするかについて、全体では「薬を飲んだり使ったりする」が38.5%で最も高かった。次いで「すぐに病院に行く」が37.5%で高く、「何もしない」は13.4%だった。

困窮判定別にみると、「すぐに病院に行く」はいずれも30%代後半で大きな差はなかったが、「何もしない」は困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

世帯構成別でみると、「すぐに病院に行く」はふたり親が38.2%、ひとり親が31.0%となった。

【16～17 歳】体調が悪い時やけが、歯痛の時にどうするか　「問６」

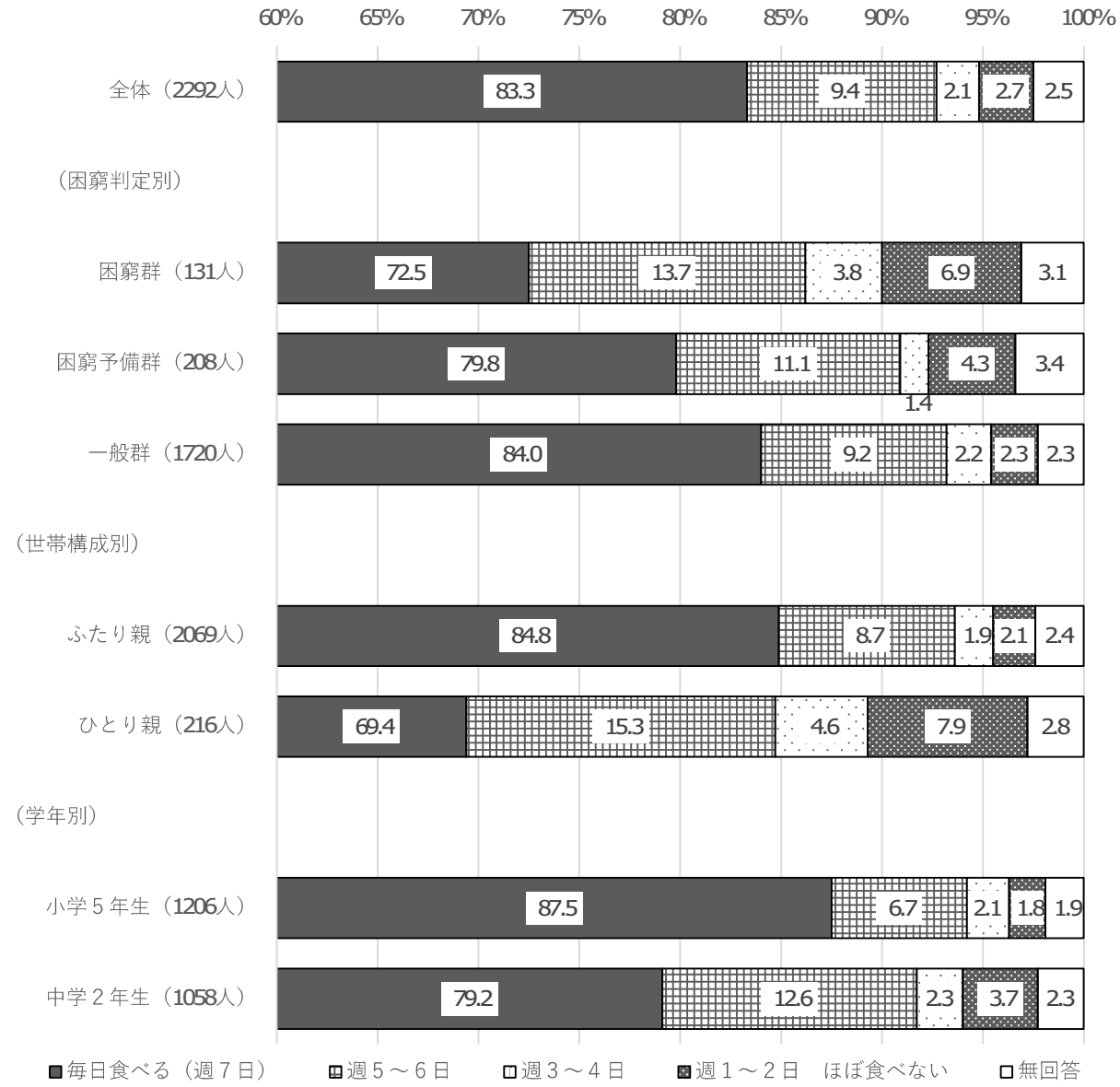


体調が悪い時やけが・歯痛の時どうするかについて、全体では「薬を飲んだり使ったりする」が 45.1％で最も高かった。次いで「すぐに病院に行く」が 38.5％で高く、「何もしない」は 12.1％だった。

困窮判定別にみると、「すぐに病院に行く」はいずれも 30％代で大きな差はなかったが、「何もしない」は困窮予備群で 16.7％と最も回答割合が高かった。

世帯構成別でみると、「すぐに病院に行く」はふたり親が 38.1％、ひとり親が 41.2％とひとり親が 3.1 ポイント高いものの、「何もしない」もひとり親が 2.8 ポイント高くなっている。

【小５・中２】週にどのくらい朝食をとっているか　「問５-a」



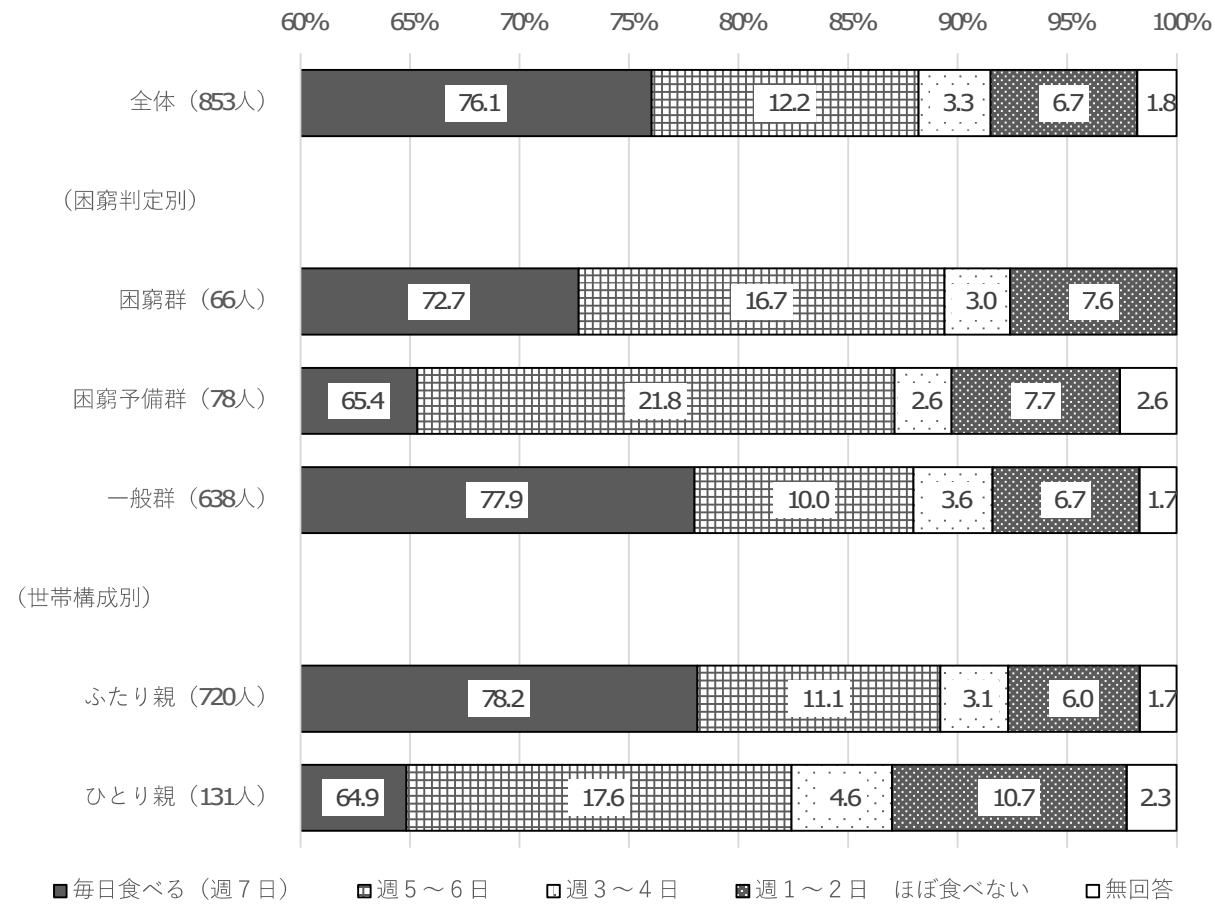
*目盛りの下限値を 60%で調整

週にどのくらい朝食をとっているかについて、全体では「毎日食べる」が 83.3%で圧倒的に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群では「毎日食べる」が 72.5%となり、困窮度合いが高いほど「毎日食べる」が低くなっている。

世帯構成別に「毎日食べる」をみると、ふたり親が 84.8%、ひとり親が 69.4%となり、ひとり親の方が 15.4 ポイント低かった。

【16～17 歳】週にどのくらい朝食をとっているか　「問７-a」



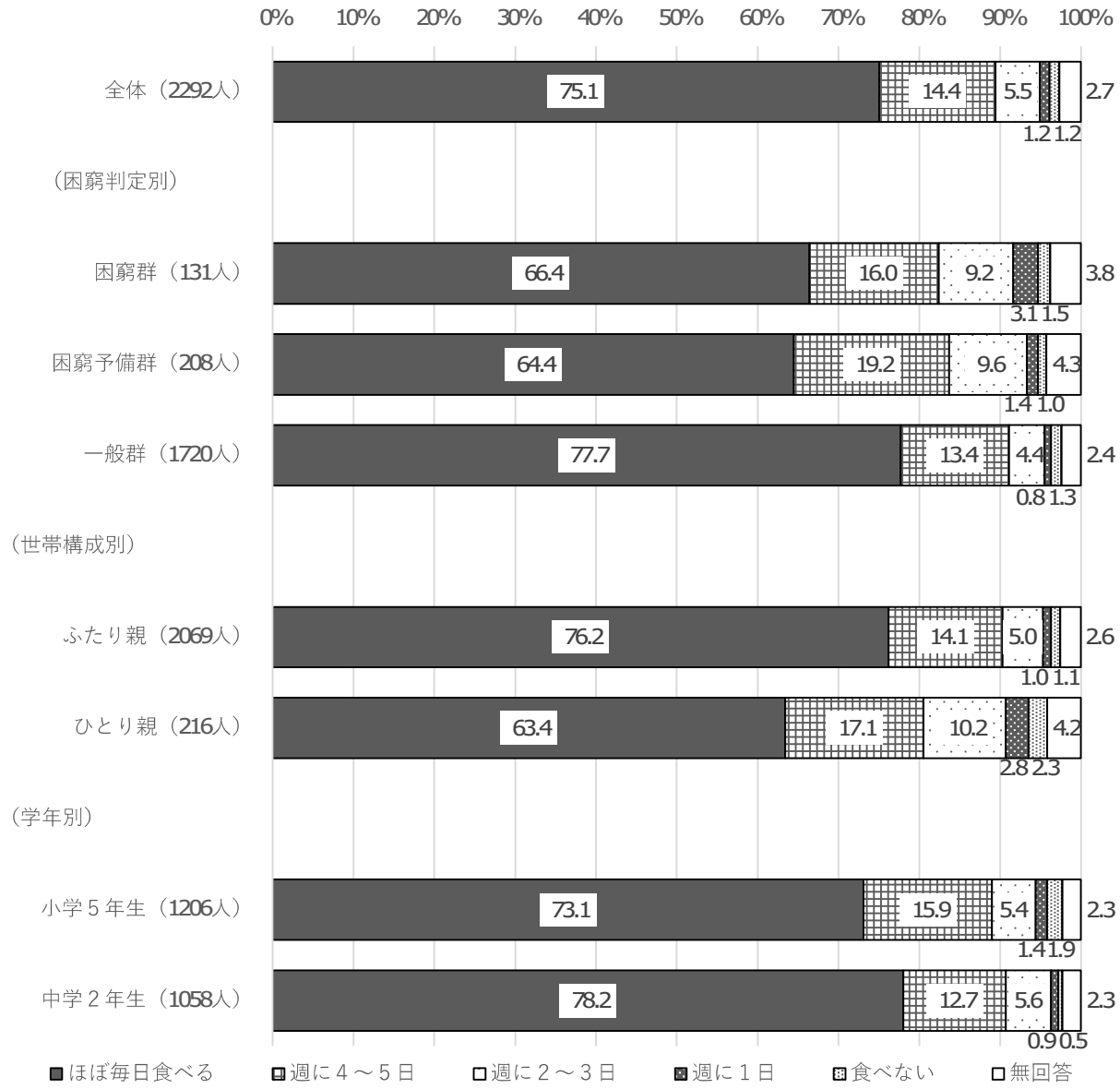
*目盛りの下限値を 60%で調整

週にどのくらい朝食をとっているかについて、全体では「毎日食べる」が 76.1%で圧倒的に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群では「毎日食べる」が 72.7%と高かったが、困窮予備群では 65.4%となっている。

世帯構成別に「毎日食べる」をみると、ふたり親が 78.2%、ひとり親が 64.9%となり、ひとり親の方が 13.3 ポイント低かった。

【小５・中２】給食を除き、野菜をどれくらい食べているか　「問７-b」

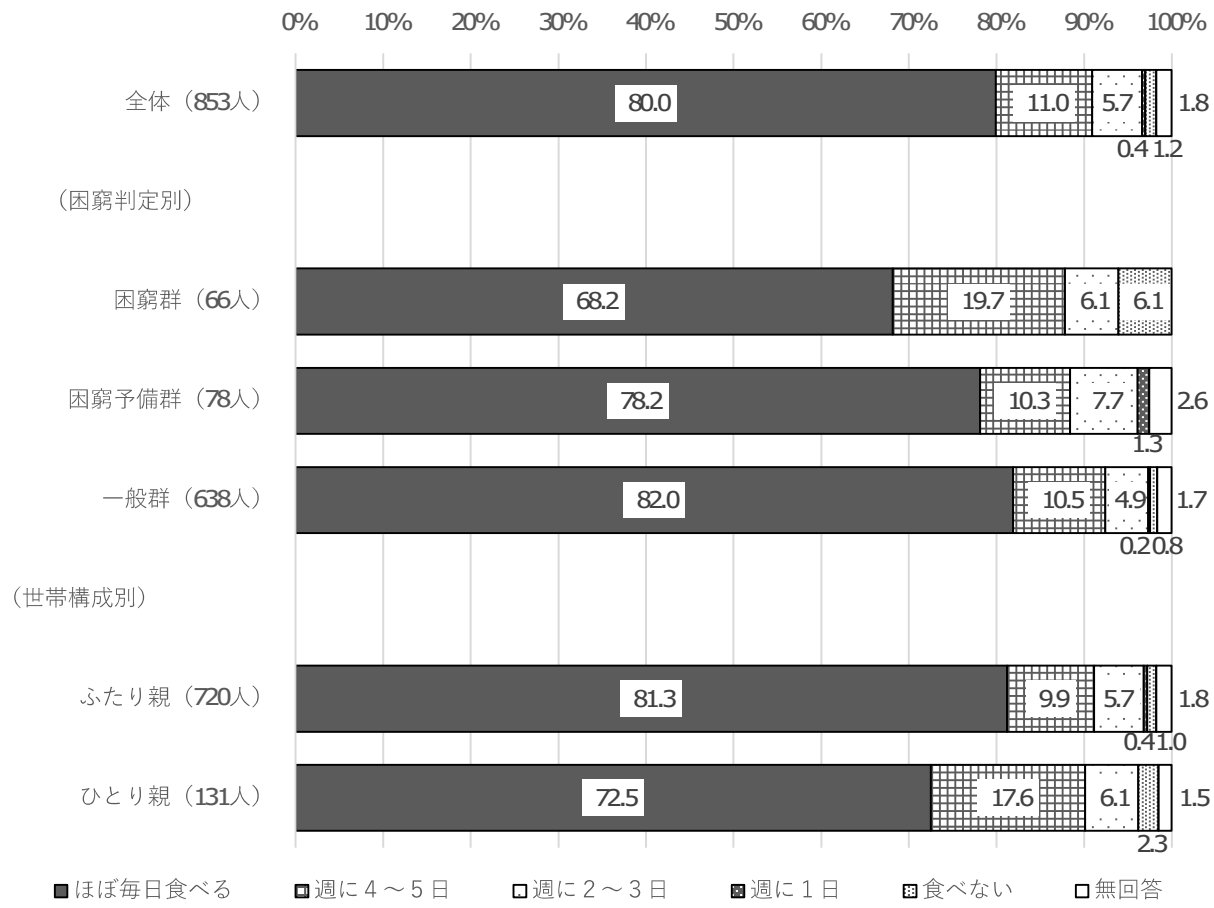


給食を除き、野菜をどれくらい食べているかについて、全体では「ほぼ毎日食べる」が 75.1％で最も高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「ほぼ毎日食べる」が低い傾向にあった。

世帯構成別に「ほぼ毎日食べる」をみると、ふたり親が 76.2％、ひとり親が 63.4％となり、ひとり親の方が 12.8 ポイント低かった。

【16～17 歳】野菜をどれくらい食べているか　「問 9-b」

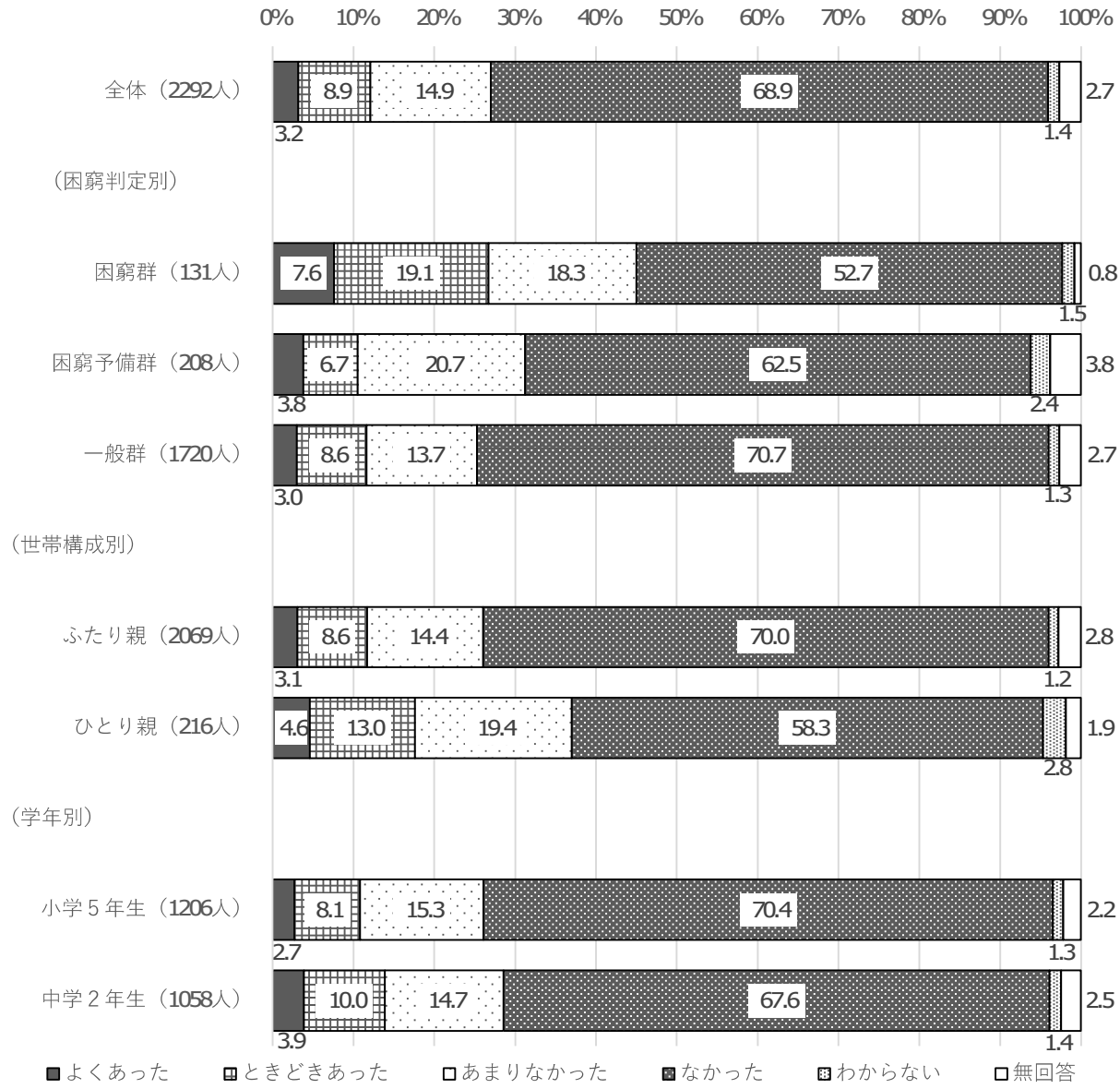


野菜をどれくらい食べているかについて、全体では「ほぼ毎日食べる」が 80.0％で最も高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「ほぼ毎日食べる」が低かった。

世帯構成別に「ほぼ毎日食べる」をみると、ふたり親が 81.3％、ひとり親が 72.5％となり、ひとり親の方が 8.8 ポイント低かった。

【小５・中２】学校に遅刻したことがあるか　「問 23-e」

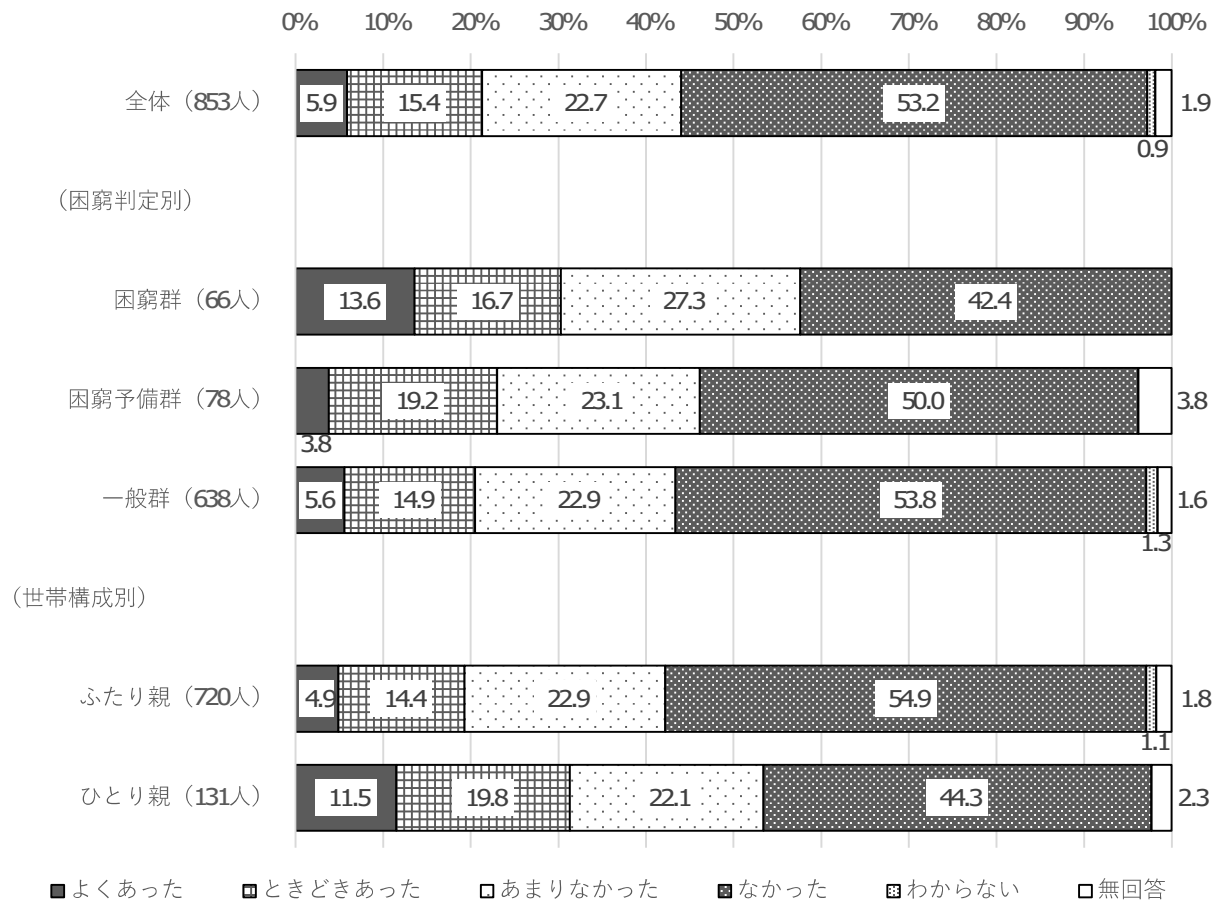


学校に遅刻したことがあるかについて、全体では「なかった」が 68.9%で最も高かった。「よくあった」3.2%）と「ときどきあった」（8.9%）を合わせた『あった』は 12.1%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「よくあった」が高くなり、「なかった」が低くなっている。

世帯構成別にみると、『あった』はひとり親の方が 5.9 ポイント高かった。

【16～17 歳】学校や仕事に遅刻したことがあるか　「問 27-e」

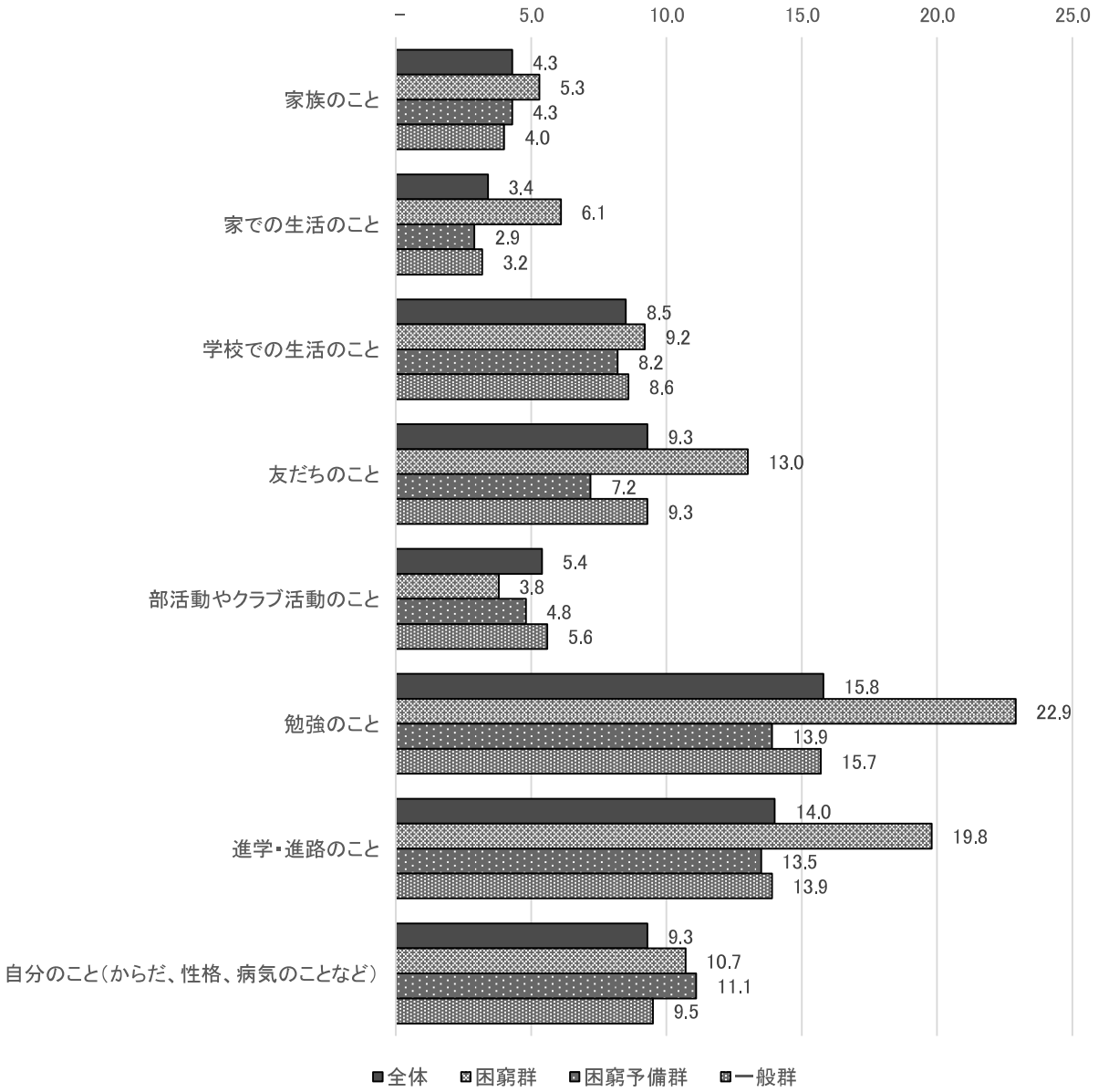


学校や仕事に遅刻したことがあるかについて、全体では「なかった」が 53.2％で最も高かった。「よくあった」（5.9％）と「ときどきあった」（15.4％）を合わせた『あった』は 21.3％となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『あった』が高くなり、「なかった」が低くなっている。

世帯構成別にみると、『あった』はひとり親の方が 12.0 ポイント高かった。

【小５・中２】誰かに相談したいこと　「問 15」

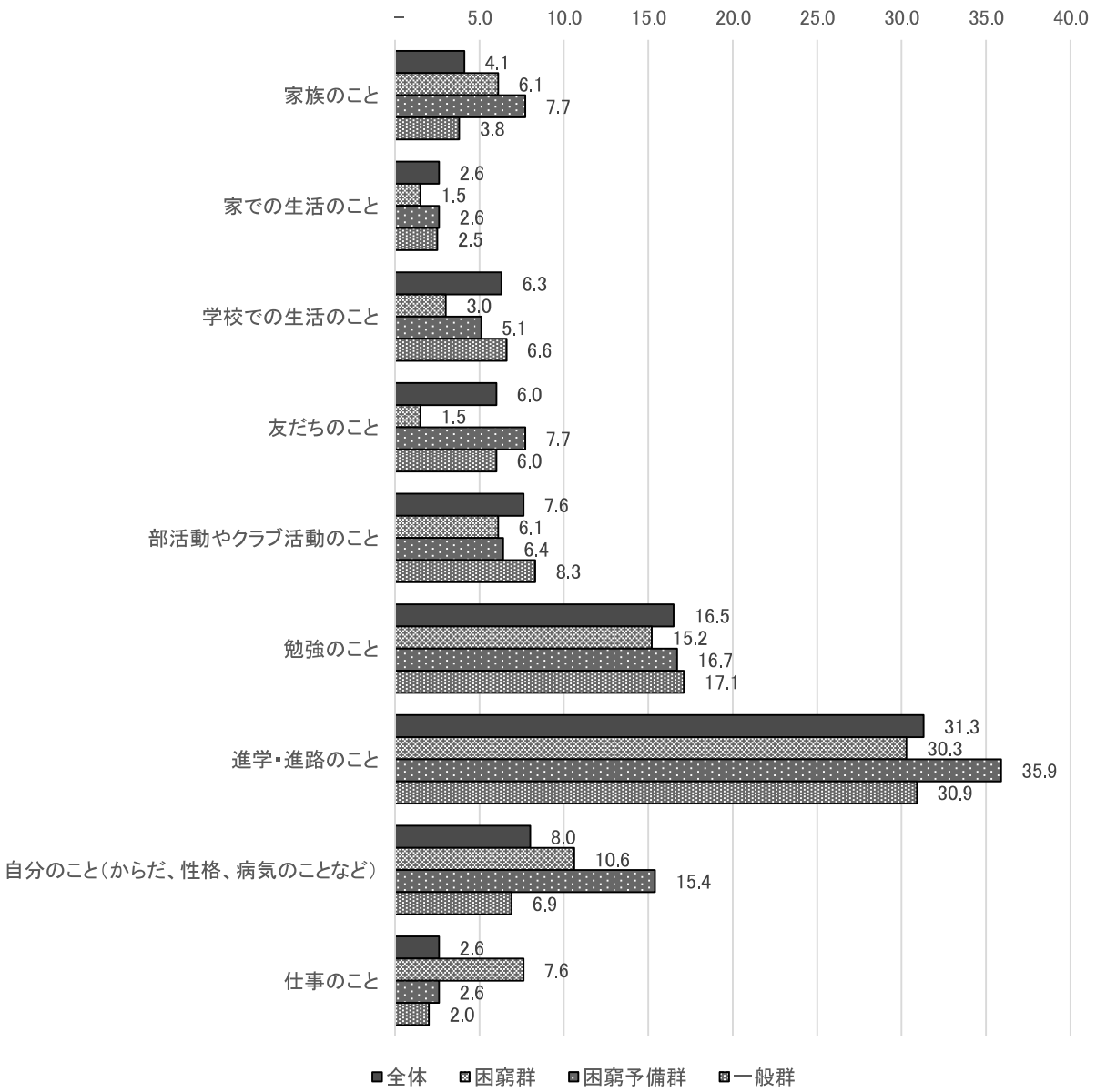


＊「その他」「特にない」「無回答」は非表示

誰かに相談したいことについて、全体では「勉強のこと」が 15.8%で最も高く、次いで「進路のこと」（14.0%）、「友だちのこと」、「自分のこと」（9.3%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、「勉強のこと」「進学・進路のこと」など 6 つの選択肢で困窮群の回答割合が最も高かった。

【16～17 歳】誰かに相談したいこと　「問 17」



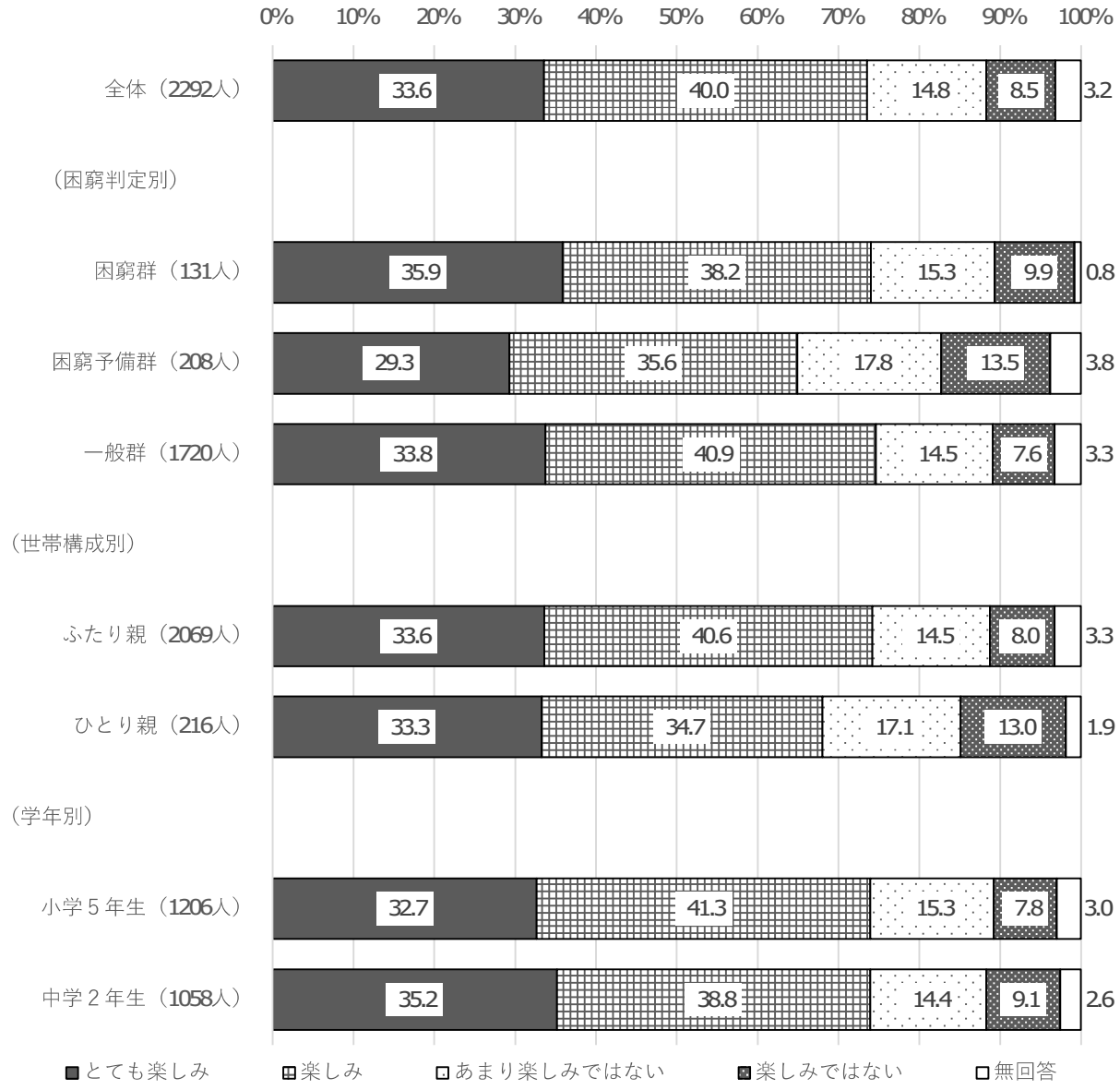
＊「その他」「特にない」「無回答」は非表示

誰かに相談したいことについて、全体では「進学・進路のこと」が 31.3%で最も高く、次いで「勉強のこと」（16.5%）、「自分のこと」（8.0%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群では「仕事のこと」で、困窮予備群では「進学・進路のこと」など 5 つの選択肢で回答割合が最も高かった。

③社会性・将来の自立

【小５・中２】部活動やクラブ活動について　「問 17-e」

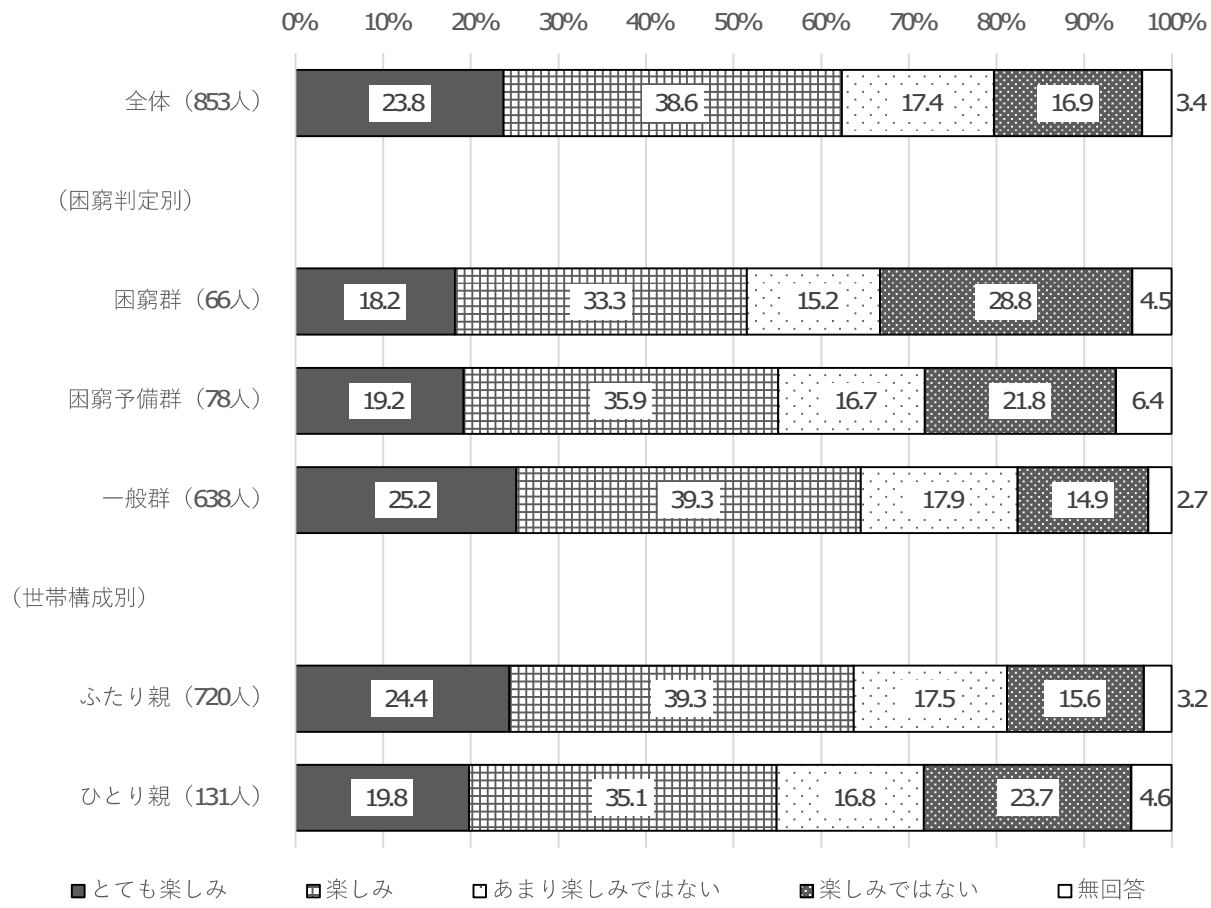


部活動やクラブ活動について、全体では「楽しみ」が 40.0％で最も高かった。「とても楽しみ」（33.6％）と「楽しみ」を合わせた『楽しみ』は 73.6％で、「あまり楽しみではない」（14.8％）と「楽しみではない」（8.5％）を合わせた『楽しみではない』は 23.3％となった。

困窮判定別にみると、困窮予備群の『楽しみ』が最も低くなっているが、困窮判定にかかわらず『楽しみ』が『楽しみではない』に上回っている。

世帯構成別に『楽しみ』をみると、ふたり親が 74.2％、ひとり親が 68.0％となり、ふたり親の方が 6.2 ポイント高かった。

【16～17 歳】部活動やクラブ活動について　「問 19-e」

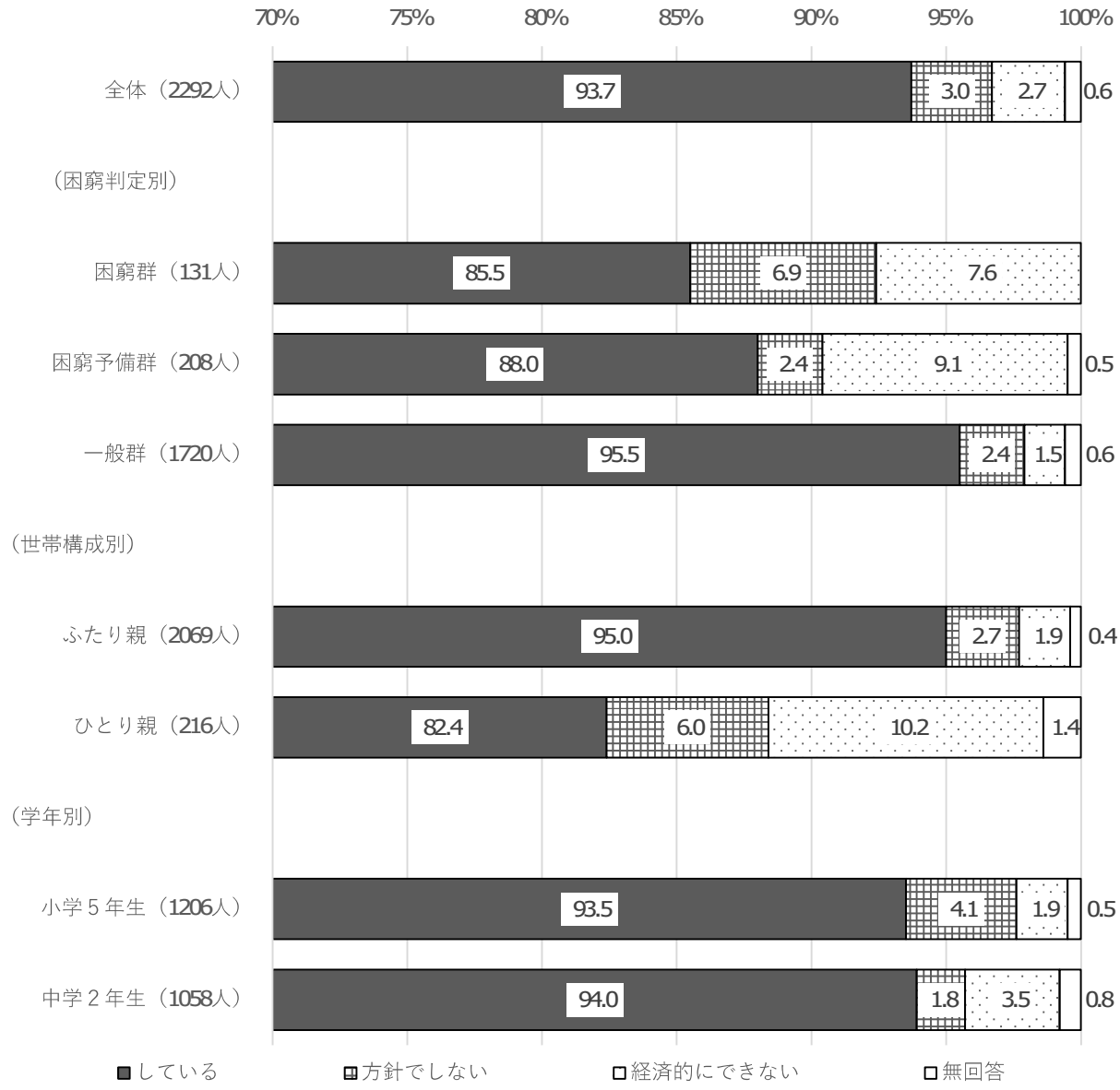


部活動やクラブ活動について、全体では「楽しみ」が 38.6％で最も高かった。「とても楽しみ」（23.8％）と「楽しみ」を合わせた『楽しみ』は 62.4％で、「あまり楽しみではない」（17.4％）と「楽しみではない」（16.9％）を合わせた『楽しみではない』は 34.3％となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『楽しみ』が低くなり、『楽しみではない』が高くなっている。ただし、困窮群でも『楽しみ』（51.5％）が『楽しみではない』（44.0％）を上回っている。

世帯構成別に『楽しみ』をみると、ふたり親が 63.7％、ひとり親が 54.9％となり、ふたり親の方が 8.8 ポイント高かった。

【小５・中２ 保護者】子どもが自宅で勉強ができる場所について　「問 16-i」



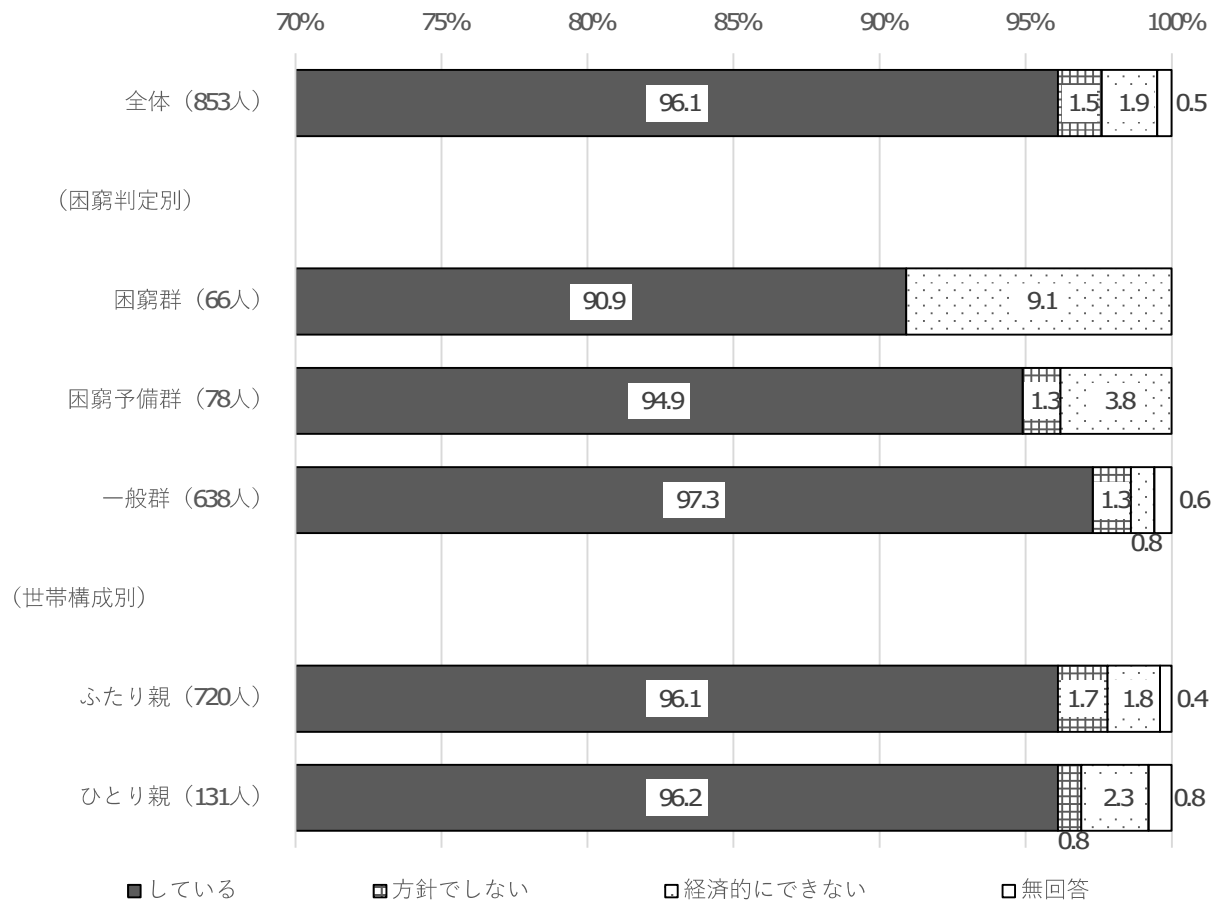
*目盛りの下限値を 70%で調整

子どもが自宅で勉強する場所を用意しているかについて、全体では「している」が 93.7%で圧倒的に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群でも「している」が 85.5%と高かったが、困窮度合いが高いほど「している」が低くなっている。

世帯構成別にみると、ひとり親は「経済的にできない」が 10.2%と相対的に高かった。

【16～17 歳 保護者】子どもが自宅で勉強ができる場所について　「問 16-i」



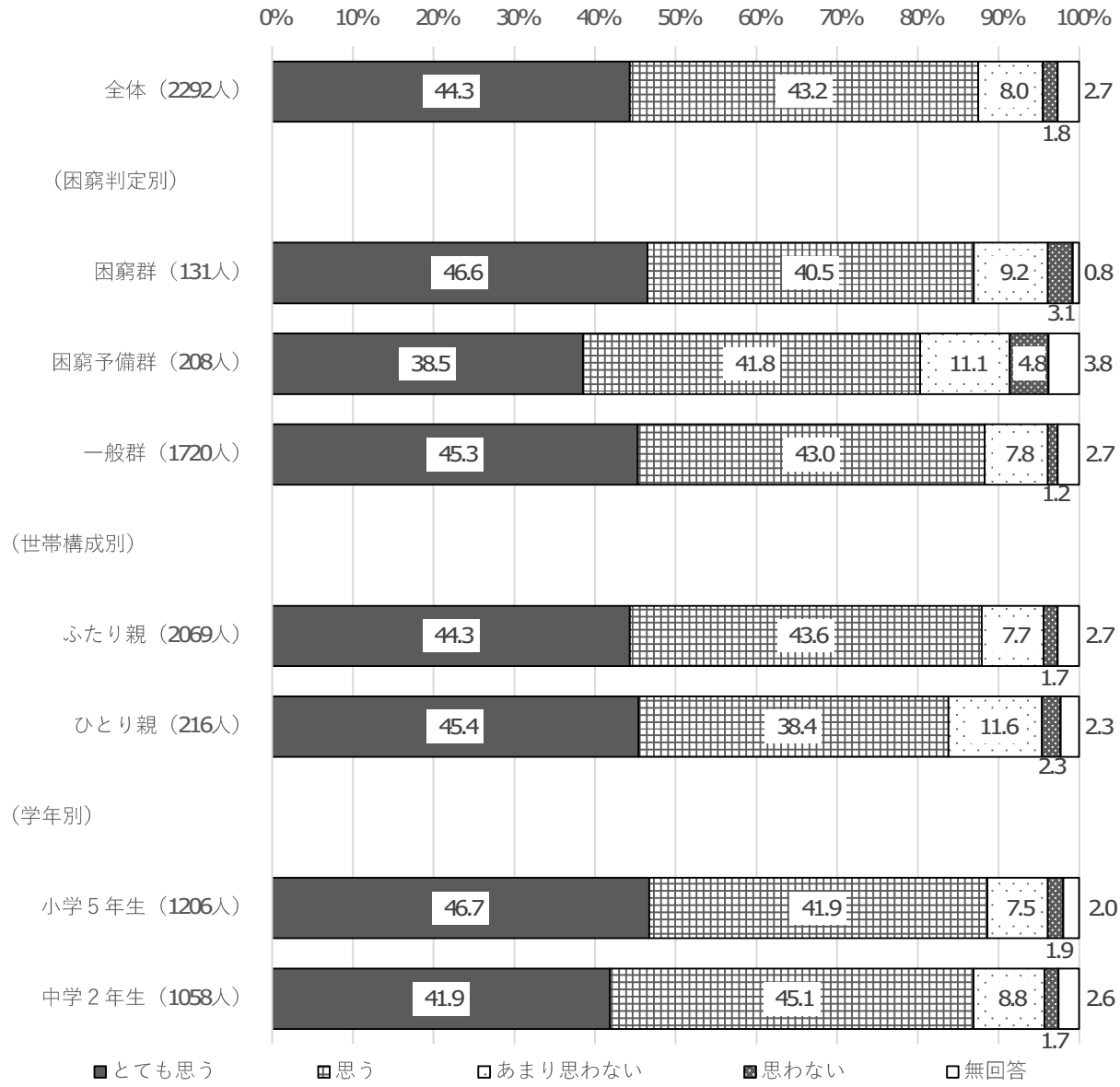
*目盛りの下限値を 70%で調整

子どもが自宅で勉強する場所を用意しているかについて、全体では「している」が 96.1%で圧倒的に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群でも「している」が 90.9%と高かったが、困窮度合いが高いほど「している」が低くなっている。

世帯構成別にみると、ふたり親とひとり親で大きな違いはなかった。

【小５・中２】がんばれば良いことがあると思うか　「問 22-a」

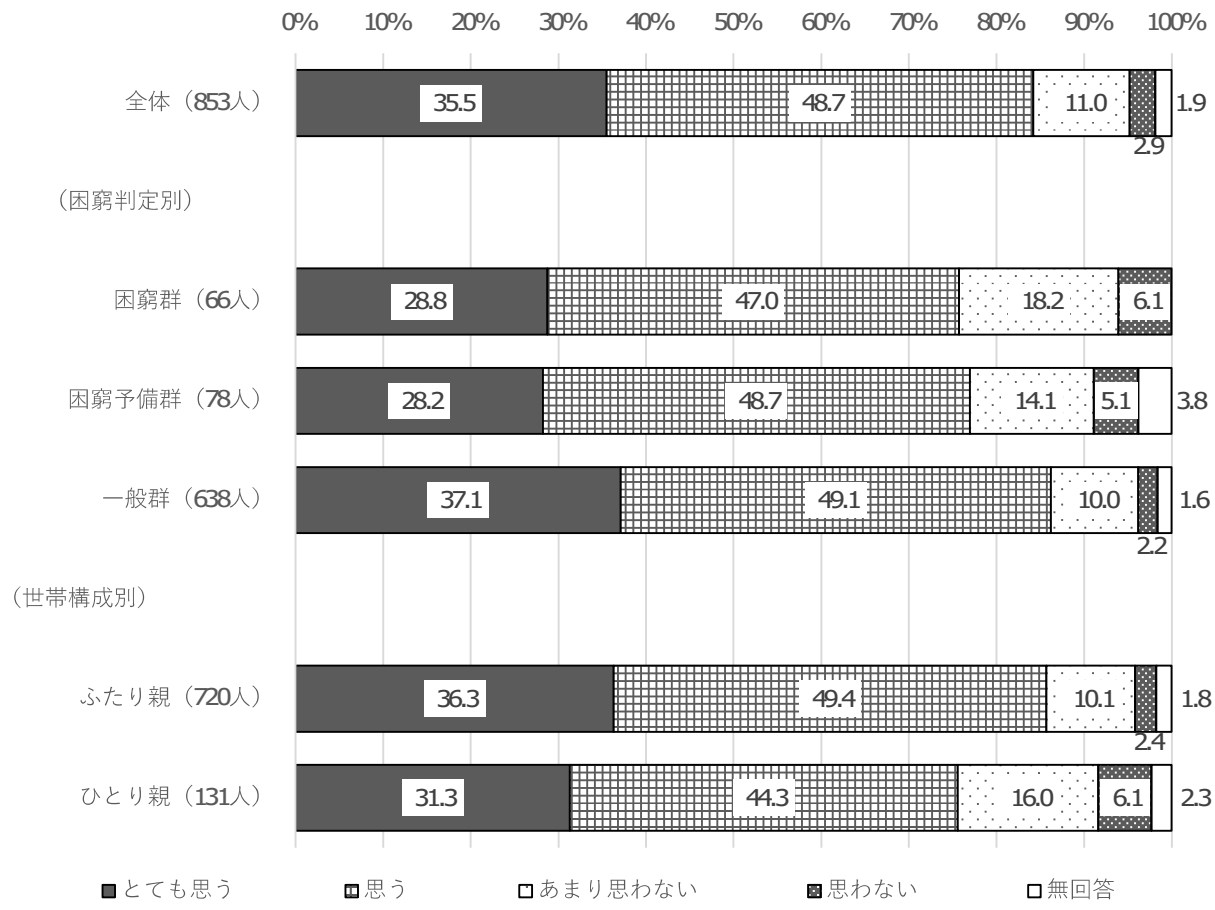


がんばれば良いことがあると思うかについて、全体では「とても思う」（44.3%）と「思う」（43.2%）を合わせた『思う』は 87.5%となった。「あまり思わない」（8.0%）と「思わない」（1.8%）を合わせた『思わない』は 9.8%となった。

困窮判定別にみると、困窮予備群で『思う』が最も低くなり、『思わない』が最も高くなっている。

世帯構成別にみると、『思う』はふたり親の方が高く、『思わない』はひとり親の方が高かった。

【16～17 歳】がんばれば良いことがあると思うか　「問 26-a」

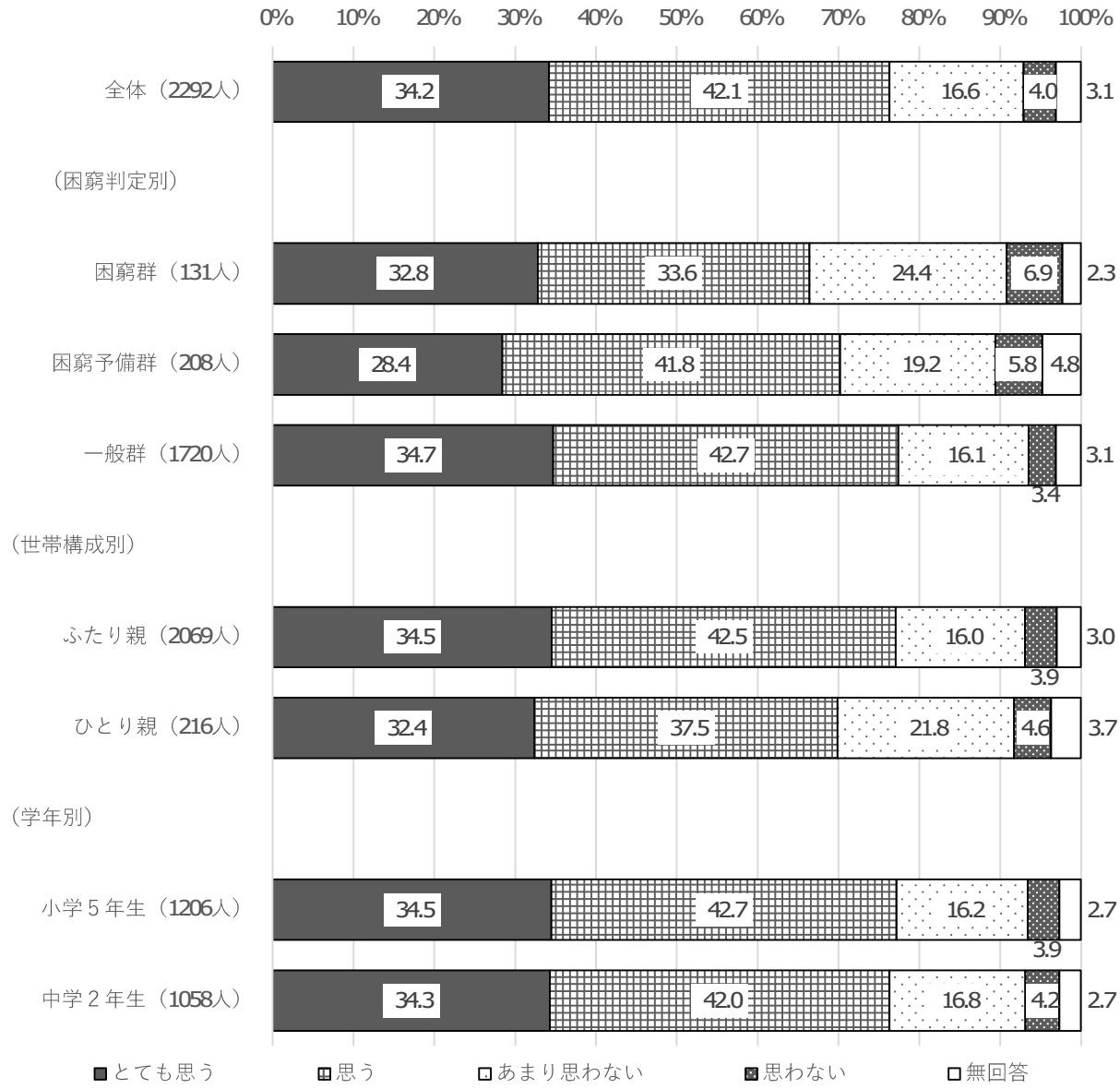


がんばれば良いことがあると思うかについて、全体では「とても思う」（35.5%）と「思う」（48.7%）を合わせた『思う』は 84.2%となった。「あまり思わない」（11.0%）と「思わない」（2.9%）を合わせた『思わない』は 13.9%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『思う』が低くなり、『思わない』が高くなっている。

世帯構成別にみると、『思う』はふたり親の方が高く、『思わない』はひとり親の方が高かった。

【小５・中２】自分には長所があると思うか　「問 22-ｂ」

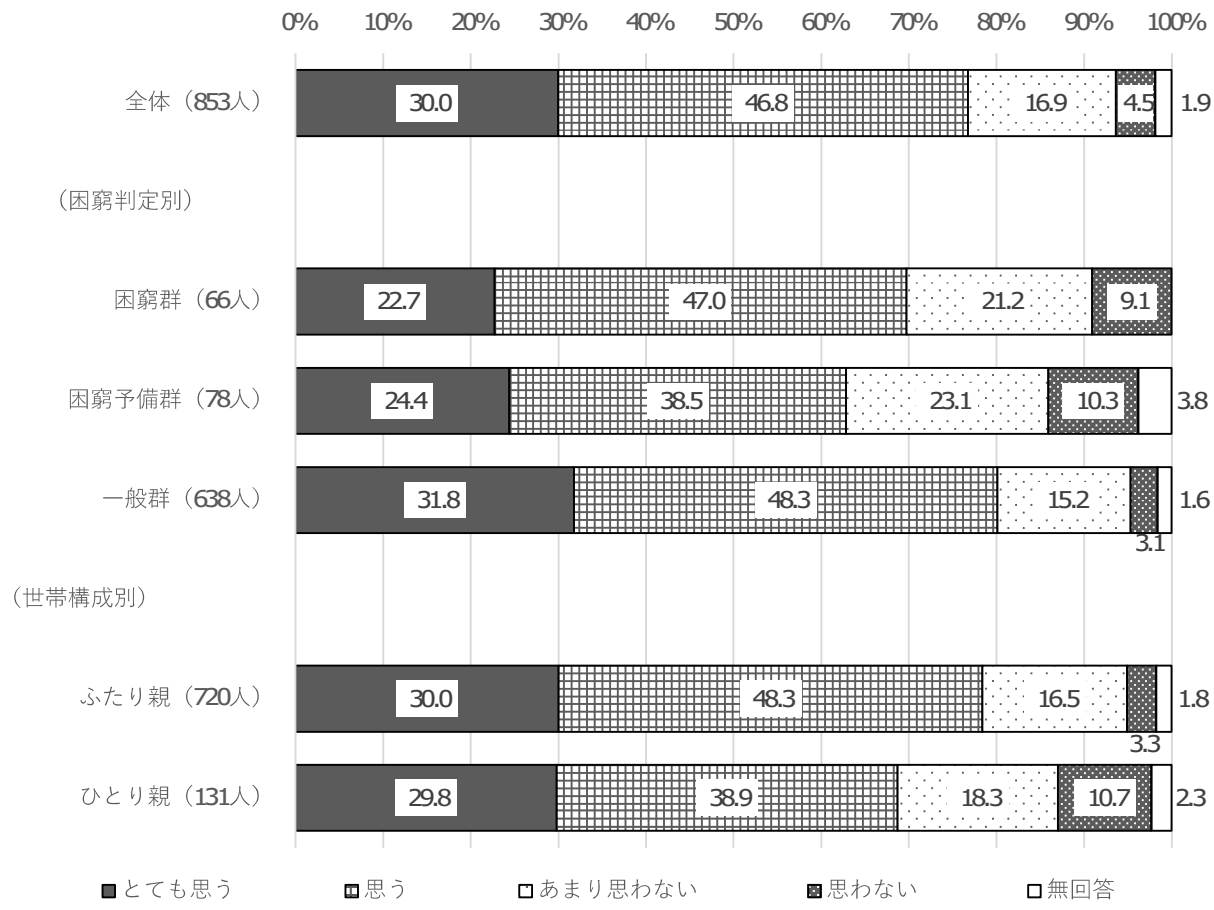


自分には長所があると思うかについて、全体では「とても思う」（34.2%）と「思う」（42.1%）を合わせた『思う』は 76.3%となった。「あまり思わない」（16.6%）と「思わない」（4.0%）を合わせた『思わない』は 20.6%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『思う』が低くなり、『思わない』が高くなっている。

世帯構成別にみると、『思う』はふたり親の方が高く、『思わない』はひとり親の方が高かった。

【16～17 歳】自分には長所があると思うか　「問 26-ｂ」



自分には長所があると思うかについて、全体では「とても思う」（30.0%）と「思う」（46.8%）を合わせた『思う』は 76.8%となった。「あまり思わない」（16.9%）と「思わない」（4.5%）を合わせた『思わない』は 21.4%となった。

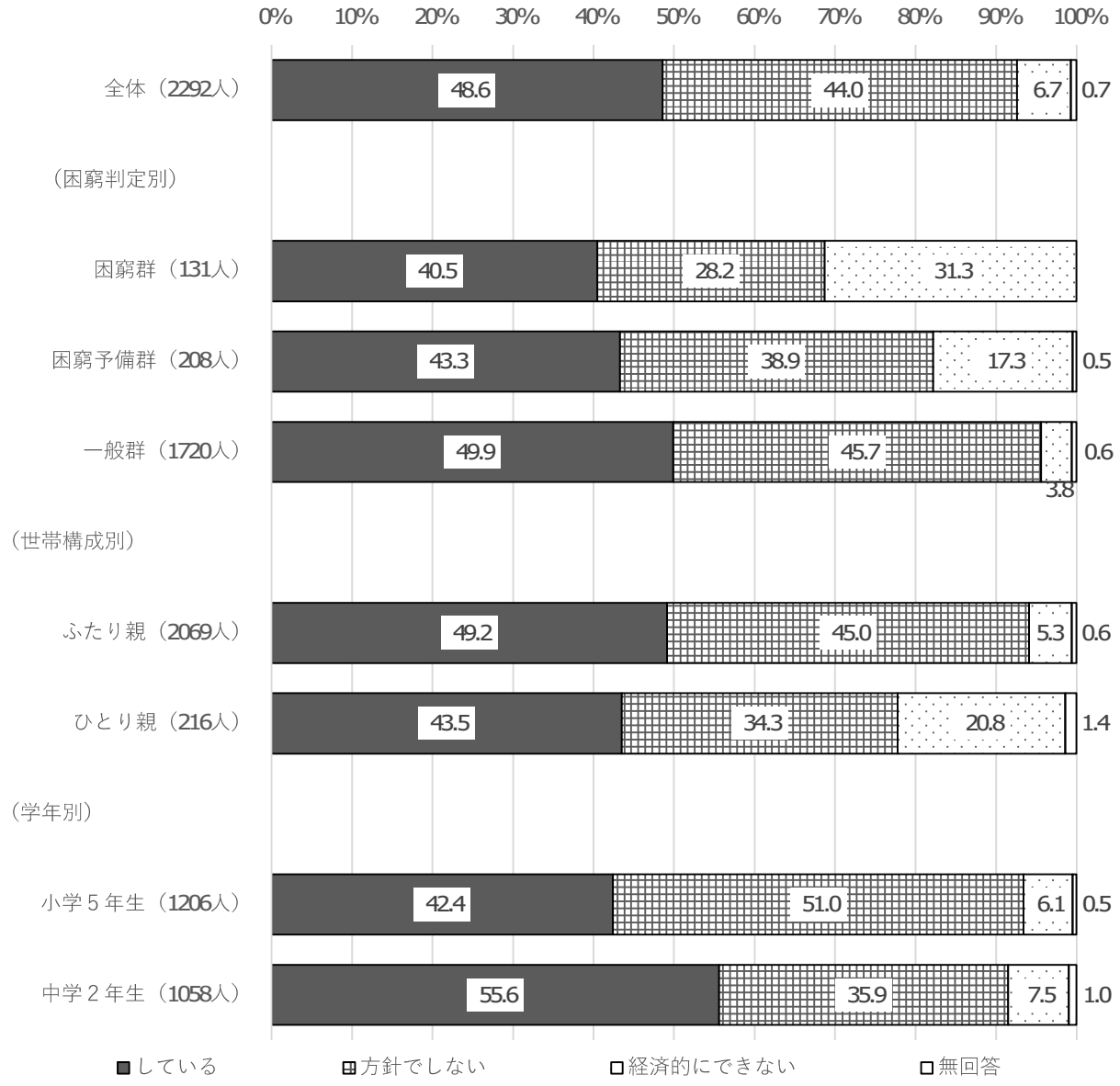
困窮判定別にみると、困窮予備群で『思う』が最も低くなり、『思わない』が最も高くなっている。

世帯構成別にみると、『思う』はふたり親の方が高く、『思わない』はひとり親の方が高かった。

（２） 保護者の状況

①家庭と経済的困窮の状況

【小５・中２ 保護者】子どもに毎月小遣いをわたしているか 「問 16-a」

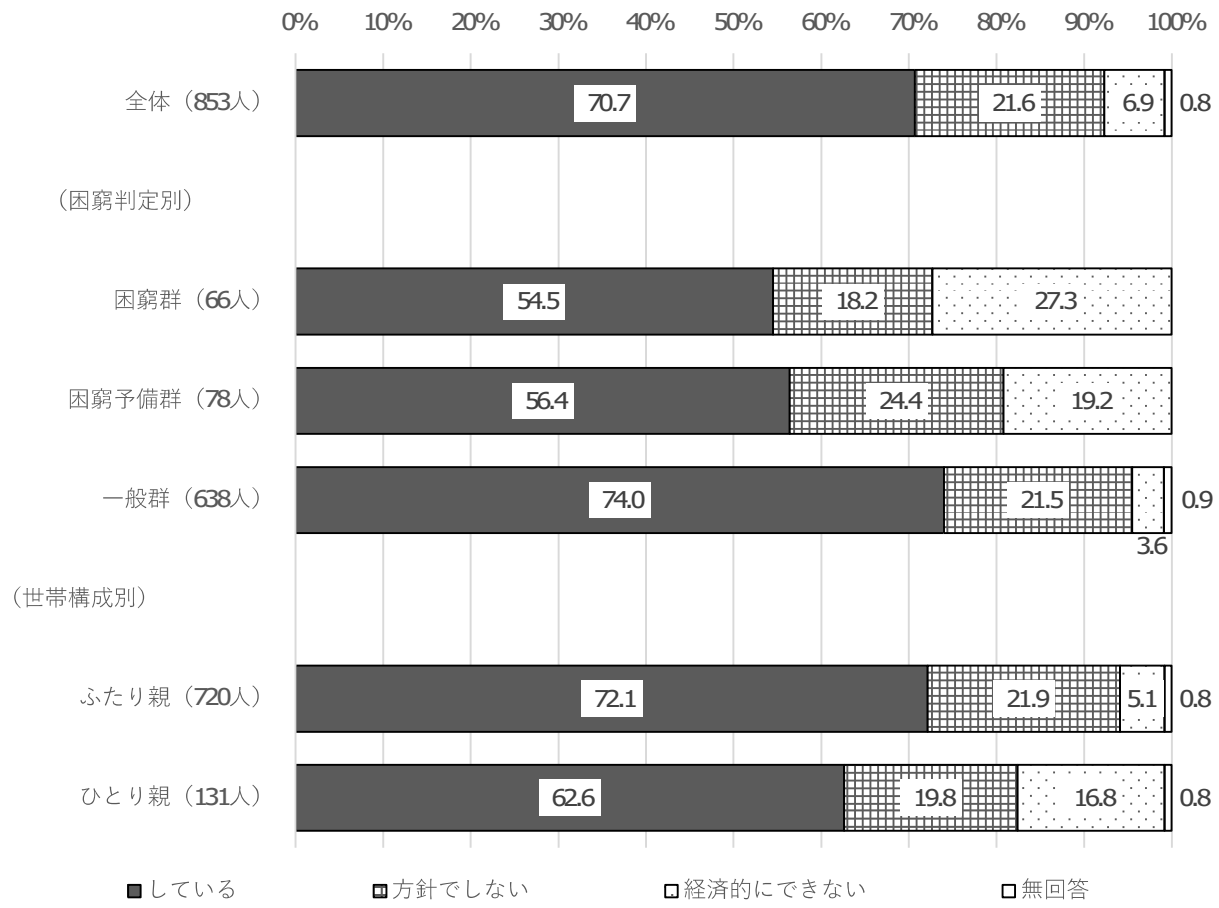


子どもに毎月小遣いをわたしているかについて、全体では「している」と「方針でしない」がほぼ半々で合わせて 92.6%を占めた。「経済的にできない」は 6.7%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」は高くなり、困窮群は「経済的にできない」が 31.3%あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「経済的にできない」が 20.8%となり、ふたり親の 5.3%と比較して 15.5 ポイント高かった。

【16～17 歳 保護者】子どもに毎月小遣いをわたしているか　「問 16-a」

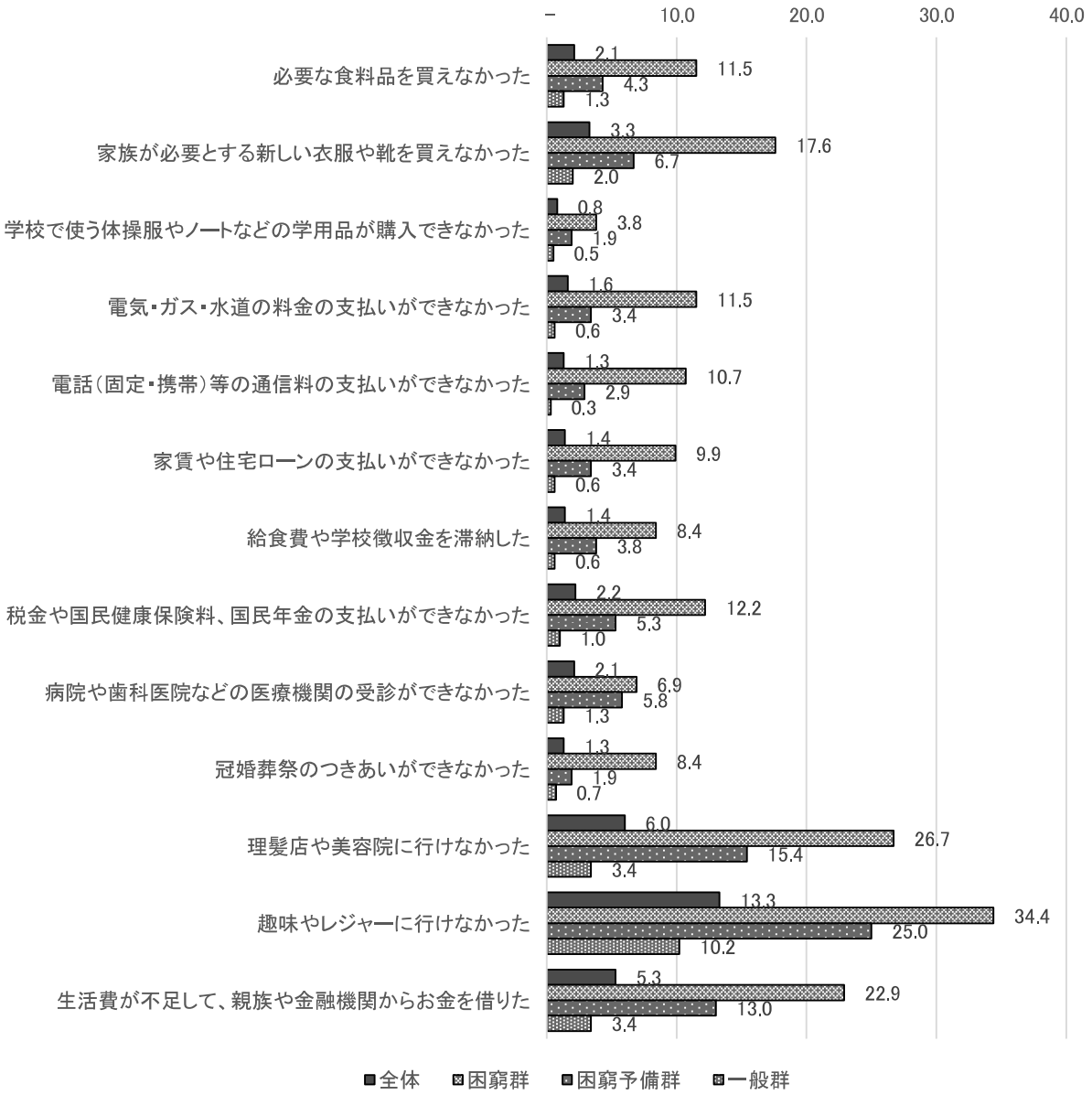


子どもに毎月小遣いをわたしているかについて、全体では「している」が 70.7%、「方針でしない」が 21.6%となり、「経済的にできない」は 6.9%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」は高くなり、困窮群は「経済的にできない」が 27.3%あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「経済的にできない」が 16.8%となり、ふたり親の 5.1%と比較して 11.7 ポイント高かった。

【小５・中２ 保護者】経済的理由で経験したこと（過去１年間）　「問 17」

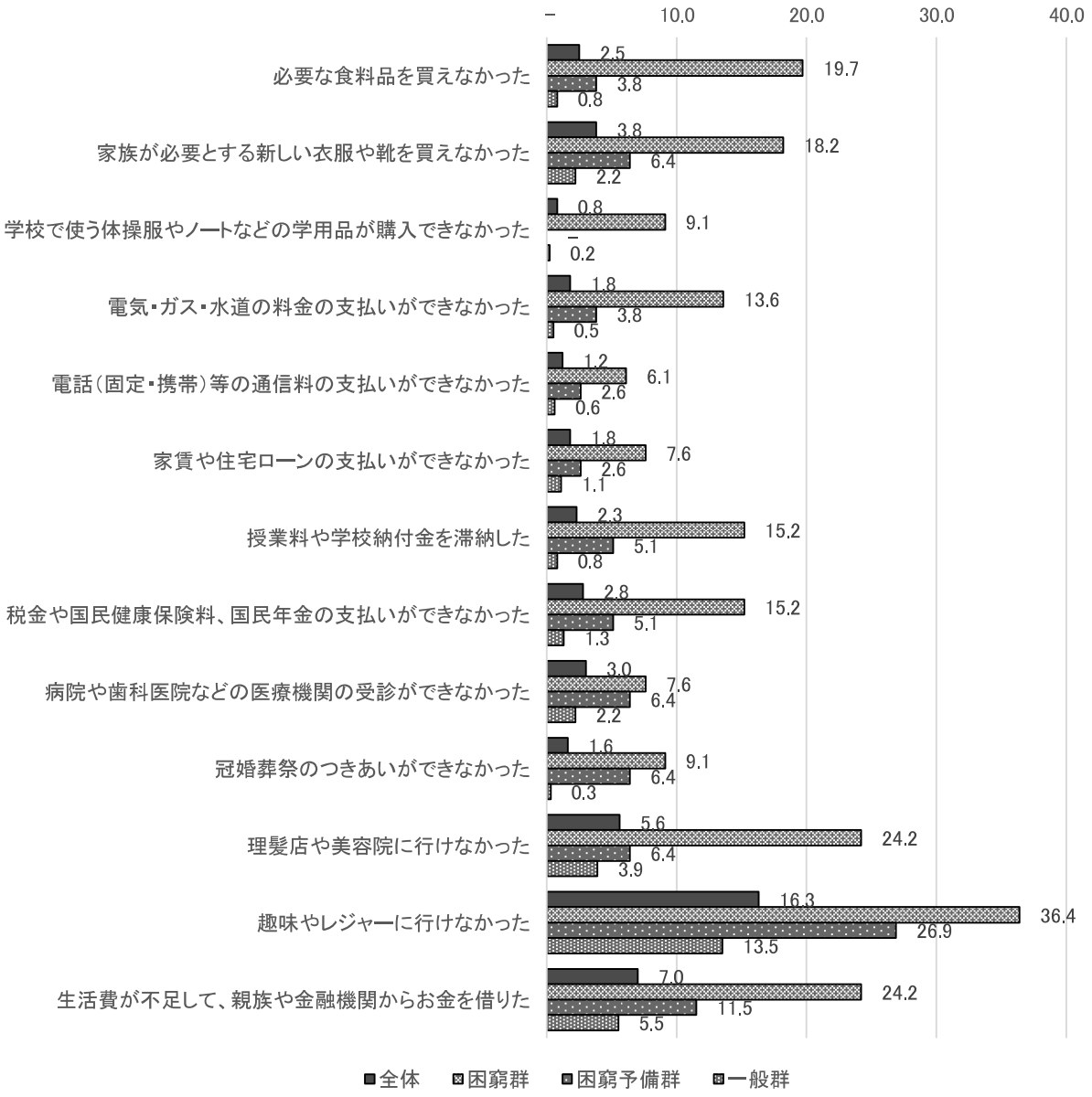


＊「特にない」「その他」「無回答」は非表示

過去１年間に経済的理由で経験したことについて、全体では「趣味やレジャーに行けなかった」が 13.3%で最も高く、次いで「理髪店や美容院に行けなかった」（6.0%）、「生活費が不足して、親族や金融機関からお金を借りた」（5.3%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、全ての選択肢で困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

【16～17 歳 保護者】経済的理由で経験したこと（過去１年間）　「問 17」

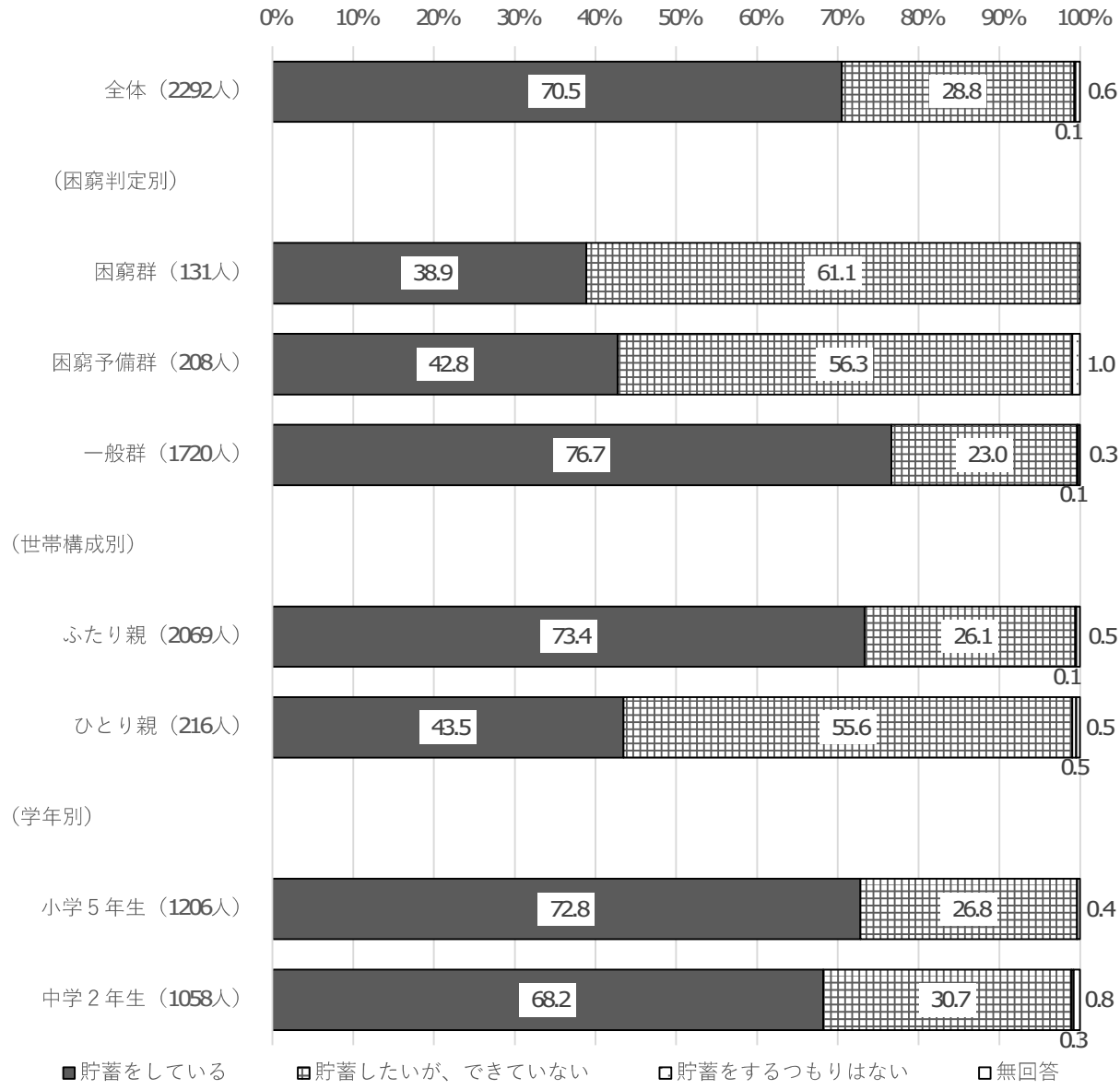


＊「特にない」「その他」「無回答」は非表示

過去１年間に経済的理由で経験したことについて、全体では「趣味やレジャーに行けなかった」が 16.3%で最も高く、次いで「生活費が不足して、親族や金融機関からお金を借りた」（7.0%）、「理髪店や美容院に行けなかった」（5.6%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、全ての選択肢で困窮度合いが高いほど回答割合も高い傾向にあった。

【小５・中２ 保護者】子どもの将来のために貯蓄をしているか　「問 24」

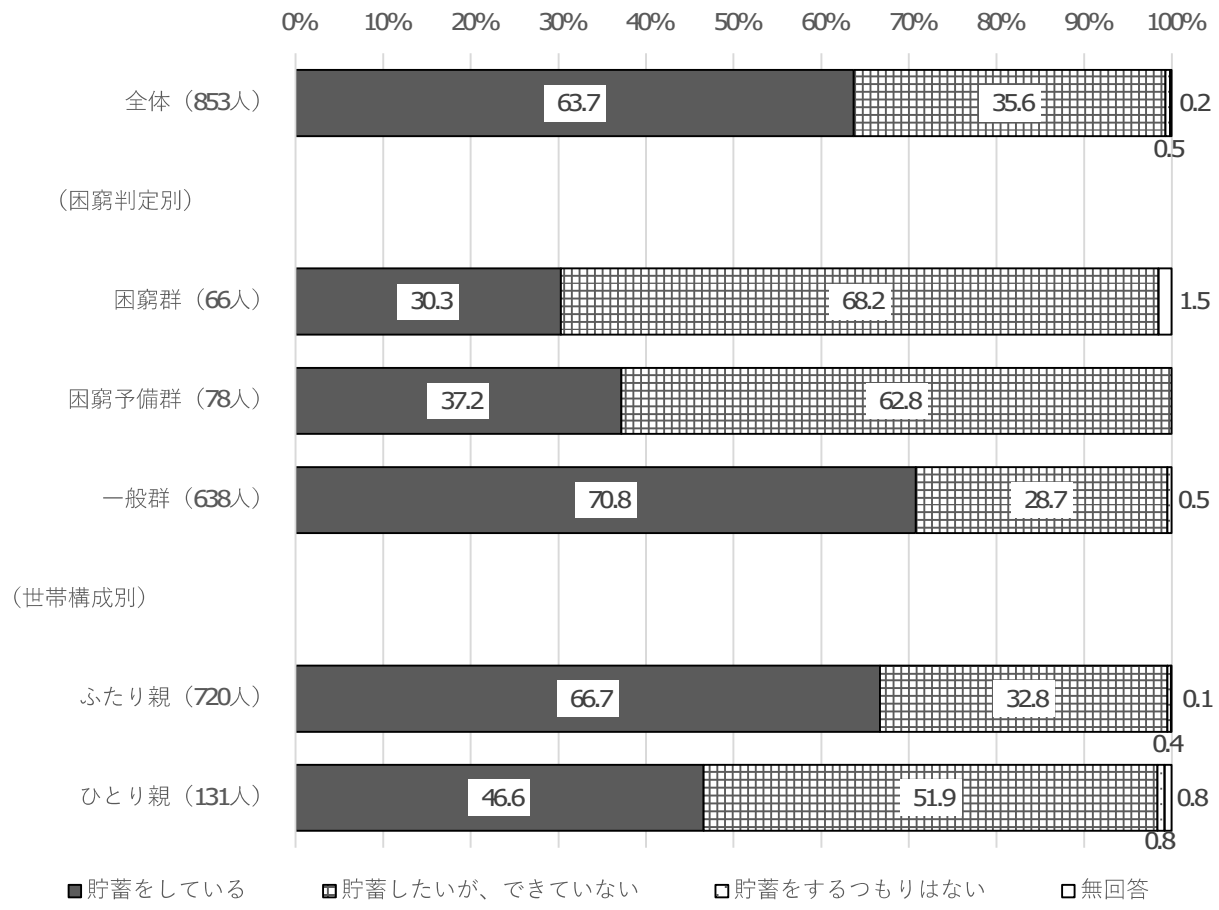


子どもの将来のために貯蓄をしているかについて、全体では「している」が 70.5%を占めた。「貯蓄したいが、できていない」は 28.8%で、「貯蓄するつもりはない」は 0.1%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「貯蓄したいが、できていない」が高くなり、困窮群は「貯蓄したいが、できていない」が 61.1%と「貯蓄している」（38.9%）を上回った。

世帯構成別に「貯蓄したいが、できていない」をみると、ふたり親が 26.1%、ひとり親が 55.6%となり、ひとり親の方が 29.5 ポイント高かった。

【16～17 歳 保護者】子どもの将来のために貯蓄をしているか　「問 24」



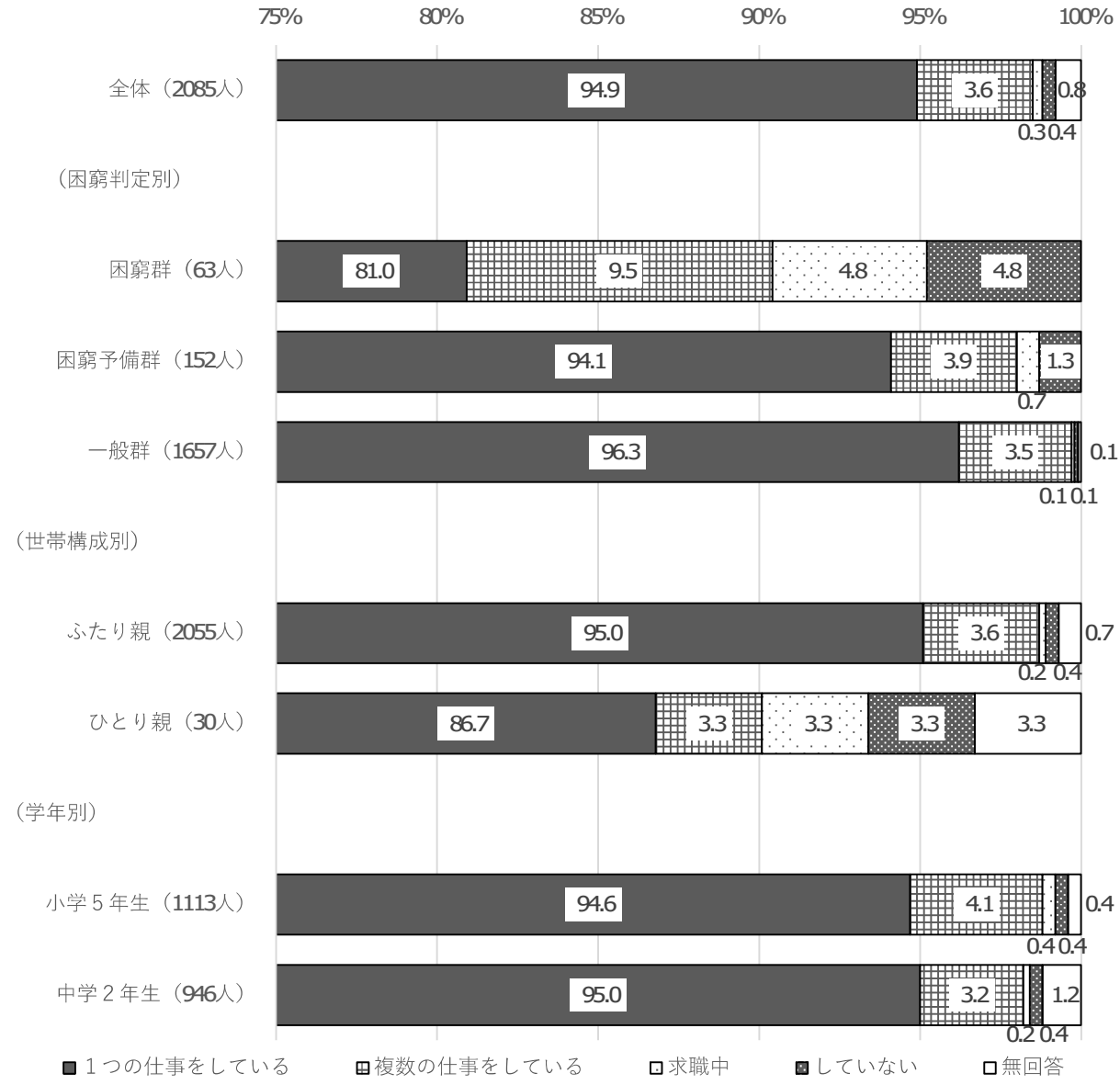
子どもの将来のために貯蓄をしているかについて、全体では「している」が 63.7%を占めた。「貯蓄したいが、できていない」は 35.6%で、「貯蓄するつもりはない」は 0.5%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「貯蓄したいが、できていない」が高くなり、困窮群は「貯蓄したいが、できていない」が 68.2%と「貯蓄している」（30.3%）を上回った。

世帯構成別に「貯蓄したいが、できていない」をみると、ふたり親が 32.8%、ひとり親が 51.9%となり、ひとり親の方が 19.1 ポイント高かった。

②就労と子育ての両立

【小５・中２ 保護者】保護者の就労状況（父親）　「問８」



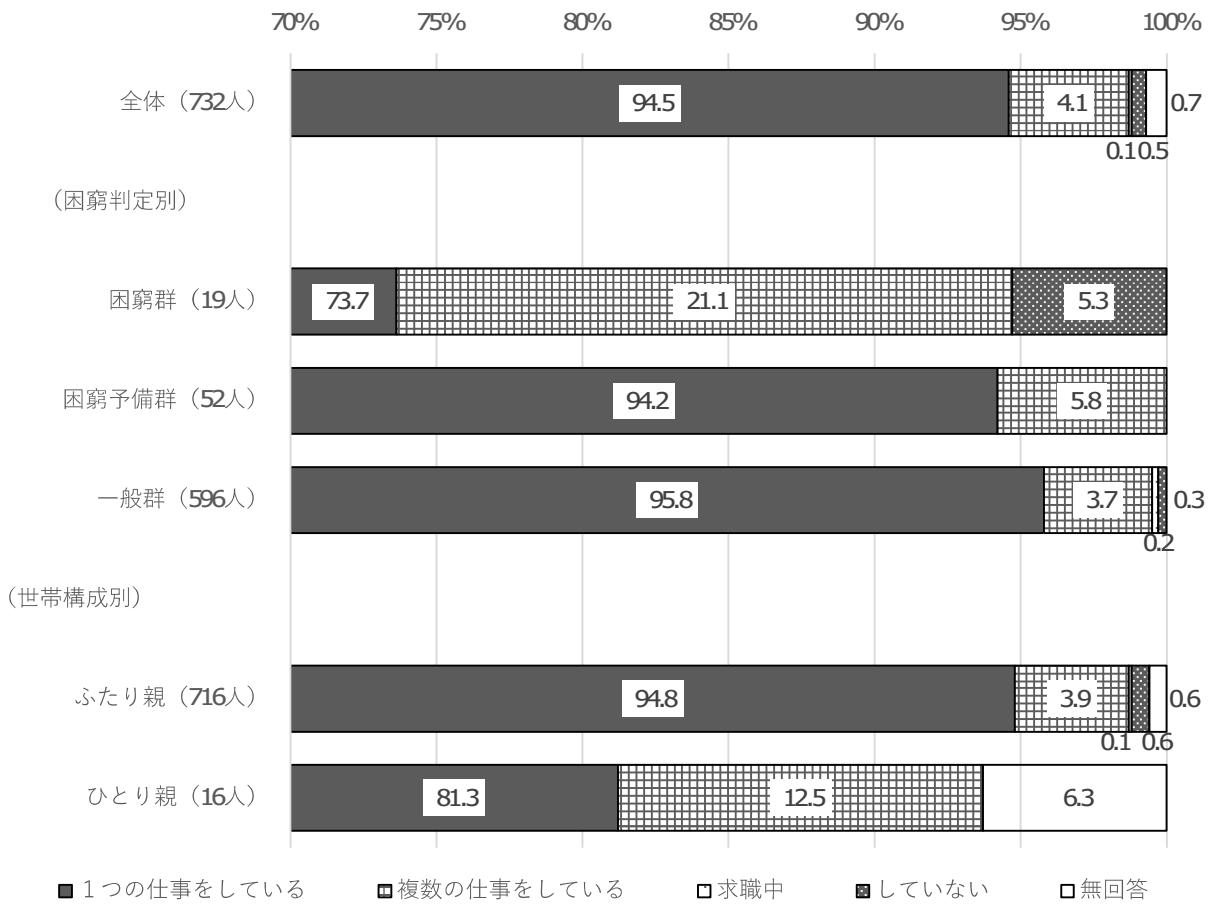
＊目盛りの下限値を 75%で調整

父親の就労状況について、全体では「1 つの仕事をしている」が 94.9%を占めた。

困窮判定別にみると、困窮群は「複数の仕事をしている」「求職中」「していない」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝父子家庭）は「休職中」が 3.3%、「していない」が 3.3%と相対的に高かった。

【16～17 歳 保護者】保護者の就労状況（父親）　「問８」



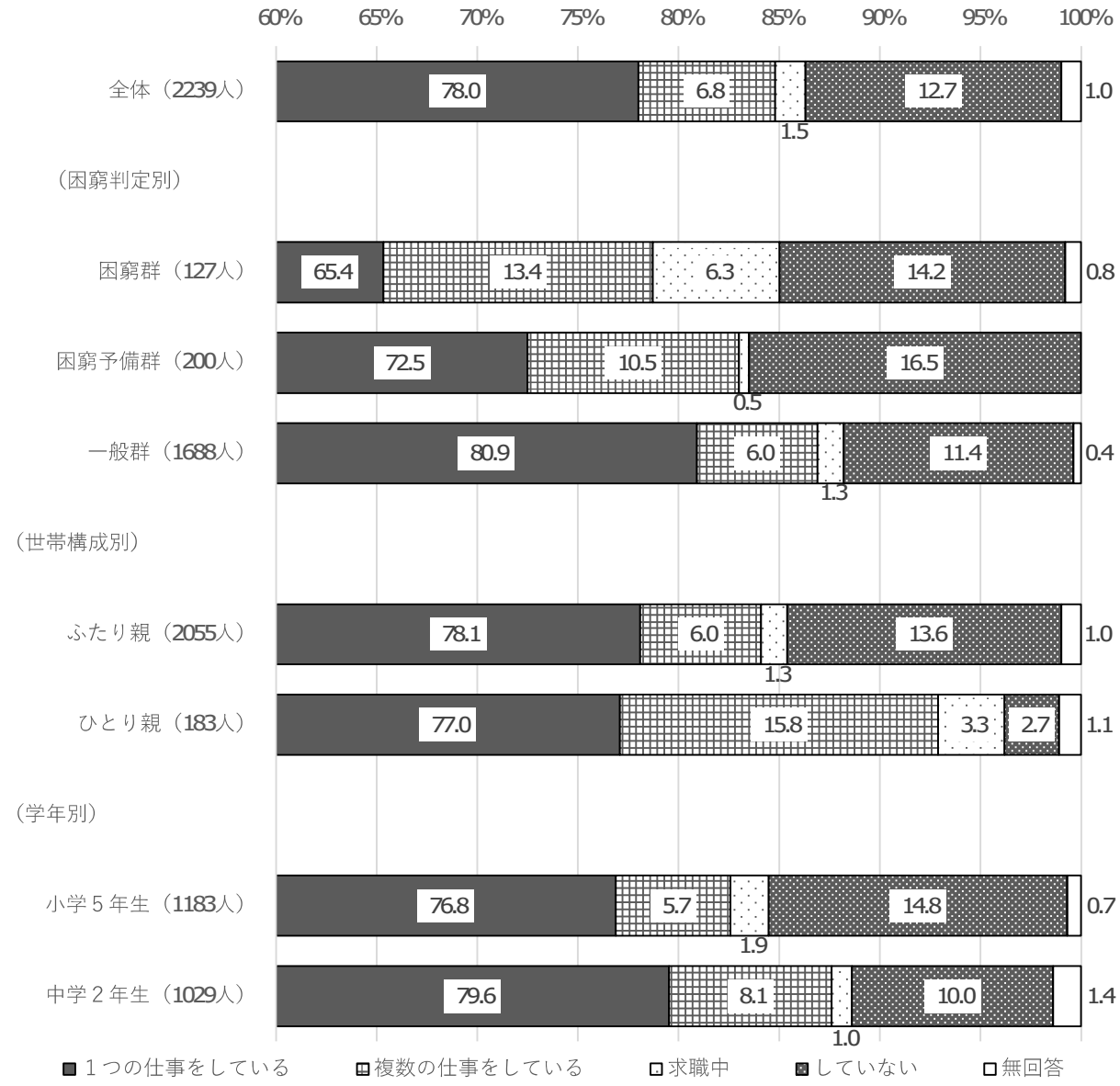
＊目盛りの下限値を 70%で調整

父親の就労状況について、全体では「1 つの仕事をしている」が 94.5%を占めた。

困窮判定別にみると、困窮群は「複数の仕事をしている」「していない」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝父子家庭）は「複数の仕事をしている」が 12.5%と相対的に高かった。

【小５・中２ 保護者】保護者の就労状況（母親）　「問８」



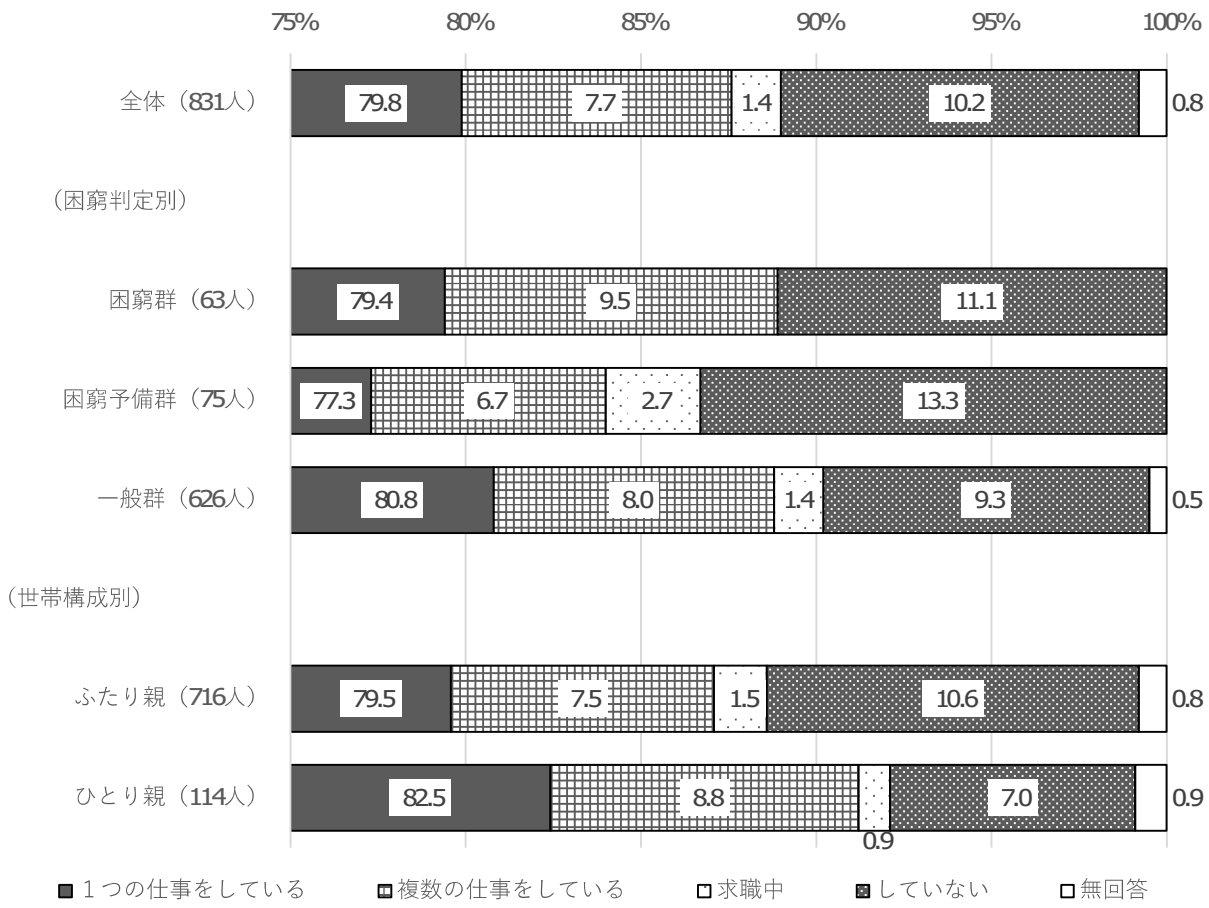
＊目盛りの下限値を 60%で調整

母親の就労状況について、全体では「1 つの仕事をしている」が 78.0%を占めた。

困窮判定別にみると、困窮群は「複数の仕事をしている」「求職中」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝母子家庭）は「複数の仕事をしている」が 15.8%と相対的に高く、「していない」が 2.7%と相対的に低かった。

【16～17 歳 保護者】保護者の就労状況（母親）　「問８」



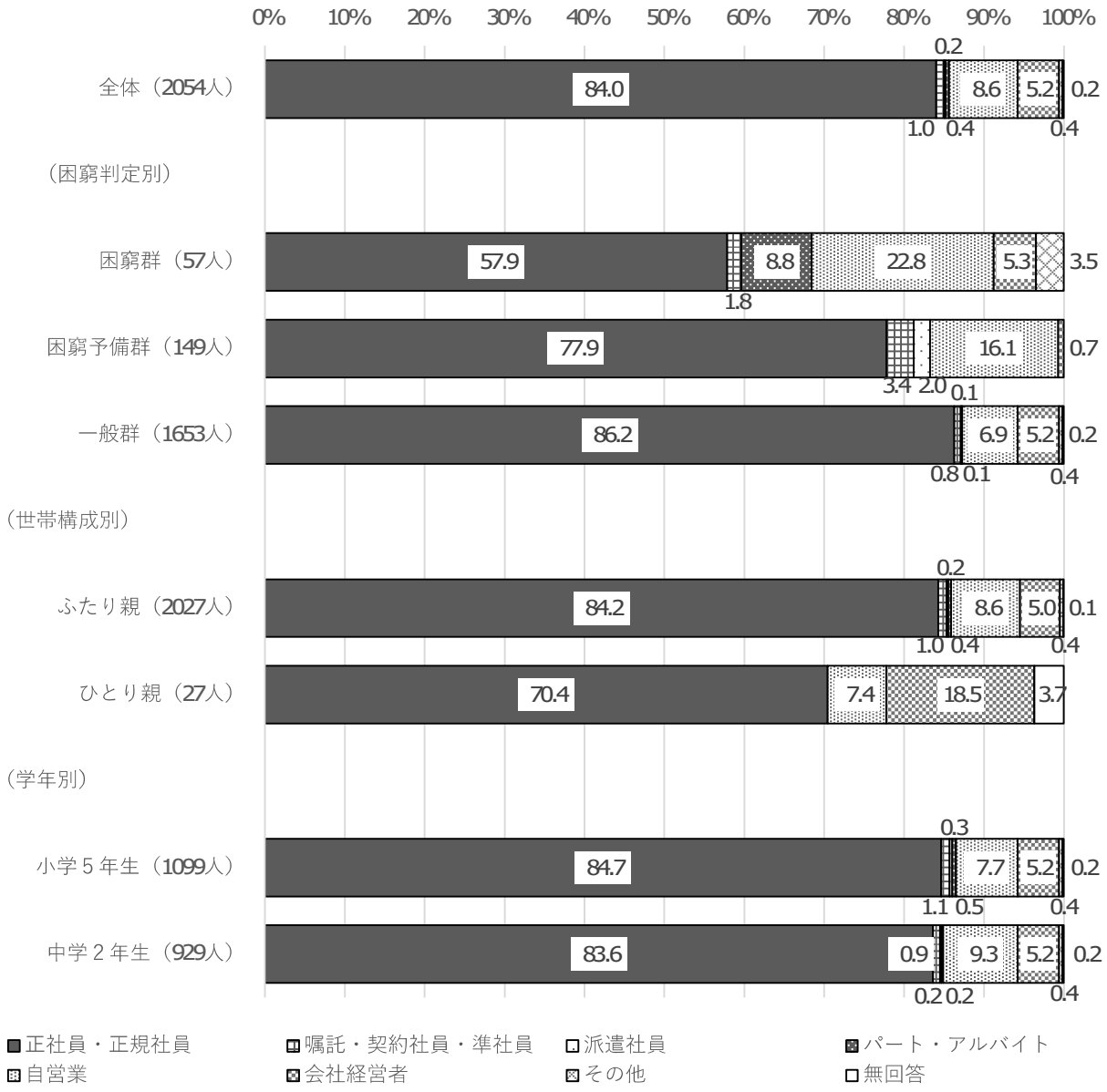
＊目盛りの下限値を 75%で調整

母親の就労状況について、全体では「1 つの仕事をしている」が 79.8%を占めた。

困窮判定別にみると、困窮群は「複数の仕事をしている」、困窮予備群は「していない」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝母子家庭）は「１つの仕事をしている」（82.5%）と「複数の仕事をしている」（8.8%）を合わせた『仕事をしている』が 91.3%と相対的に高かった。

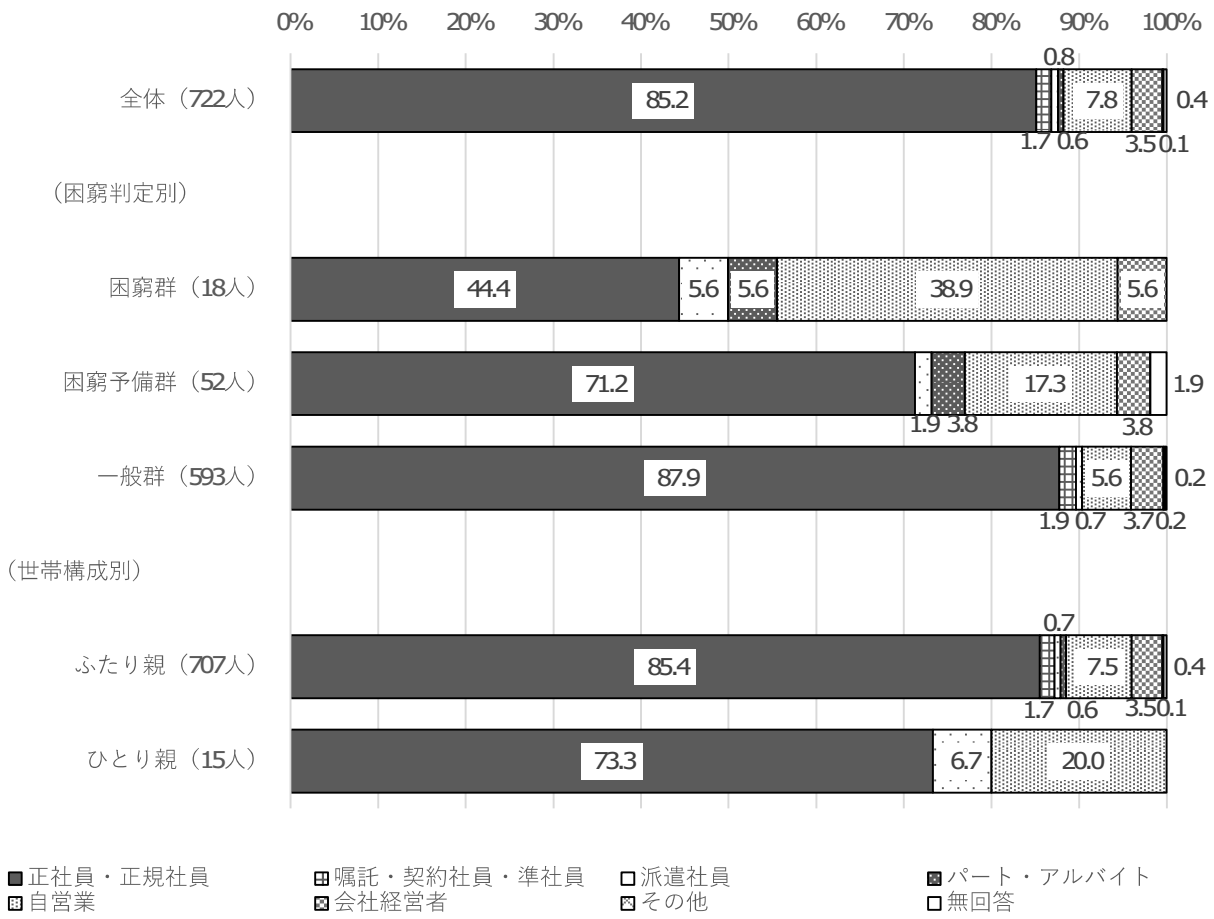
【小５・中２ 保護者】保護者の雇用形態（父親）　「問９」



父親の雇用形態について、全体では「正社員」が 84.0％を占め、「非正規」は 1.6％にとどまった。
困窮判定別にみると、困窮群は「正社員」が 57.9％と低く、「非正規」「自営業」が相対的に高かった。
世帯構成別にみると、ひとり親（＝父子家庭）は「会社経営者」が相対的に高かった。

＊「非正規」は、設問の選択肢「嘱託・契約社員・準社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」を合算

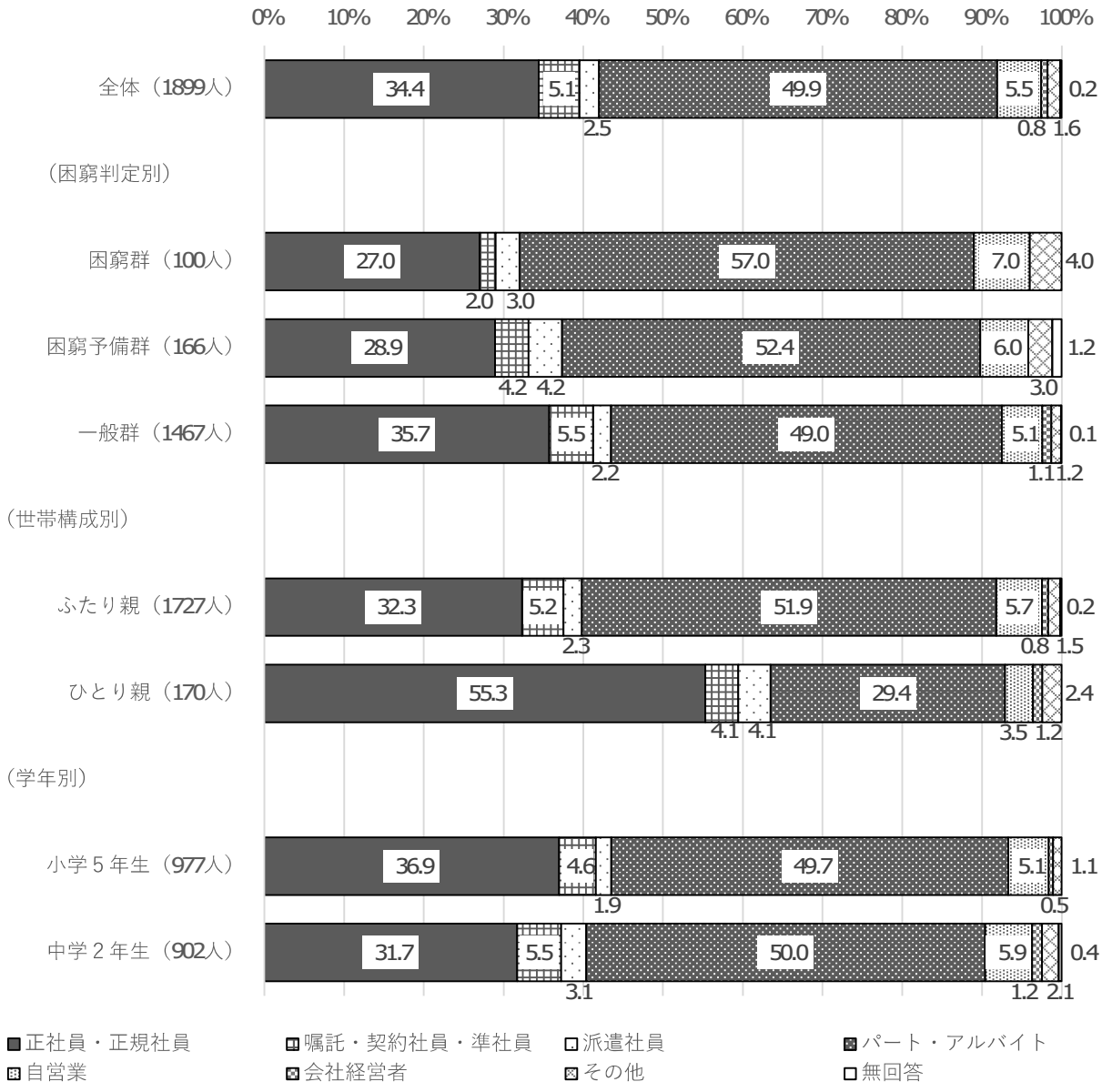
【16～17 歳 保護者】保護者の雇用形態（父親）　「問９」



父親の雇用形態について、全体では「正社員」が 85.2％を占め、「非正規」は 3.1％にとどまった。
困窮判定別にみると、困窮群は「正社員」が 44.4％と低く、「非正規」「自営業」が相対的に高かった。
世帯構成別にみると、ひとり親（＝父子家庭）は「非正規」「自営業」が相対的に高かった。

＊「非正規」は、設問の選択肢「嘱託・契約社員・準社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」を合算

【小５・中２ 保護者】保護者の雇用形態（母親）　「問９」



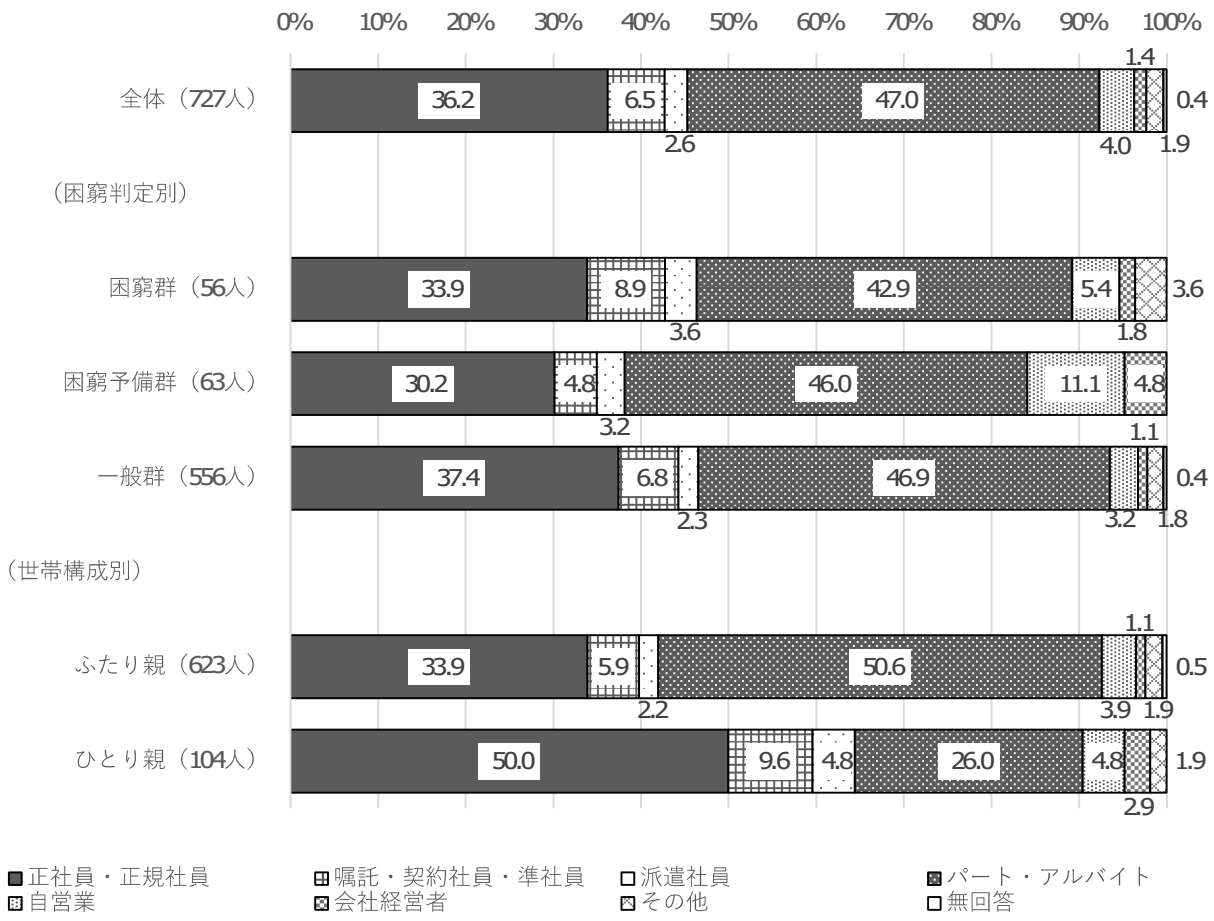
母親の雇用形態について、全体では「非正規」が 57.5%と半数を占め、「正社員」は 34.4%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮群は「正社員」が 27.0%と低く、「非正規」が 62.0%と相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝母子家庭）は「正社員」が 55.3%とふたり親と比較して高かった。

＊「非正規」は、設問の選択肢「嘱託・契約社員・準社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」を合算

【16～17 歳 保護者】保護者の雇用形態（母親）　「問９」



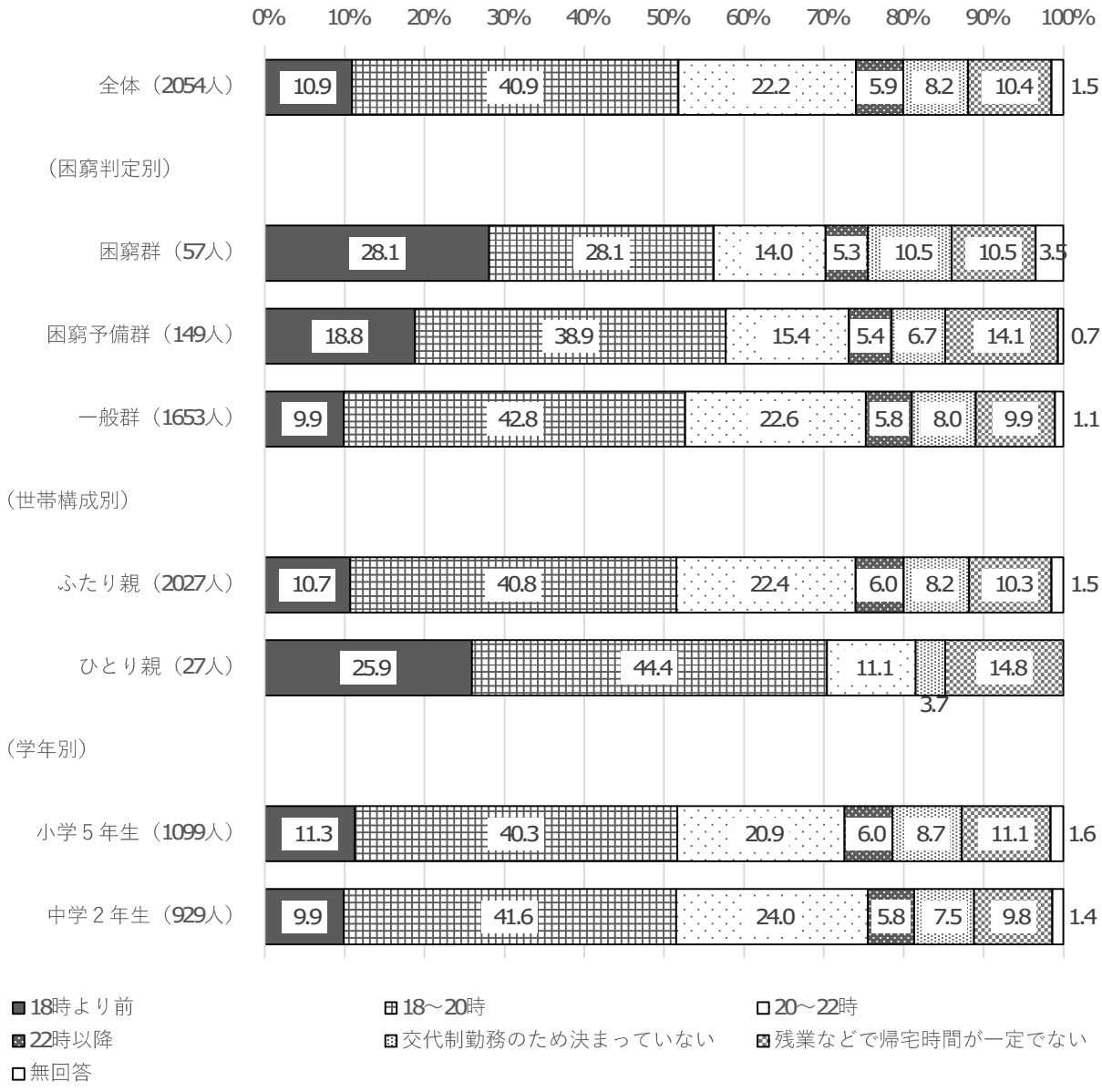
母親の雇用形態について、全体では「非正規」が 56.1％と半数を占め、「正社員」は 36.2％にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮群は「正社員」が 33.9％、困窮予備群は 30.2％と低く、「自営業」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（＝母子家庭）は「正社員」が 50.0％と相対的に高かった。

＊「非正規」は、設問の選択肢「嘱託・契約社員・準社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」を合算

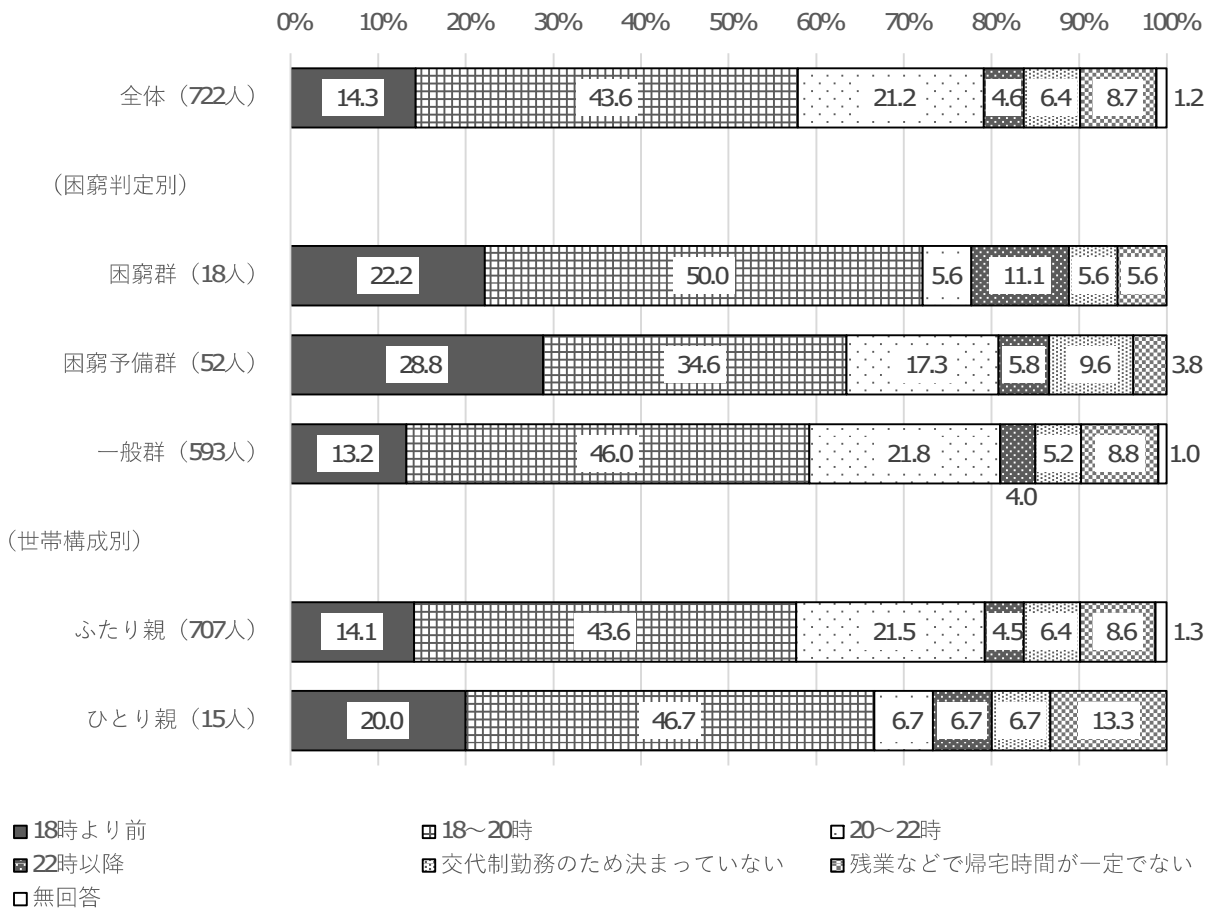
【小５・中２ 保護者】保護者の帰宅時間（父親）　「問 10」



働いている父親の帰宅時間について、全体では「18～20 時」が 40.9％で最も高く、次いで「20～22 時」（22.2％）が高かった。『20 時まで』は 51.8％だった。

世帯構成別にみると、ひとり親家庭（＝父子家庭）は、「18 時より前」の 25.9％と「18～20 時」の 44.4％を合わせた『20 時まで』が 70.3％とふたり親（51.5％）より 18.8 ポイント多く、帰宅時間が早くなる傾向がみられた。

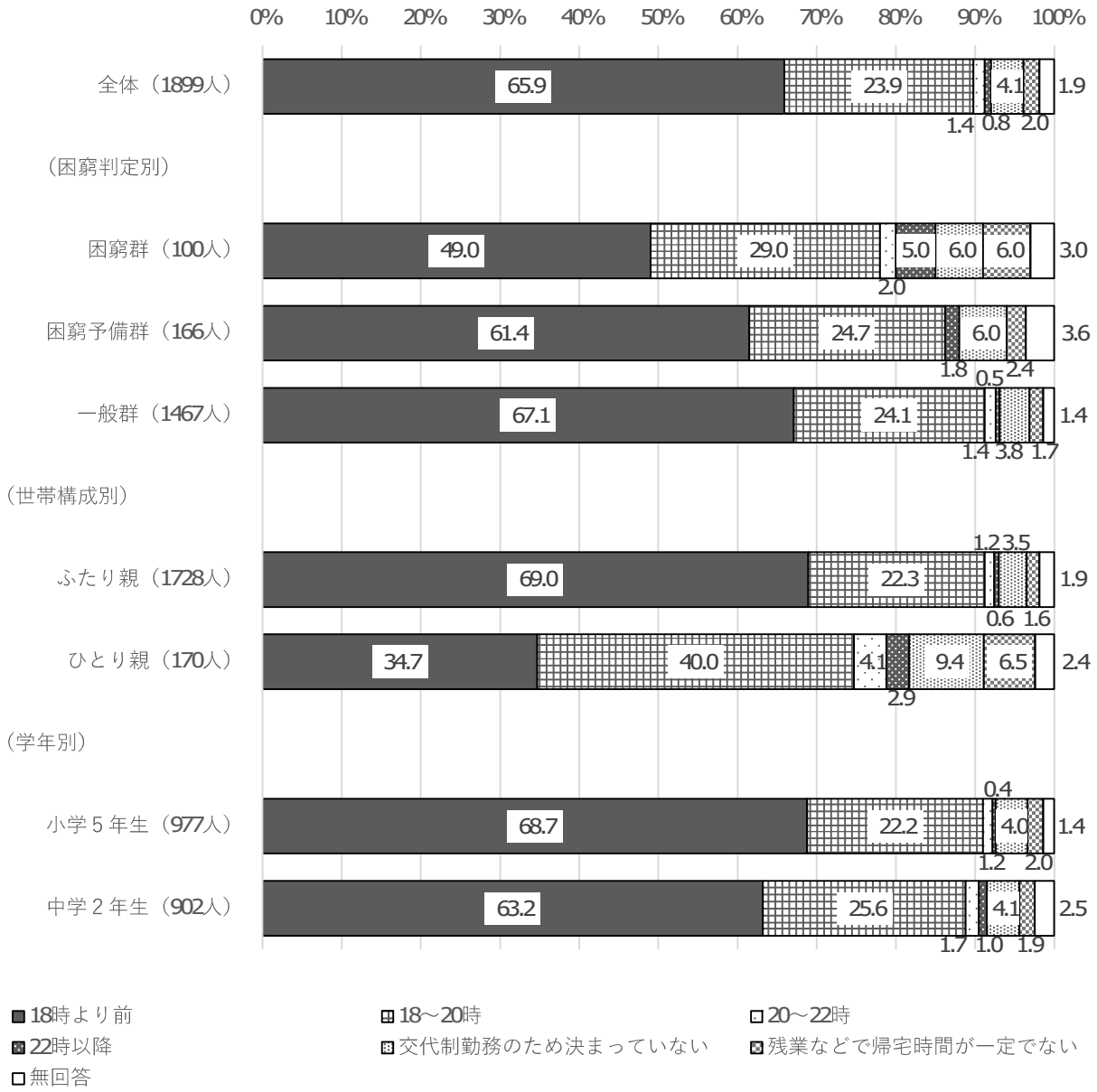
【16～17 歳 保護者】保護者の帰宅時間（父親）　「問 10」



働いている父親の帰宅時間について、全体では「18～20 時」が 43.6％で最も高く、次いで「20～22 時」（21.2％）が高かった。『20 時まで』は 57.9％だった。

世帯構成別にみると、ひとり親家庭（＝父子家庭）は、「18 時より前」の 20.0％と「18～20 時」の 46.7％を合わせた『20 時まで』が 66.7％とふたり親（57.7％）より 9.0 ポイント多く、帰宅時間が早くなる傾向がみられた。

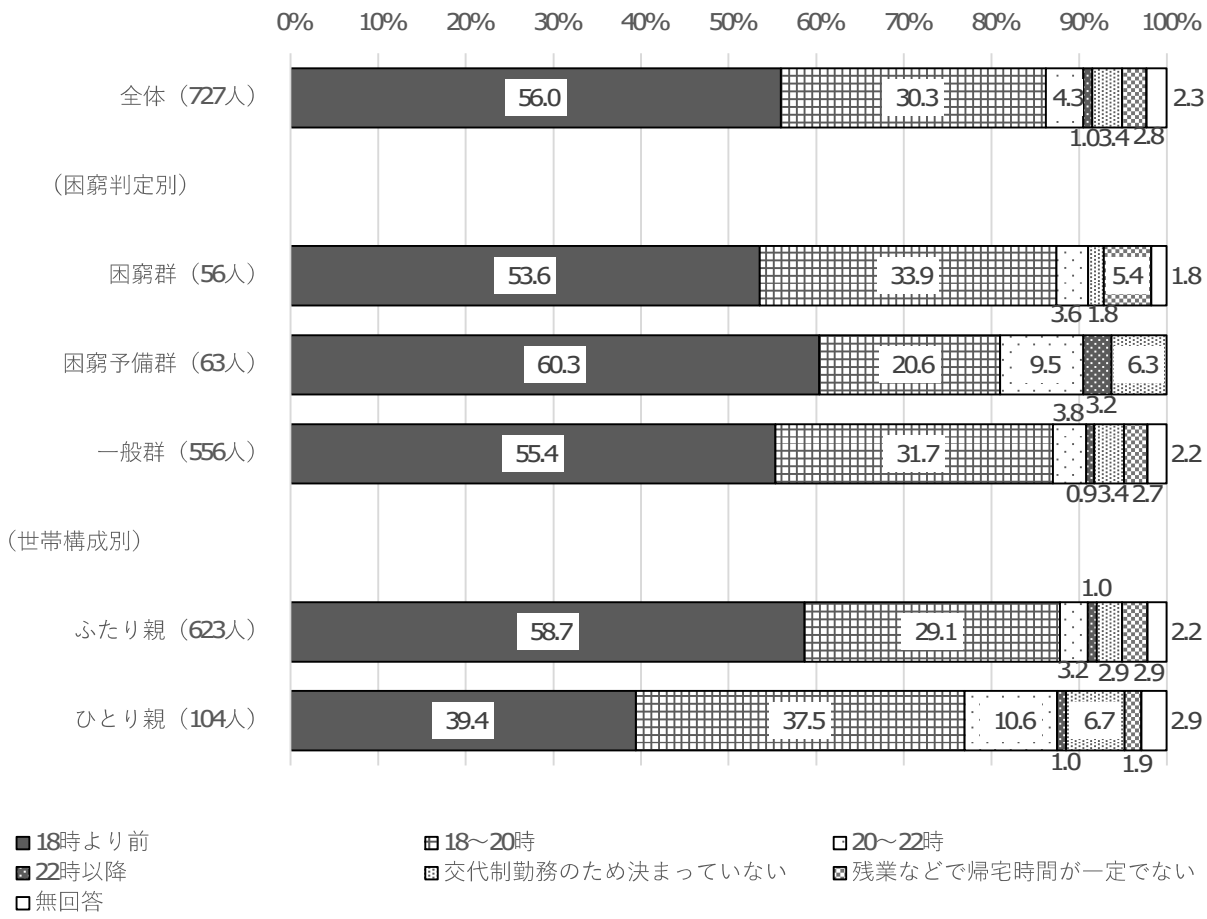
【小５・中２ 保護者】保護者の帰宅時間（母親）　「問 10」



働いている母親の帰宅時間について、全体では「18 時より前」が 65.9％で最も高く、次いで「18～20 時」（23.9％）が高かった。『20 時まで』は 89.8％だった。

世帯構成別にみると、ひとり親家庭（＝母子家庭）は、「18 時より前」が 34.7％とふたり親（69.0％）より 34.3 ポイント少なく、帰宅時間が遅くなる傾向がみられた。

【16～17 歳 保護者】保護者の帰宅時間（母親）　「問 10」

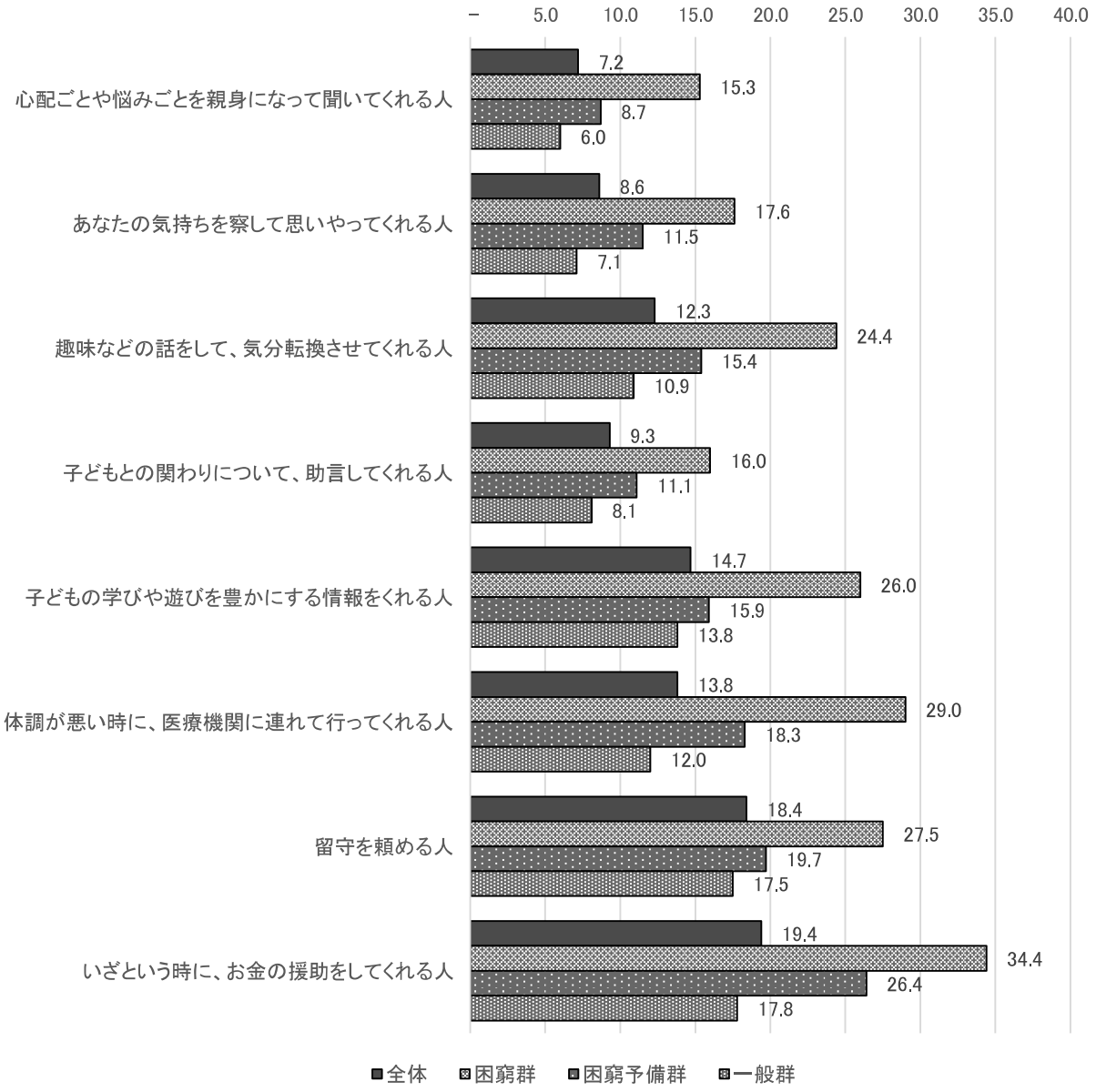


働いている母親の帰宅時間について、全体では「18 時より前」が 56.0％で最も高く、次いで「18～20 時」（30.3％）が高かった。『20 時まで』は 86.3％だった。

世帯構成別にみると、ひとり親家庭（＝母子家庭）は、「18 時より前」が 39.4％とふたり親（58.7％）より 19.3 ポイント少なく、帰宅時間が遅くなる傾向がみられた。

③保護者の孤立・悩み

【小５・中２ 保護者】相談相手等について（相手がいない割合）　「問 27」

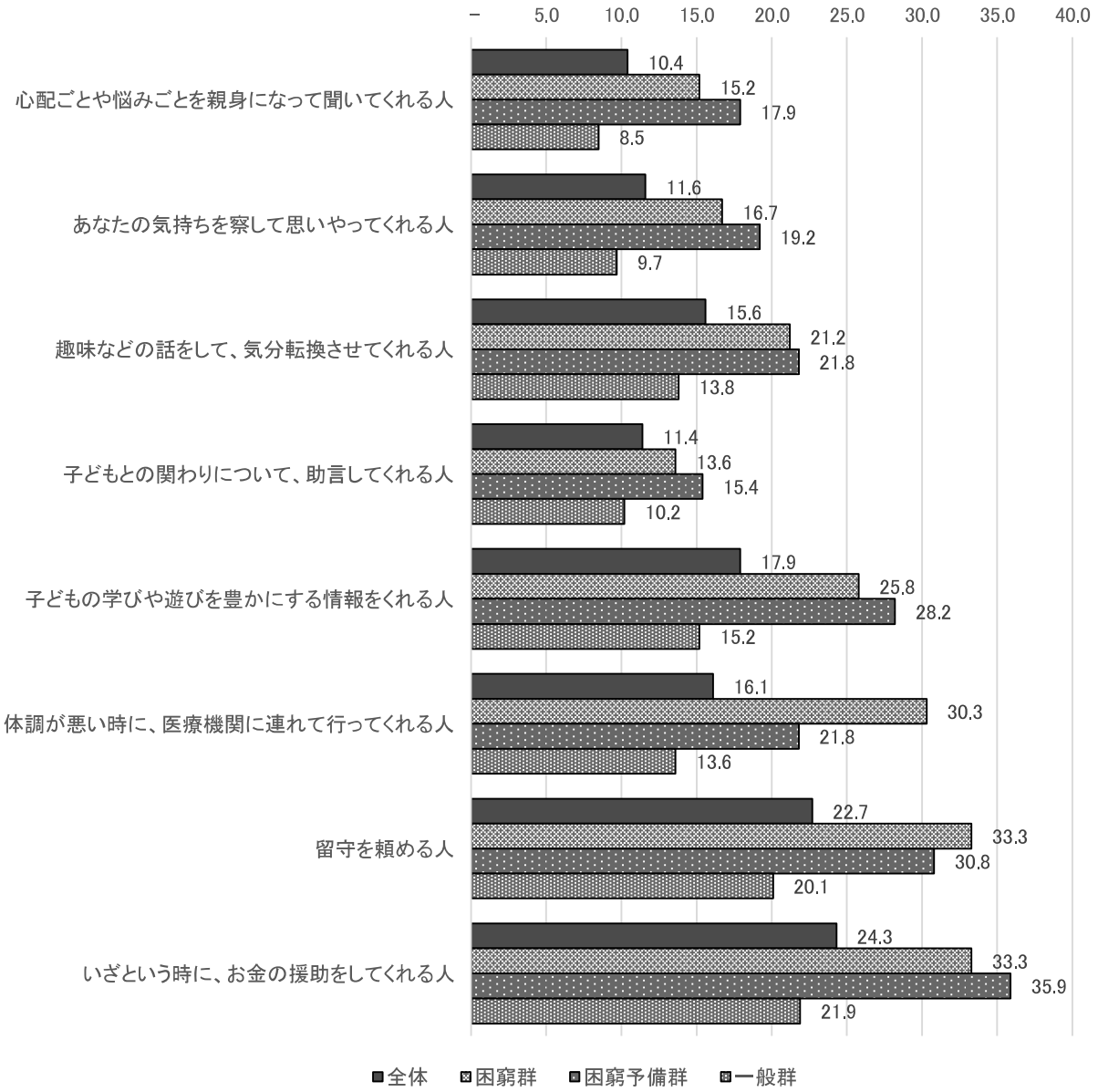


＊「無回答」は非表示

相談相手等がいないことについて、全体では「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が 19.4%で最も高く、次いで「留守を頼める人」（18.4%）、「子どもの学びや遊びを豊かにする情報をくれる人」（14.7%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、全ての選択肢で困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。困窮群は「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が 34.4%で最も高かった。

【16～17 歳 保護者】相談相手等について（相手がいない割合）　「問 27」

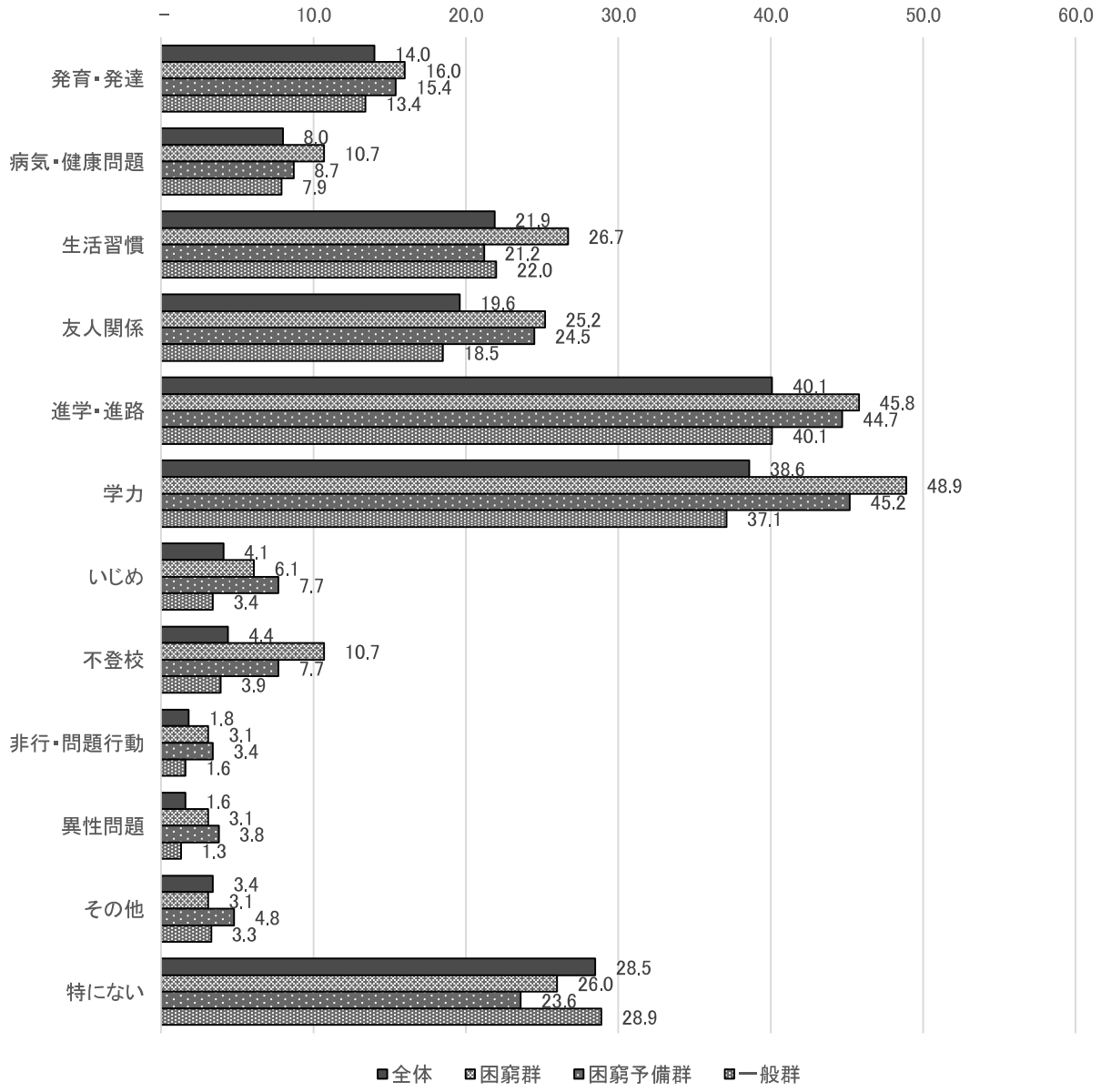


＊「無回答」は非表示

相談相手等がいないことについて、全体では「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が 24.3%で最も高く、次いで「留守を頼める人」（22.7%）、「子どもの学びや遊びを豊かにする情報をくれる人」（17.9%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群では 2 つの選択肢、困窮予備群では 6 つの選択肢が最も回答割合が高かった。困窮群は「留守を頼める人」と「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が 33.3%で最も高く、困窮予備群では「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が 35.9%で最も高かった。

【小５・中２ 保護者】子どもに関する悩み　「問 25」

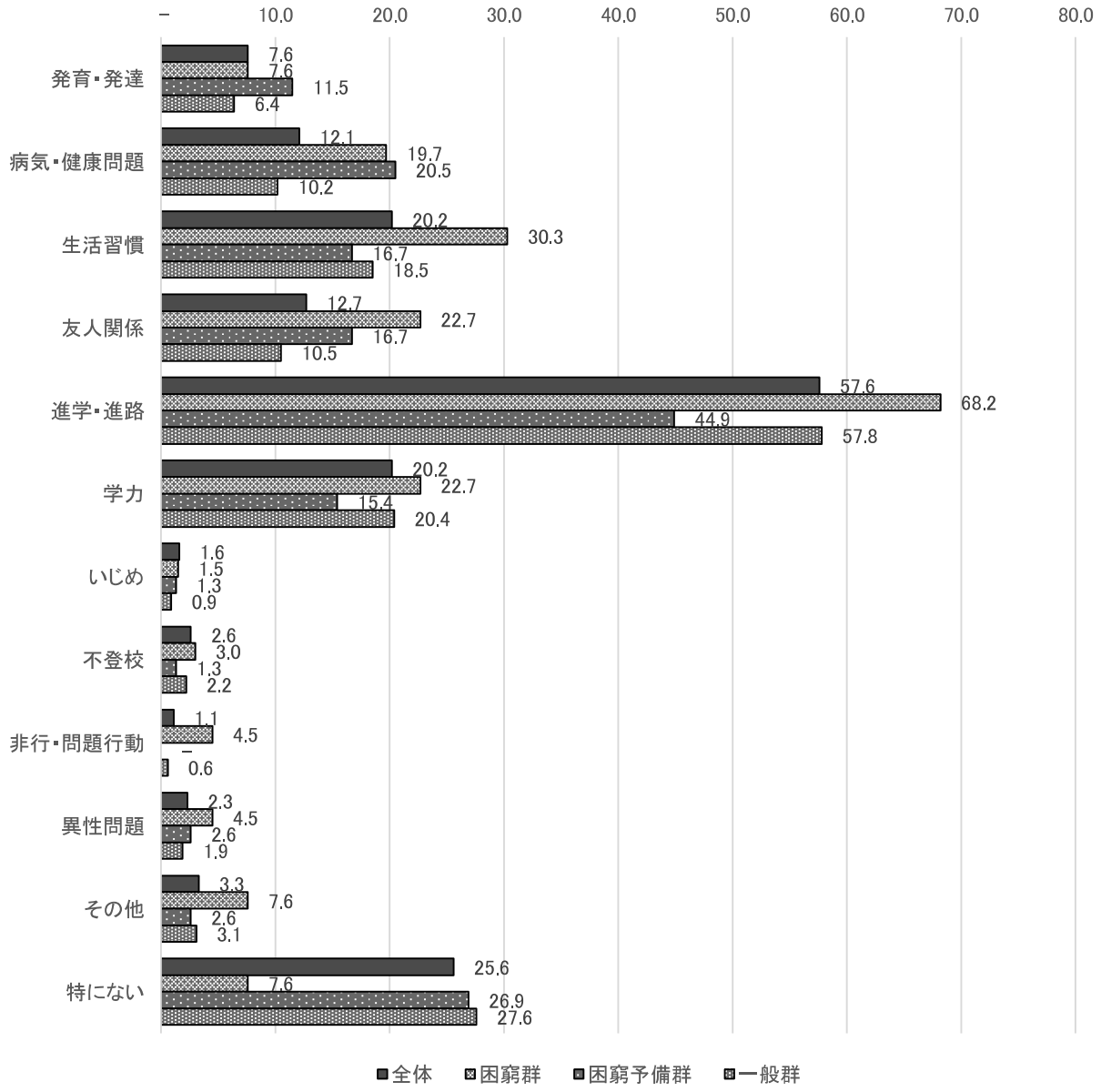


＊「無回答」は非表示

保護者の子どもに関する悩みについて、全体では「進学・進路」が 40.1％で最も高く、次いで「学力」（38.6％）、「特にない」（28.5％）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」以外の選択肢の回答割合が概ね高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、「学力」は困窮群の方が 10 ポイント以上高かった。

【16～17 歳 保護者】子どもに関する悩み　「問 25」

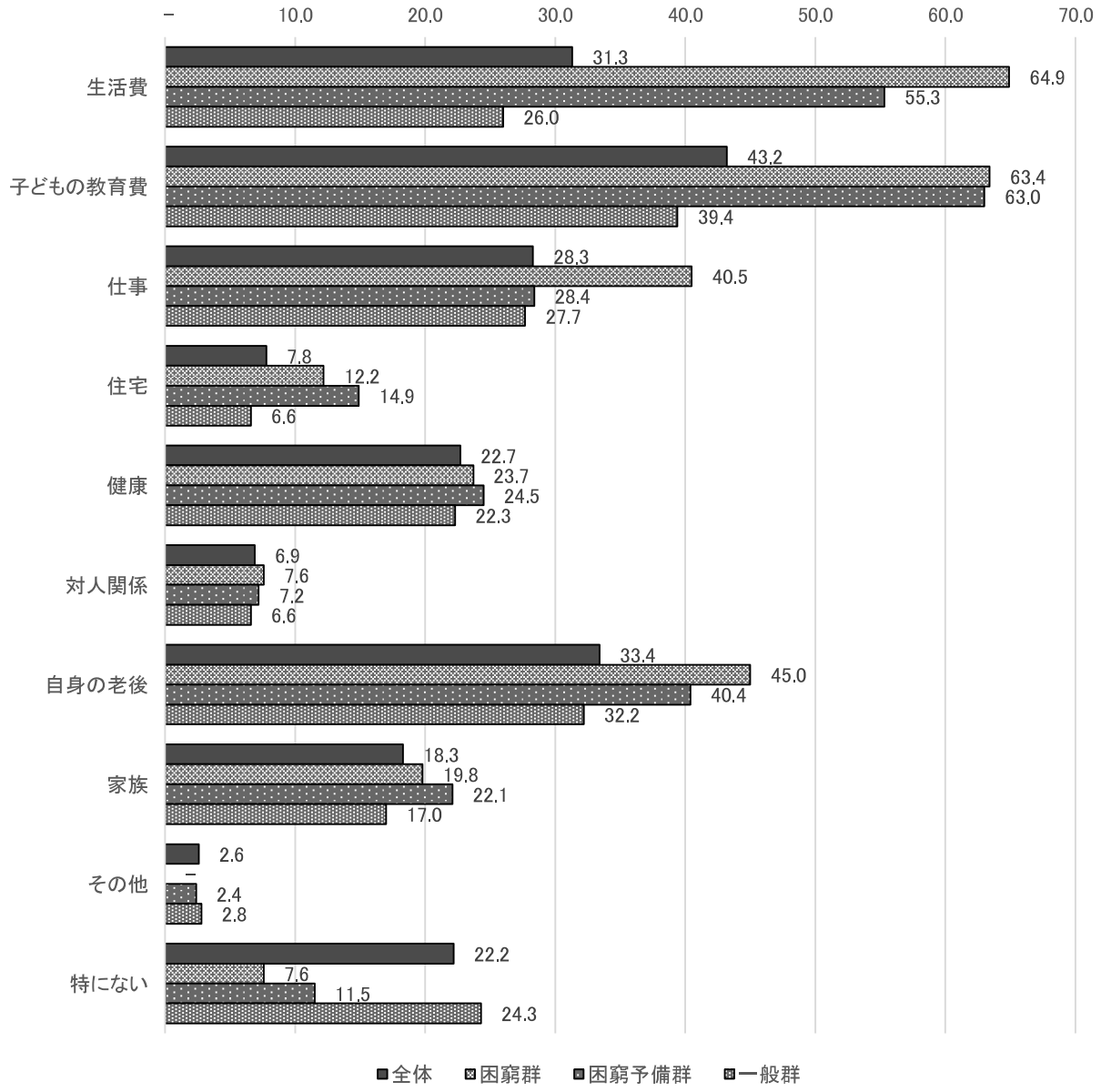


＊「無回答」は非表示

保護者の子どもに関する悩みについて、全体では「進学・進路」が 57.6%で最も高く、次いで「特にない」（25.6%）、「学力」（20.2%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」が低くなり、他の選択肢の回答割合が概ね高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、「生活習慣」「友人関係」「進学・進路」は困窮群の方が 10 ポイント以上高かった。

【小５・中２ 保護者】保護者自身の悩み　「問 26」

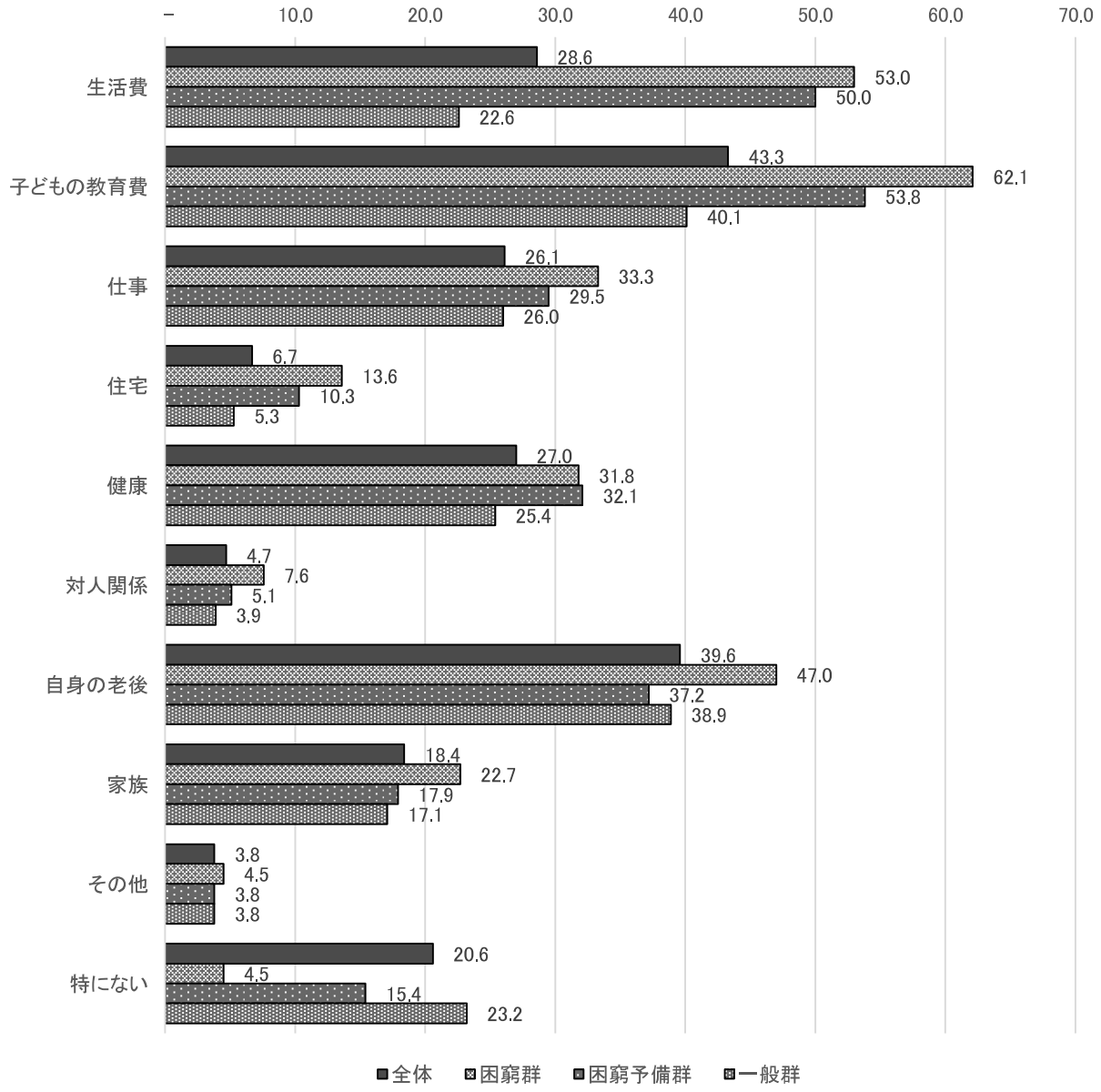


＊「無回答」は非表示

保護者自身の悩みについて、全体では「子どもの教育費」が 43.2%で最も高く、次いで「自身の老後」（33.4%）、「生活費」（31.3%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」が低くなり、他の選択肢の回答割合が概ね高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、「生活費」「子どもの教育費」「仕事」「自身の老後」は困窮群の方が 10 ポイント以上高く、特に「生活費」は 38.9 ポイント、「子どもの教育費」は 24.0 ポイント高かった。

【16～17 歳 保護者】保護者自身の悩み　「問 26」



＊「無回答」は非表示

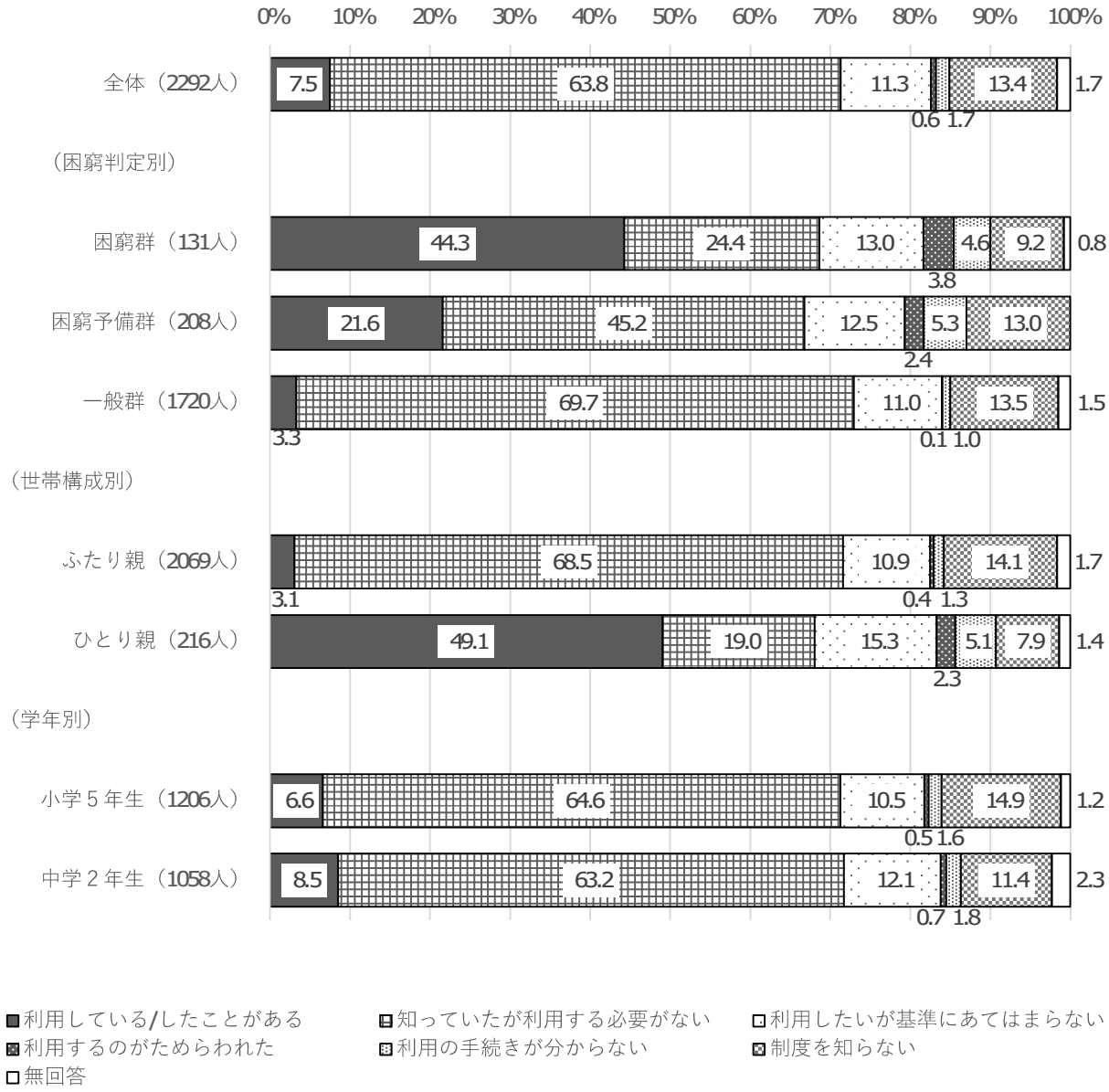
保護者自身の悩みについて、全体では「子どもの教育費」が 43.3%で最も高く、次いで「自身の老後」（39.6%）、「生活費」（28.6%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」が低くなり、他の選択肢の回答割合が概ね高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、困窮群の方が「生活費」は 30.4 ポイント、「子どもの教育費」は 22.0 ポイント高かった。

（3） 各種支援・サービスの活用・認知状況

①保護者の事業利用状況

【小５・中２ 保護者】就学援助の利用 「問 29-a」

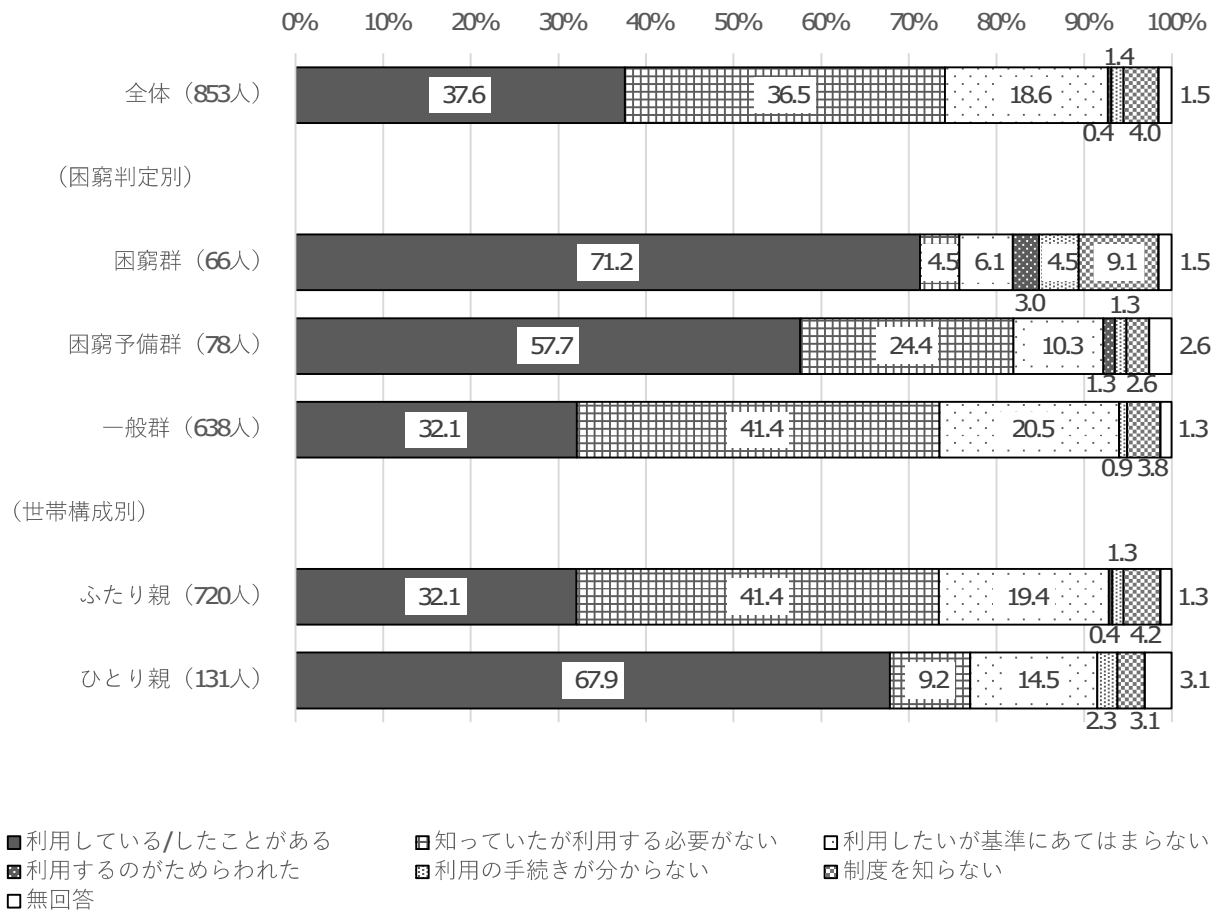


就学援助の利用について、全体では「知っていたが利用する必要がない」が 63.8％で最も高く、「利用している／したことがある」は 7.5％だった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「利用している／したことがある」が高くなり、困窮群は「利用している／したことがある」が 44.3％となった。困窮群は「利用の手続きが分からない」は 4.6％、「制度を知らない」は 9.2％あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「利用している／したことがある」が 49.1％と高かった。

【16～17 歳 保護者】高校生等への修学支援の利用　「問 29-a」



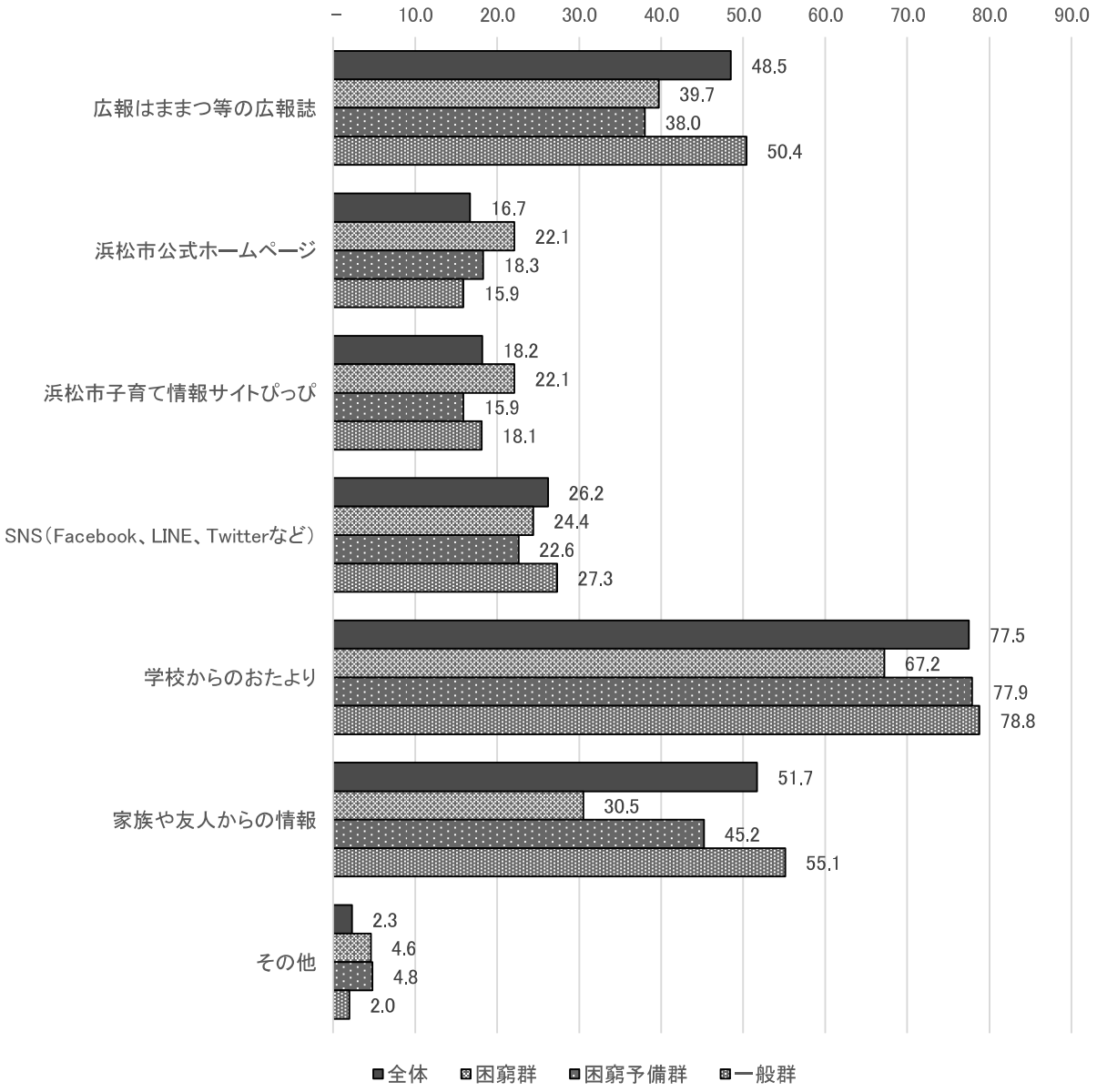
高校生等への修学支援の利用について、全体では「利用している／したことがある」が 37.6%で最も高く、次いで「知っていたが利用する必要がない」（36.5%）だった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「利用している／したことがある」が高くなり、困窮群は「利用している／したことがある」が 71.2%となった。困窮群は「利用の手続きが分からない」は 4.5%、「制度を知らない」は 9.1%あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「利用している／したことがある」が 67.9%と高かった。

②情報収集の現状と今後のニーズ

【小５・中２ 保護者】情報入手方法の現状　「問 28-a」

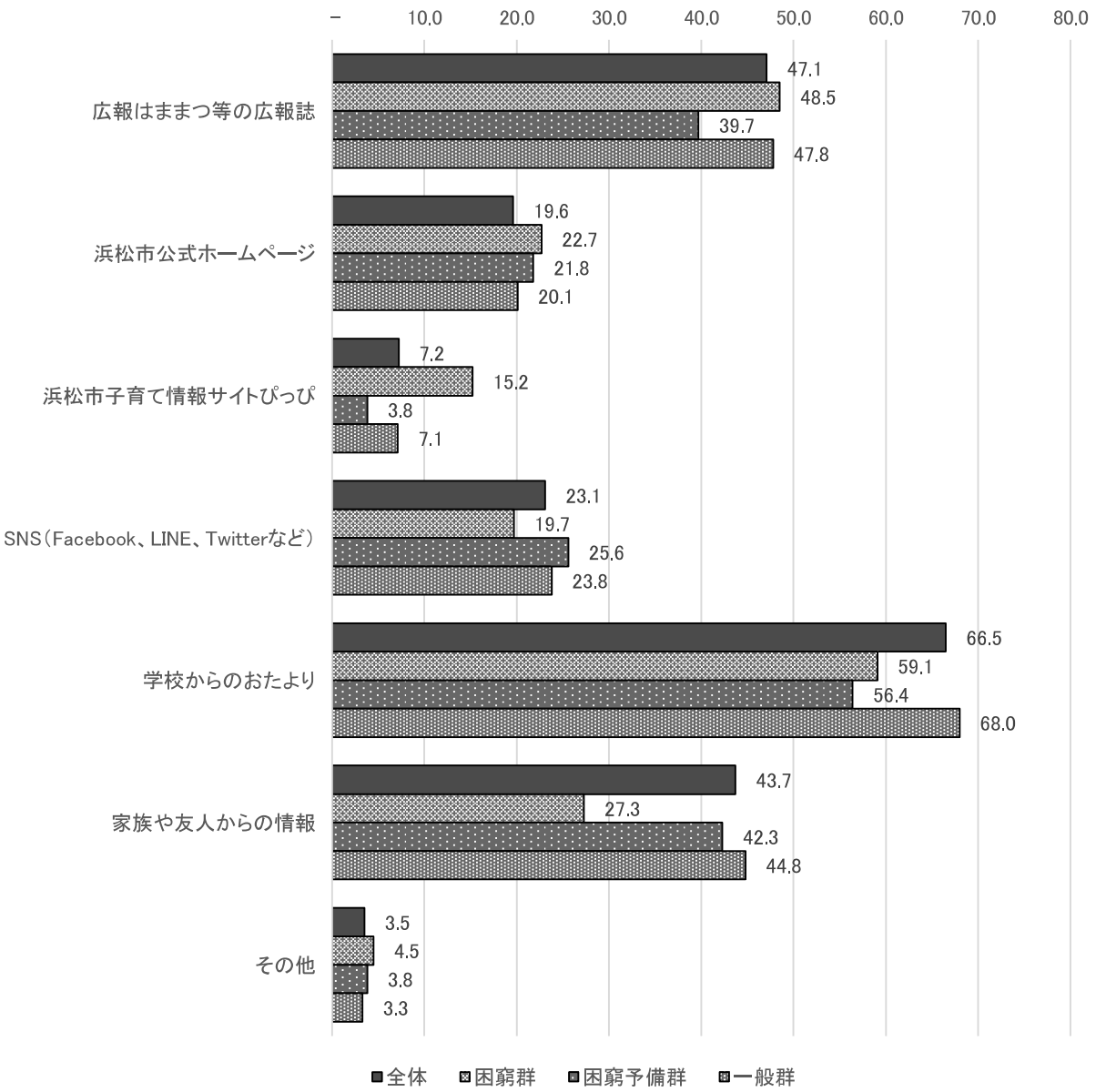


＊「無回答」は非表示

子育て支援策等の現状の情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が 77.5%で最も高く、次いで「家族や友人からの情報」（51.7%）、「広報はままつ等の広報誌」（48.5%）の順に高かった。

困窮群は、「学校からのおたより」「広報はままつ等の広報誌」「家族や友人からの情報」の順に高かった。

【16～17 歳 保護者】情報入手方法の現状　「問 28-a」

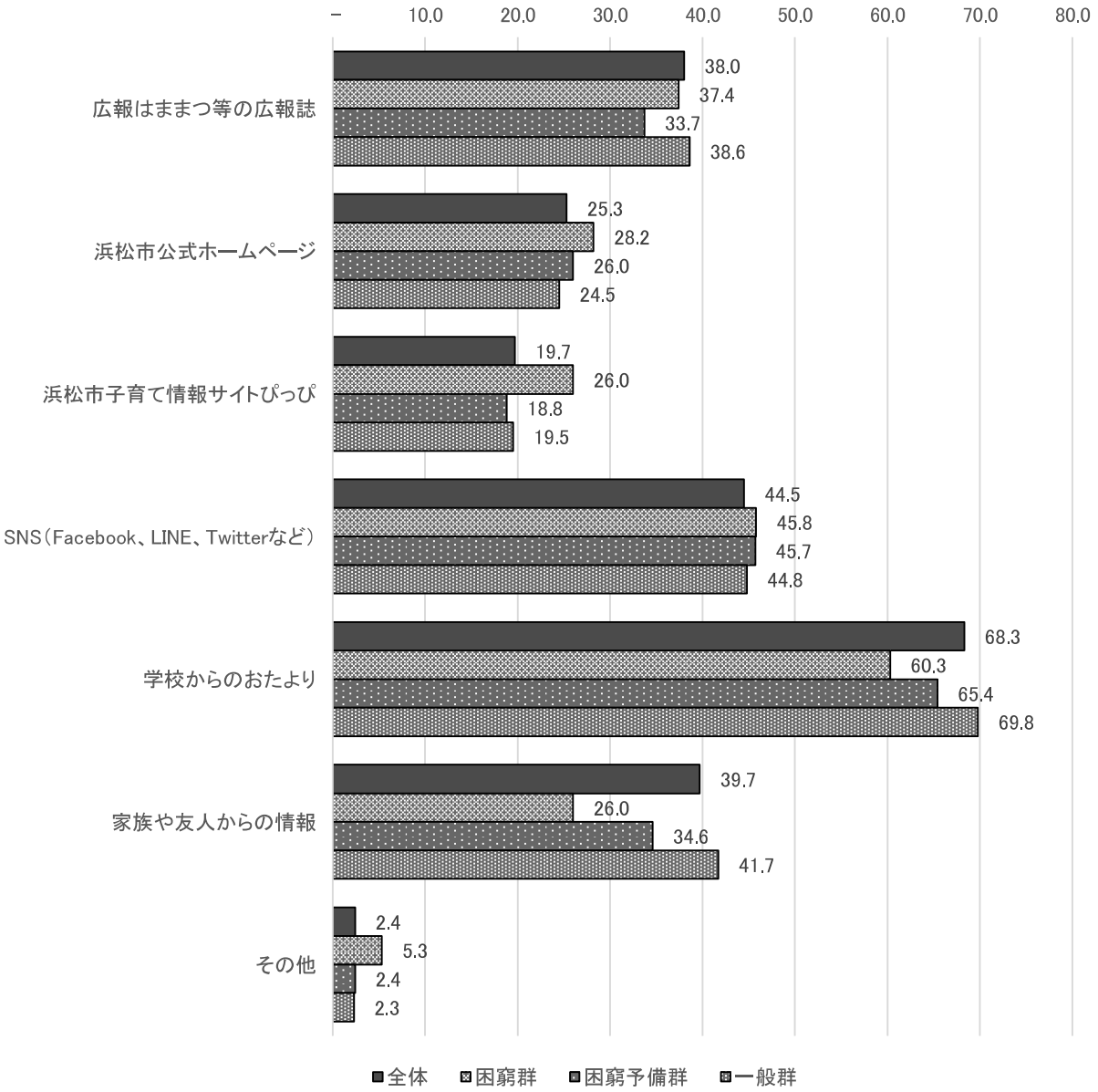


＊「無回答」は非表示

子育て支援策等の現状の情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が 66.5%で最も高く、次いで「広報はままつ等の広報誌」（47.1%）、「家族や友人からの情報」（43.7%）の順に高かった。

困窮群も全体同様、「学校からのおたより」「広報はままつ等の広報誌」「家族や友人からの情報」の順に高かった。

【小５・中２ 保護者】今後希望する情報入手方法　「問 28-ｂ」

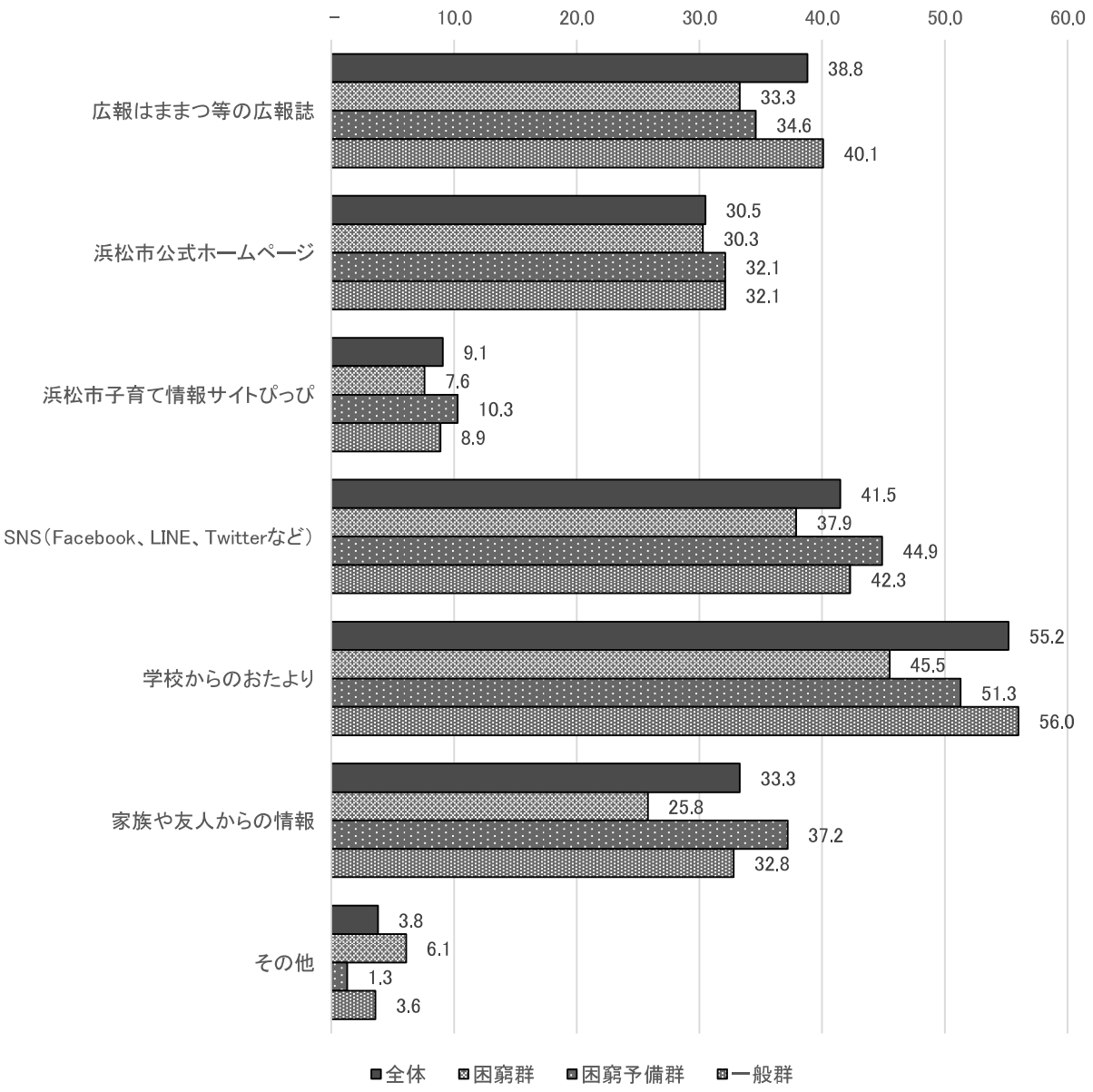


＊「無回答」は非表示

子育て支援策等の今後希望する情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が 68.3％で最も高く、次いで「ＳＮＳ」（44.5％）、「家族や友人からの情報」（39.7％）の順に高かった。「ＳＮＳ」は２番目となり、現状（26.2％）よりも 18.3 ポイント高かった。

困窮群は、「学校からのおたより」「ＳＮＳ」「広報はままつ等の広報誌」の順に高かった。「ＳＮＳ」が現状（24.4％）より 21.4 ポイント高く、「浜松市公式ホームページ」や「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」など、インターネットで情報入手を希望する回答割合が一般群より高かった。

【16～17 歳 保護者】今後希望する情報入手方法　「問 28-ｂ」



＊「無回答」は非表示

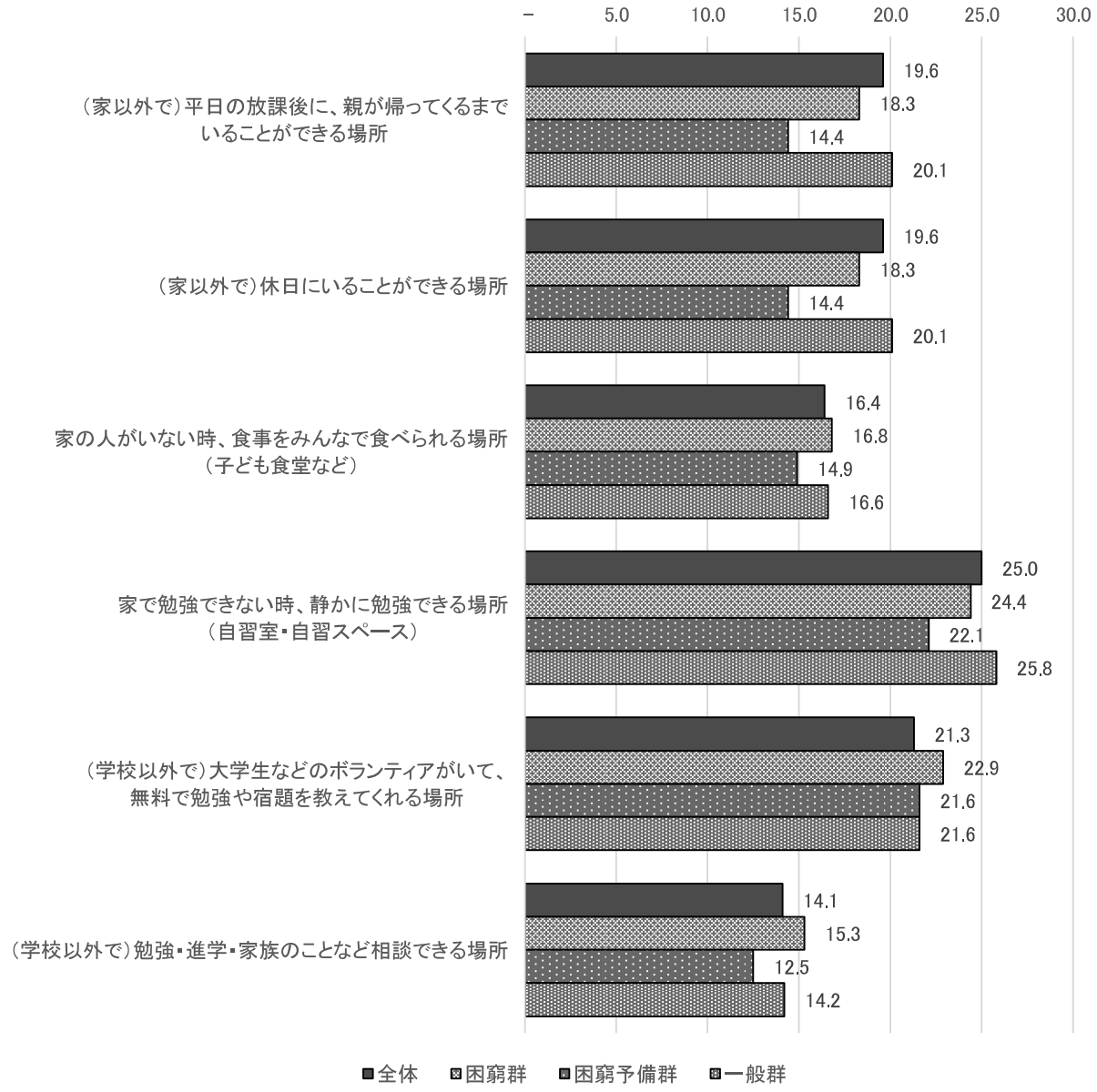
子育て支援策等の今後希望する情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が 55.2%で最も高く、次いで「ＳＮＳ」(41.5%)、「広報はままつ等の広報誌」(38.8%）の順に高かった。「ＳＮＳ」は 2 番目となり、現状（23.1%）よりも 18.4 ポイント高かった。

困窮群は、「学校からのおたより」「ＳＮＳ」「広報はままつ等の広報誌」の順に高かったものの、各種情報入手手段において相対的に回答割合が一番低くなっている。

（4） 貧困対策事業の利用ニーズ

①子どものニーズ

【小５・中２】利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合） 「問 24」

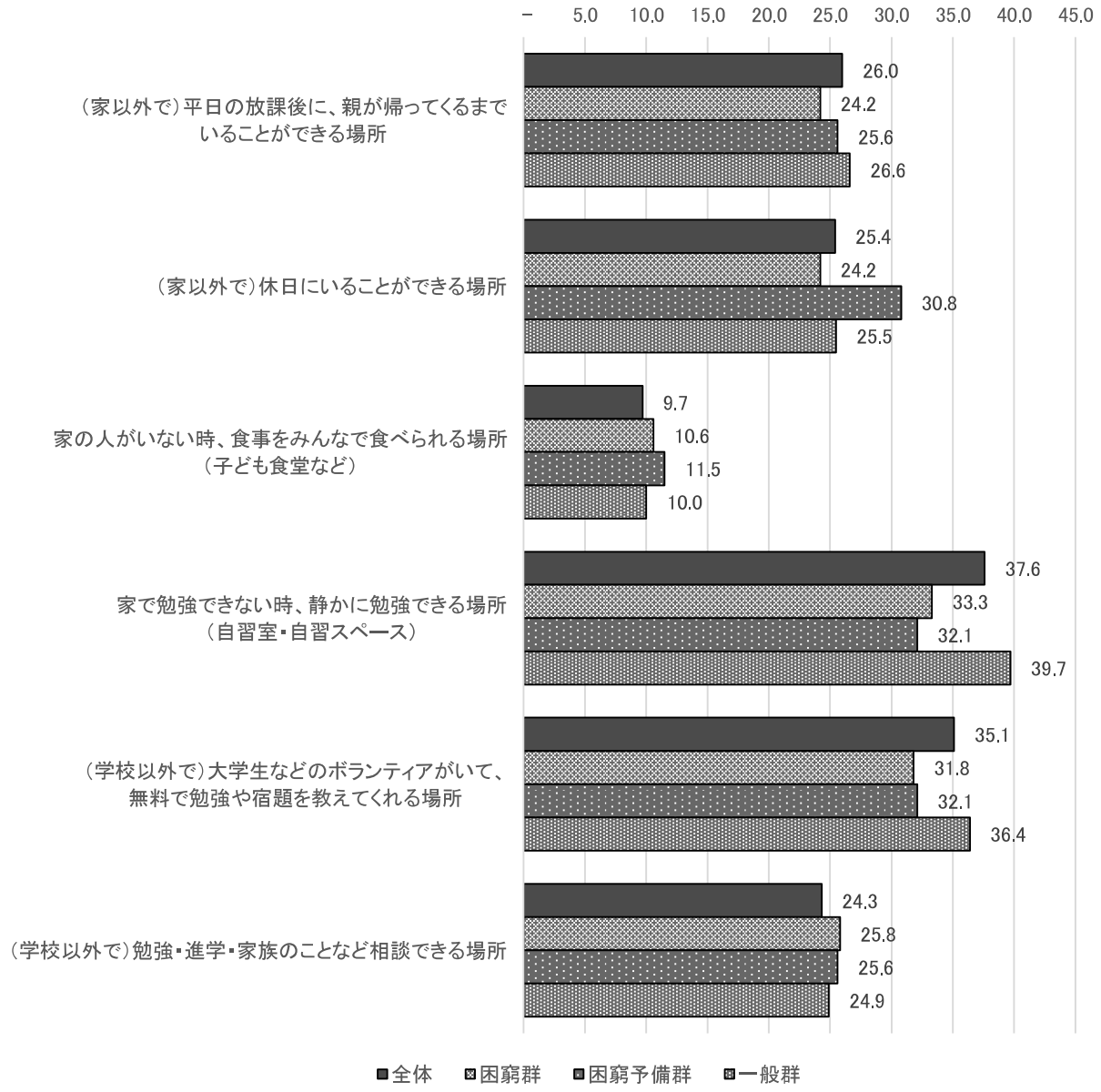


＊「無回答」は非表示

貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「自習室・学習スペース」が 25.0%で最も高く、次いで「学習支援」(21.3%)、「平日の放課後にいることができる場所」「休日にいることができる場所」（19.6%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、「学習支援」は困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。保護者にたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は小さかった。

【16～17 歳】利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）　「問 28」



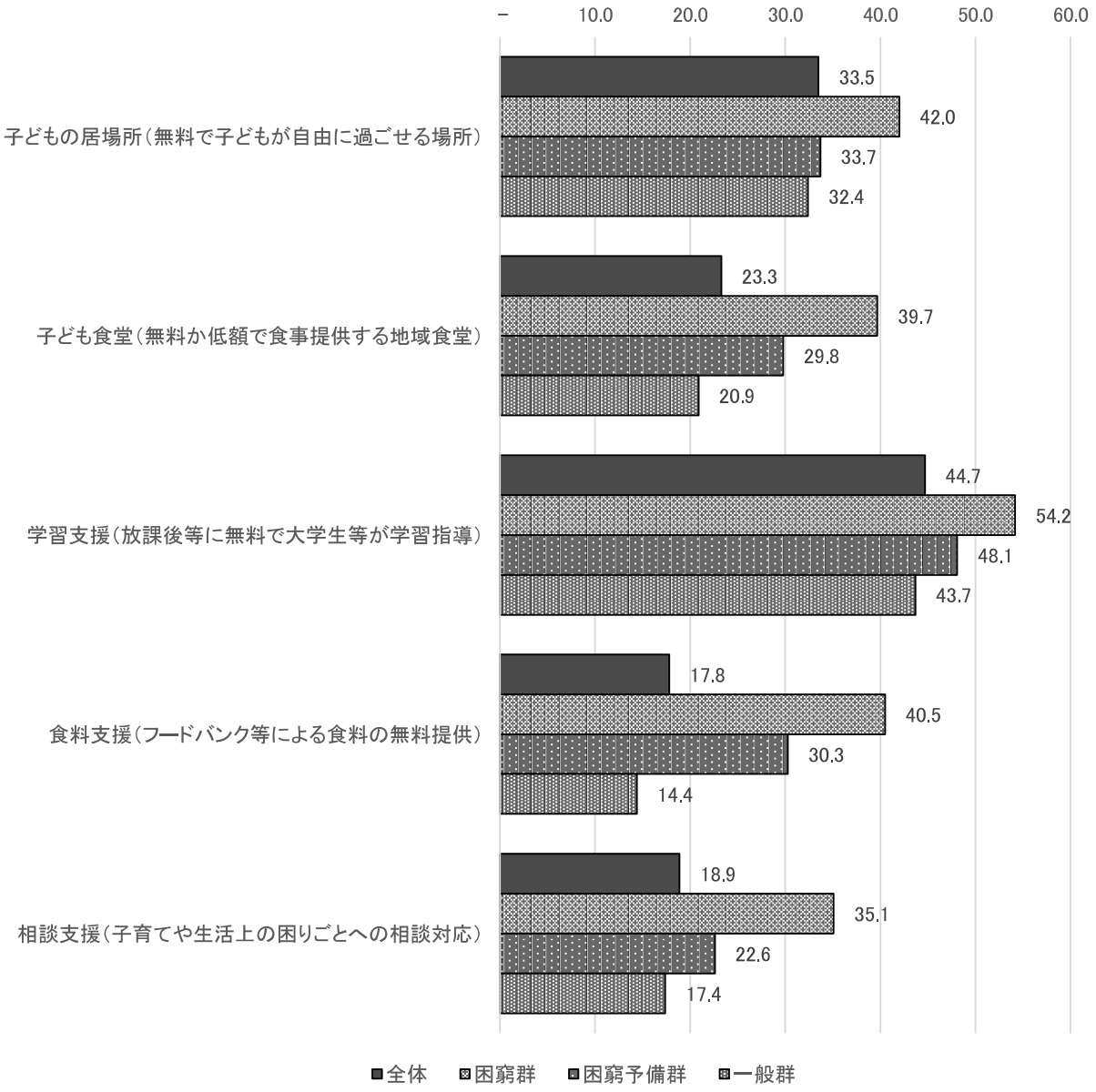
＊「無回答」は非表示

貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「自習室・学習スペース」が 37.6％で最も高く、次いで「学習支援」(35.1％)、「平日の放課後にいることができる場所」(26.0％)の順に高かった。

困窮判定別にみると、「相談場所」は困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。保護者にたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は小さかった。

②保護者のニーズ

【小５・中２ 保護者】利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）　「問 30」

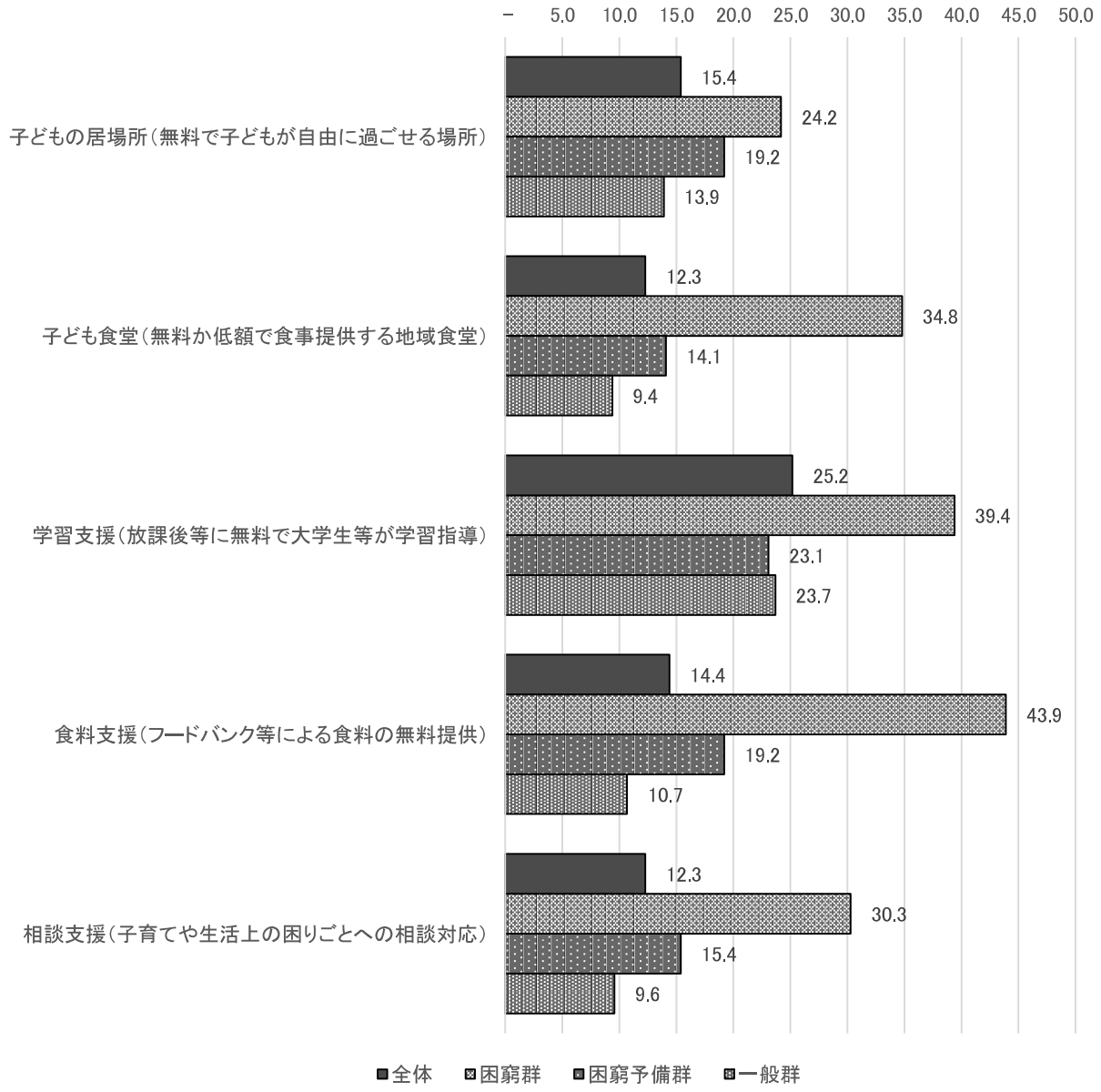


＊「無回答」は非表示

貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「学習支援」が 44.7%で最も高く、次いで「子どもの居場所」（33.5%）、「子ども食堂」（23.3%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、いずれの項目も困窮度合いが高いほど回答割合も高く、子どもにたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は大きかった。困窮群はいずれの項目も回答割合が 3 割を超えている。

【16～17 歳 保護者】利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）　「問 30」



＊「無回答」は非表示

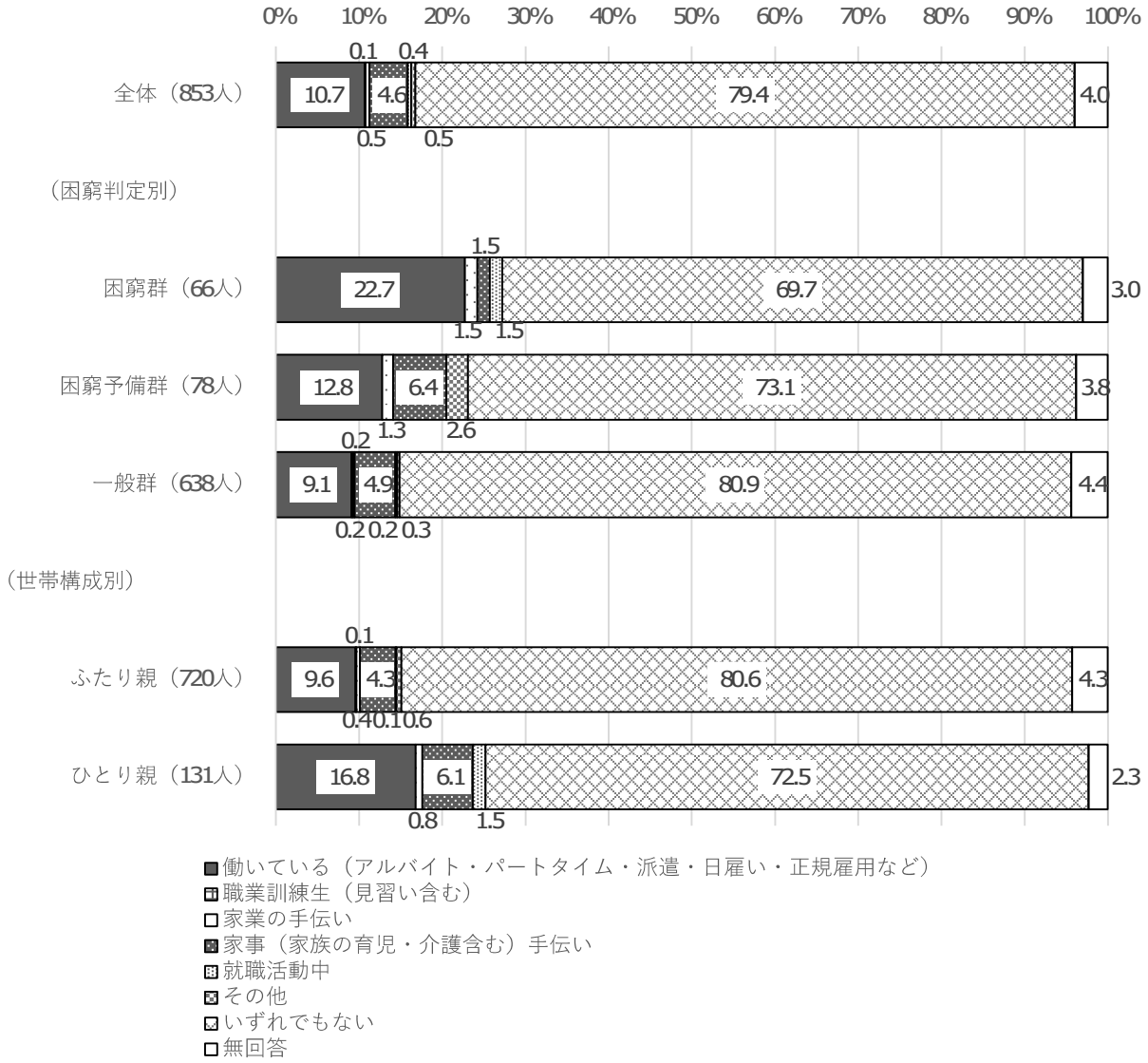
貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「学習支援」が 25.2%で最も高く、次いで「子どもの居場所」（15.4%）、「食料支援」（14.4%）の順に高かった。

困窮判定別にみると、いずれの項目も困窮度合いが高いほど回答割合も概ね高く、子どもにたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は大きかった。困窮群は「子どもの居場所」を除く 4 項目の回答割合が 3 割を超えている。

（5） 16～17 歳の勤労状況

①現在働いているか

【16～17 歳】現在働いているか 「問 2」



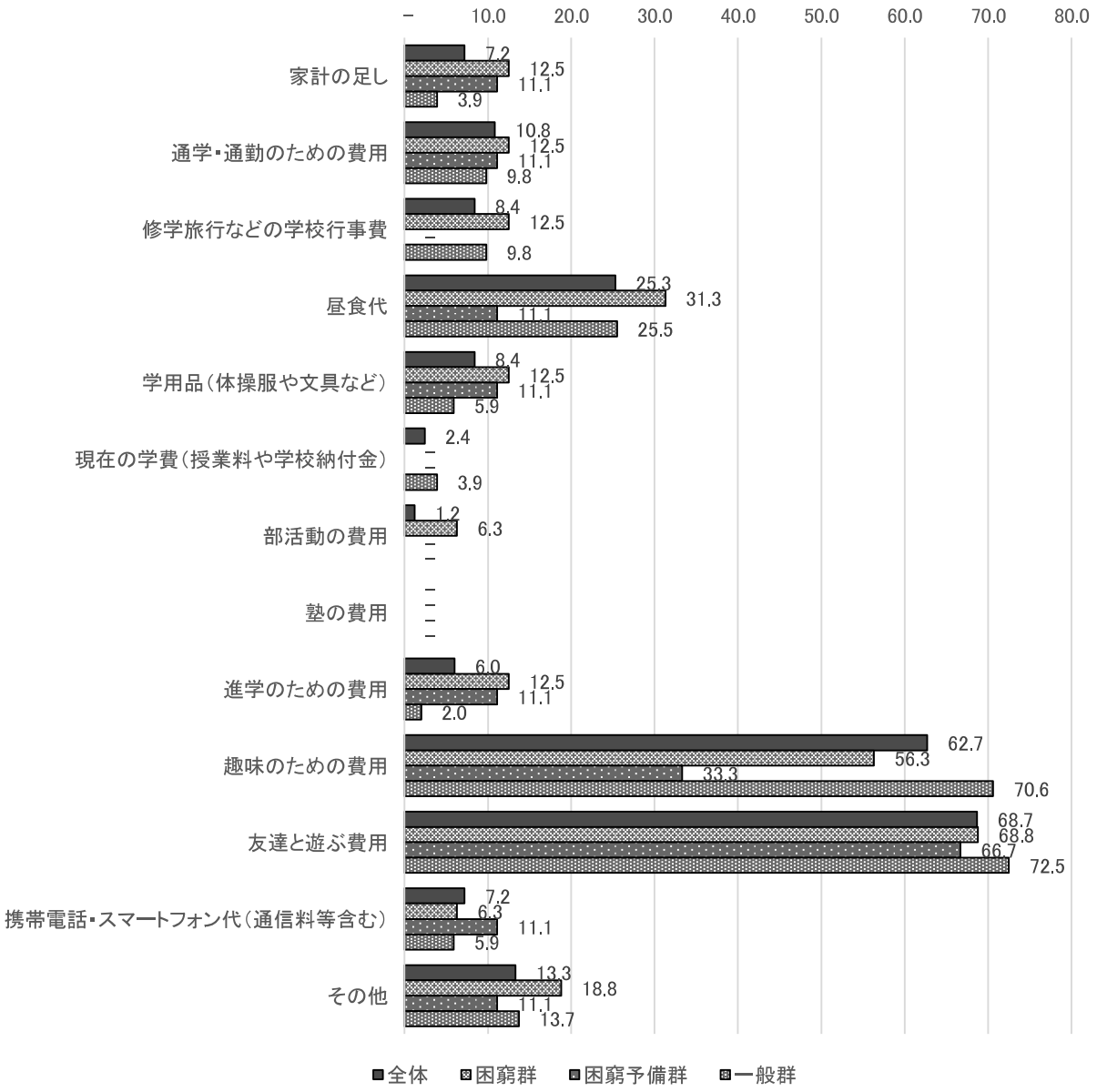
現在働いているかをたずねたところ、全体では「いずれでもない」が 79.4％で最も高く、次いで「働いている」（10.7％）だった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「働いている」が高くなり、困窮群は「働いている」が 22.7％となった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「働いている」が 16.8％と高かった。

②稼いだお金の用途

【16～17 歳】稼いだお金の用途　「問 25」



＊「無回答」は非表示

現在お金を稼いでいる人に、稼いだお金の用途についてたずねたところ、全体では「友達と遊ぶ費用」が 68.7%で最も高く、次いで「趣味のための費用」の 62.7%となった。

「家計の足し」「修学旅行などの学校行事費」「学用品（体操服や文具など）」「進学のための費用」は全体では回答割合が 10%未満となったが、困窮群では回答割合が 10%を超えている。

（6） 自由意見まとめ

①子どもの意見

【小５・中２】浜松市にしてもらいたいこと 「問 26」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

内容	件数
施設（公園、図書館、民間施設等）	195
学校（校則、授業、施設・備品等）	184
お金について	139
環境、防犯、防災	102
夢、進学、職業	98
子どもの居場所	69
浜松市について	64
通学路、交通手段	43
いじめ	38
先生	36
学習支援	26
その他	289

最も多かったのは「施設（公園、図書館、民間施設等)」で 195 件だった。次いで、「学校（校則、授業、施設・備品等)」（184 件)、「お金について」（139 件）の順に多かった。

上記のほかに、「環境、防犯、防災」「夢、進学、職業」も 100 件ほどの回答があった。

最も多かった「施設（公園、図書館、民間施設等)」をさらに細かく分類すると、公園に関しては「子どもだけで行ける公園」「遊具の充実」「ボール遊びができる」や、民間施設に関しては「ショッピングセンター」や「テーマパーク（アミューズメント施設)」の意見が多くみられた。

【16～17 歳】浜松市にしてもらいたいこと　「問 30」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

内容	件数
学習スペース、自習室、居場所	77
施設（公園、図書館、民間施設等）	60
通学路、交通手段	60
浜松市について	47
進学、職業	32
学校（校則、授業、施設・備品等）	21
お金について	19
先生	8
環境、防犯、防災	5
その他	52

最も多かったのは「学習スペース、自習室、居場所」で 77 件だった。次いで、「施設（公園、図書館、民間施設等)」「通学路、交通手段」（60 件）の順に多かった。

上記のほかに、「浜松市について」「進学、職業」も 30 件以上の回答があった。

最も多かった「学習スペース、自習室、居場所」をさらに細かく分類すると、「静かに勉強できる」「無料で利用できる」「図書館よりも長時間利用できる」「自宅周辺」の意見がみられた。

②保護者の自由意見

【小５・中２ 保護者】子どもの成長に必要と思う支援や取り組み　「保護者調査　問 31」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

内容	件数
子育て支援全般の意見	162
教育費（高校・大学等）の無償化・支援等	129
学校・教育関連	127
子どもの居場所・交流等	67
医療費	49
親・家庭の環境、親の教育	46
不登校・障がい・発達支援について	45
学習支援	34
相談支援について	31
施設（公園、図書館、民間施設等）	28
学童保育・放課後児童会	26
ひとり親に関すること	25
安心・安全な地域づくり	24
児童手当	14
いじめ	4
その他	133

最も多かったのは「子育て支援全般の意見」で 162 件だった。次いで、「教育費（高校・大学等）の無償化・支援等」（129 件）、「学校・教育関連」（127 件）の順に多かった。

「子育て支援全般の意見」をさらに細かく分類すると、「給食費無料」「保育料無料」「支援が偏っている」「他自治体のような支援の導入」の意見がみられた。

【16～17 歳 保護者】子どもの成長に必要と思う支援や取り組み　「保護者調査　問 31」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

内容	件数
子育て支援全般の意見	70
教育費（高校・大学など）の無償化・支援等	42
学校・教育関連	29
相談支援について	21
学習スペース、自習室、居場所	15
医療費	11
親・家庭の環境、親の教育	10
不登校・障がい・発達支援について	10
児童手当	7
ひとり親に関すること	5
安心・安全な地域づくり	4
施設（公園、図書館、民間施設等）	4
学習支援	3
いじめ	1
その他	62

最も多かったのは「子育て支援全般の意見」で 70 件だった。次いで、「教育費（高校・大学等）の無償化・支援等」（42 件）、「学校・教育関連」（29 件）の順に多かった。

「子育て支援全般の意見」をさらに細かく分類すると、「平等な支援」「親の収入に関係ない支援」「子どもの人数に応じた支援」の意見がみられた。